

## 【表紙】

【提出書類】 有価証券届出書の訂正届出書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年6月30日

【発行者名】 ルクセンブルク三菱UFJインベスターサービス銀行S.A.  
(Mitsubishi UFJ Investor Services & Banking (Luxembourg)  
S.A.)

【代表者の役職氏名】 デュプティ・チーフ・エグゼクティブ・オフィサー 小林 央明

【本店の所在の場所】 ルクセンブルグ大公国、ルクセンブルグ L - 1150、アーロン通り  
287 - 289番  
(287-289, Route d'Arlon, L-1150 Luxembourg, Grand Duchy of  
Luxembourg)

【代理人の氏名又は名称】 弁護士 中野 春芽

【代理人の住所又は所在地】 東京都千代田区大手町一丁目1番1号 大手町パークビルディング  
アンダーソン・毛利・友常法律事務所外国法共同事業

【事務連絡者氏名】 弁護士 中野 春芽  
同 十枝 美紀子  
同 浅井 耀介

【連絡場所】 東京都千代田区大手町一丁目1番1号 大手町パークビルディング  
アンダーソン・毛利・友常法律事務所外国法共同事業

【電話番号】 03(6775)1000

【届出の対象とした募集(売出)外国投資信託受益証券に係るファンドの名称】  
コクサイ・ケイマン・トラスト  
- 米ドル建 米ドルヘッジ 国際・キャピタル 日本株式オープン  
- 豪ドル建 豪ドルヘッジ 国際・キャピタル 日本株式オープン  
(Kokusai Cayman Trust  
- USD-denominated USD Hedged Kokusai Capital Japan Equity Open  
- AUD-denominated AUD Hedged Kokusai Capital Japan Equity Open)

【届出の対象とした募集(売出)外国投資信託受益証券の金額】  
(イ) 米ドル建 米ドルヘッジ 国際・キャピタル 日本株式オープン  
100億アメリカ合衆国ドル(約1兆448億円)を上限とする。  
(ロ) 豪ドル建 豪ドルヘッジ 国際・キャピタル 日本株式オープン  
107億オーストラリア・ドル(約8,569億円)を上限とする。  
(注) アメリカ合衆国ドル(以下「米ドル」という。)およびオーストラリア・  
ドル(以下「豪ドル」という。)の円貨換算は、便宜上、2021年1月29日  
現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値(1米ドル=  
104.48円および1豪ドル=80.08円)による。

【縦覧に供する場所】 該当事項なし。

## １【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

本日、半期報告書を提出しましたので、2021年３月31日に提出した有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）の関係情報を新たな情報により追加・訂正するため、また記載事項のうち訂正すべき事項がありますのでこれを訂正するため、本訂正届出書を提出するものです。

なお、本訂正届出書の記載事項のうち外貨数字の円換算については、直近の為替レートを用いていますので、訂正前の換算レートとは異なっています。

## ２【訂正の内容】

(１) 半期報告書を提出したことによる原届出書の訂正

原届出書の下記事項については、半期報告書の記載内容＊と同一内容に更新または追加されます。

原届出書		半期報告書		訂正の方法
第二部 第15 ファンド情報 ファンドの状況 運用状況	(1) 投資状況	1 ファンドの運用状況	(1) 投資状況 資産別及び地域別の投資状況	更新
	(2) 投資資産		投資資産	更新
	(3) 運用実績		(2) 運用実績	追加・更新
	(4) 販売及び買戻しの実績	2 販売及び買戻しの実績		追加
第31 ファンドの経理状況 財務諸表		3 ファンドの経理状況		追加
第三部 第11 特別情報 管理会社の概況 管理会社の概況	(1) 資本金の額	4 管理会社の概況	(1) 資本金の額	更新
2 事業の内容及び営業の概況			(2) 事業の内容及び営業の状況	更新
5 その他	(4) 訴訟事件その他の重要事項		(3) その他	追加
3 管理会社の経理状況		5 管理会社の経理の概況		更新

＊ 半期報告書の記載内容は、以下のとおりです。

[次へ](#)

## １ ファンドの運用状況

コクサイ・ケイマン・トラスト - 米ドル建 米ドルヘッジ 国際・キャピタル 日本株式オープン (Kokusai Cayman Trust - USD-denominated USD Hedged Kokusai Capital Japan Equity Open) (以下「米ドル建 米ドルヘッジ」ということがある。) およびコクサイ・ケイマン・トラスト - 豪ドル建 豪ドルヘッジ 国際・キャピタル 日本株式オープン (Kokusai Cayman Trust - AUD-denominated AUD Hedged Kokusai Capital Japan Equity Open) (以下「豪ドル建 豪ドルヘッジ」ということがあり、米ドル建 米ドルヘッジおよび豪ドル建 豪ドルヘッジを個別にまたは総称して「サブ・ファンド」ということがある。) の運用状況は、以下のとおりである。

### ( １ ) 投資状況

#### 資産別及び地域別の投資状況

##### < 米ドル建 米ドルヘッジ >

( 2021年 4 月末日現在 )

資産の種類	国・地域名	時価合計 ( アメリカ合衆国ドル )	投資比率 ( % )
投資信託	ケイマン諸島	24,218,229.07	99.14
現金・その他の資産 ( 負債控除後 )		210,945.10	0.86
合計 ( 純資産価額 )		24,429,174.17 ( 約2,661百万円 )	100.00

##### < 豪ドル建 豪ドルヘッジ >

( 2021年 4 月末日現在 )

資産の種類	国・地域名	時価合計 ( オーストラリア・ドル )	投資比率 ( % )
投資信託	ケイマン諸島	16,042,182.52	99.17
現金・その他の資産 ( 負債控除後 )		133,640.25	0.83
合計 ( 純資産価額 )		16,175,822.77 ( 約1,371百万円 )	100.00

( 注 1 ) 投資比率とは、サブ・ファンドの純資産価額に対する当該資産の時価の比率をいう。以下、別段の記載がない限り同じ。

( 注 2 ) アメリカ合衆国ドル ( 以下「米ドル」という。 ) およびオーストラリア・ドル ( 以下「豪ドル」という。 ) の円貨換算は、便宜上、2021年 4 月30日現在の株式会社三菱ＵＦＪ銀行の対顧客電信売買相場の仲値 ( 1 米ドル = 108.93円および 1 豪ドル = 84.75円 ) による。以下、米ドルおよび豪ドルの円貨表示は、別段の記載がない限り、これによるものとする。

( 注 3 ) コクサイ・ケイマン・トラスト (Kokusai Cayman Trust) ( 以下「ファンド」という。 ) およびサブ・ファンドは、ケイマン諸島の法律に基づいて設立されているが、米ドル建 米ドルヘッジの受益証券は米ドル建、豪ドル建 豪ドルヘッジの受益証券は豪ドル建であるため、以下の金額表示は別段の記載がない限り米ドルまたは豪ドルをもって行う。

( 注 4 ) 本書中で金額および比率を表示する場合、四捨五入して記載してある。したがって、合計の数字が一致しない場合がある。また、円貨への換算は、本書中でそれに対応する数字につき所定の換算率で単純計算の上、必要な場合四捨五入して記載してある。したがって、本書中の同一情報につき異なった円貨表示がなされている場合もある。

## 投資資産

## （ ）投資有価証券の主要銘柄

## &lt;米ドル建 米ドルヘッジ&gt;

（2021年４月末日現在）

順位	銘柄名	国・地域名	種類	数量（口）	簿価（米ドル）		時価（米ドル）		投資比率（％）
					単価	金額	単価	金額	
1.	コクサイ・トラスト・ジャパン・エクイティ・マスター・ファンド 米ドル建 米ドルヘッジクラス	ケイマン諸島	投資信託	129,157	142.25	18,372,459.10	187.51	24,218,229.07	99.14

## &lt;豪ドル建 豪ドルヘッジ&gt;

（2021年４月末日現在）

順位	銘柄名	国・地域名	種類	数量（口）	簿価（豪ドル）		時価（豪ドル）		投資比率（％）
					単価	金額	単価	金額	
1.	コクサイ・トラスト・ジャパン・エクイティ・マスター・ファンド 豪ドル建 豪ドルヘッジクラス	ケイマン諸島	投資信託	85,358	143.69	12,265,096.66	187.94	16,042,182.52	99.17

## &lt;参考情報&gt;

コクサイ・トラスト・ジャパン・エクイティ・マスター・ファンド（以下「投資先ファンド」という。）の組入上位銘柄

（2021年４月末日現在）

順位	銘柄名	発行地	種類	業種	投資比率（％）
1.	信越化学工業株式会社	日本	普通株式	素材	3.79
2.	S M C 株式会社	日本	普通株式	工業	3.52
3.	株式会社日立製作所	日本	普通株式	工業	3.51
4.	塩野義製薬株式会社	日本	普通株式	非耐久消費財	3.12
5.	第一三共株式会社	日本	普通株式	非耐久消費財	3.06
6.	株式会社ニトリホールディングス	日本	普通株式	耐久消費財	2.96
7.	東京エレクトロン株式会社	日本	普通株式	科学技術	2.72
8.	T D K 株式会社	日本	普通株式	工業	2.50
9.	株式会社ベイカレント・コンサルティング	日本	普通株式	科学技術	2.41
10.	株式会社三井住友フィナンシャルグループ	日本	普通株式	金融	2.33
11.	S B I ホールディングス株式会社	日本	普通株式	金融	2.31
12.	ネットワンシステムズ株式会社	日本	普通株式	科学技術	2.28
13.	株式会社大塚商会	日本	普通株式	工業	2.22
14.	株式会社キーエンス	日本	普通株式	工業	2.19
15.	株式会社オービック	日本	普通株式	科学技術	2.09
16.	株式会社小松製作所	日本	普通株式	工業	2.08
17.	東京海上ホールディングス株式会社	日本	普通株式	金融	1.93
18.	株式会社資生堂	日本	普通株式	非耐久消費財	1.79

順位	銘柄名	発行地	種類	業種	投資比率 (%)
19.	浜松ホトニクス株式会社	日本	普通株式	科学技術	1.70
20.	オリックス株式会社	日本	普通株式	金融	1.58
21.	株式会社コスモス薬品	日本	普通株式	耐久消費財	1.56
22.	スズキ株式会社	日本	普通株式	耐久消費財	1.54
23.	ソフトバンクグループ株式会社	日本	普通株式	通信	1.53
24.	アサヒグループホールディングス株式会社	日本	普通株式	非耐久消費財	1.44
25.	大和工業株式会社	日本	普通株式	素材	1.44
26.	株式会社コーセー	日本	普通株式	非耐久消費財	1.38
27.	株式会社デンソー	日本	普通株式	耐久消費財	1.37
28.	日本電産株式会社	日本	普通株式	工業	1.33
29.	株式会社ＬＩＸＩＬグループ	日本	普通株式	工業	1.33
30.	株式会社ネクソン	日本	普通株式	科学技術	1.20

（注１）業種については、ブルームバーグ・インダストリー・セクターに基づいて記載している。

（注２）投資比率とは、投資先ファンドの純資産価額に対する当該資産の時価の比率をいう。

（ ）投資不動産物件

該当事項なし（2021年４月末日現在）。

（ ）その他投資資産の主要なもの

該当事項なし（2021年４月末日現在）。

## ( ２ ) 運用実績

下記の運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではない。

## 純資産の推移

2021年４月末日前１年間における各月末の純資産の推移は、以下のとおりである。

## &lt;米ドル建 米ドルヘッジ&gt;

	純資産価額		１口当たり純資産価格	
	米ドル	円	米ドル	円
2020年５月末日	28,135,515.91	3,064,801,748	0.009727	1.0596
６月末日	26,857,245.32	2,925,559,733	0.009843	1.0722
７月末日	25,965,242.39	2,828,393,854	0.009887	1.0770
８月末日	25,341,701.39	2,760,471,532	0.010147	1.1053
９月末日	25,629,825.25	2,791,856,864	0.010568	1.1512
10月末日	22,682,289.77	2,470,781,825	0.009555	1.0408
11月末日	25,285,604.94	2,754,360,946	0.010803	1.1768
12月末日	25,590,049.29	2,787,524,069	0.010979	1.1959
2021年１月末日	24,530,205.42	2,672,075,276	0.010823	1.1789
２月末日	24,279,943.64	2,644,814,261	0.011017	1.2001
３月末日	24,968,556.15	2,719,824,821	0.011517	1.2545
４月末日	24,429,174.17	2,661,069,942	0.011343	1.2356

( 注 ) 上記「純資産価額」および「１口当たり純資産価格」の数値は、評価日付で公表された純資産価額および１口当たり純資産価格を記載しており、財務書類の数値と異なる場合がある。以下同じ。

## &lt;豪ドル建 豪ドルヘッジ&gt;

	純資産価額		１口当たり純資産価格	
	豪ドル	円	豪ドル	円
2020年５月末日	19,229,358.75	1,629,688,154	0.009268	0.7855
６月末日	19,351,748.28	1,640,060,667	0.009342	0.7917
７月末日	19,047,406.18	1,614,267,674	0.009360	0.7933
８月末日	18,082,208.08	1,532,467,135	0.009598	0.8134
９月末日	18,122,791.65	1,535,906,592	0.009994	0.8470
10月末日	16,923,048.49	1,434,228,360	0.009554	0.8097
11月末日	18,266,573.76	1,548,092,126	0.010790	0.9145
12月末日	16,905,552.51	1,432,745,575	0.010940	0.9272
2021年１月末日	16,735,183.32	1,418,306,786	0.010778	0.9134
２月末日	16,710,417.60	1,416,207,892	0.010959	0.9288
３月末日	16,982,386.27	1,439,257,236	0.011433	0.9689
４月末日	16,175,822.77	1,370,900,980	0.011243	0.9528

## &lt; 参考情報 &gt;

純資産価額および1口当たり純資産価格の推移(2014年2月19日～2021年4月末日)



(注) 課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格は、各収益分配金(課税前)をその分配を行う日に全額再投資したと仮定して算出したものであり、公表されている1口当たり純資産価格とは異なる。以下同じ。

## 分配の推移

下記期間における１口当たり分配金の額（課税前）は、以下のとおりである。

## &lt;米ドル建 米ドルヘッジ&gt;

	米ドル	円
2020年５月１日～2021年４月末日	0.000746	0.0813

## &lt;豪ドル建 豪ドルヘッジ&gt;

	豪ドル	円
2020年５月１日～2021年４月末日	0.000159	0.0135

## &lt;参考情報&gt;

## 分配の推移

## 米ドル建 米ドルヘッジ

(1口当たり、課税前)

	米ドル
第1会計年度 (2014年2月19日～2014年9月末日)	該当事項なし
第2会計年度 (2014年10月1日～2015年9月末日)	0.000080
第3会計年度 (2015年10月1日～2016年9月末日)	0.000896
第4会計年度 (2016年10月1日～2017年9月末日)	0
第5会計年度 (2017年10月1日～2018年9月末日)	0.001538
第6会計年度 (2018年10月1日～2019年9月末日)	0.000596
第7会計年度 (2019年10月1日～2020年9月末日)	0
2016年10月	0
2017年10月	0.001538
2018年10月	0.000596
2019年10月	0
2020年10月	0.000746
直近1年間累計	0.000746
設定来累計	0.003856

## 豪ドル建 豪ドルヘッジ

(1口当たり、課税前)

	豪ドル
第1会計年度 (2014年2月19日～2014年9月末日)	該当事項なし
第2会計年度 (2014年10月1日～2015年9月末日)	0.000160
第3会計年度 (2015年10月1日～2016年9月末日)	0.000898
第4会計年度 (2016年10月1日～2017年9月末日)	0
第5会計年度 (2017年10月1日～2018年9月末日)	0.001626
第6会計年度 (2018年10月1日～2019年9月末日)	0.000509
第7会計年度 (2019年10月1日～2020年9月末日)	0
2016年10月	0
2017年10月	0.001626
2018年10月	0.000509
2019年10月	0
2020年10月	0.000159
直近1年間累計	0.000159
設定来累計	0.003352

(注) 直近1年間累計とは、2020年5月1日から2021年4月末日までの期間における1口当たり分配金の累計額であり、設定来累計とは、運用開始日である2014年2月19日から2021年4月末日までの期間における1口当たり分配金の累計額である。



## 収益率の推移

下記期間における収益率は、以下のとおりである。

## &lt;米ドル建 米ドルヘッジ&gt;

	収益率(注)
2020年5月1日～2021年4月末日	35.31%

## &lt;豪ドル建 豪ドルヘッジ&gt;

	収益率(注)
2020年5月1日～2021年4月末日	33.67%

(注) 収益率(%) =  $100 \times (a - b) / b$

a = 2021年4月末日現在の1口当たり純資産価格(当該期間中の分配金の合計額を加えた額)

b = 2020年4月末日現在の1口当たり純資産価格(分配落ちの額)

## &lt;参考情報&gt;

## 年間収益率の推移



(注1) 収益率(%) =  $100 \times (a - b) / b$

a = 各暦年末現在の課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格

b = 当該各暦年の直前の各暦年末現在の課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格(ただし、2014年の場合は当初発行価格(米ドル建米ドルヘッジについては1口当たり0.01米ドル、また豪ドル建 豪ドルヘッジについては1口当たり0.01豪ドル))

(注2) 2014年については、2月19日(運用開始日)から12月末日までの収益率を記載しており、また2021年については、1月1日から4月末日までの収益率を記載している。

(注3) サブ・ファンドにベンチマークはない。

## ２ 販売及び買戻しの実績

2021年４月末日前１年間における販売および買戻しの実績、ならびに2021年４月末日現在の受益証券の発行済口数は、以下のとおりである。

### <米ドル建 米ドルヘッジ>

	販売口数	買戻し口数	発行済口数
2020年５月１日～ 2021年４月末日	145,304,647 ( 145,304,647 )	884,213,110 ( 884,213,110 )	2,153,686,827 ( 2,153,686,827 )

### <豪ドル建 豪ドルヘッジ>

	販売口数	買戻し口数	発行済口数
2020年５月１日～ 2021年４月末日	168,428,180 ( 168,428,180 )	811,135,361 ( 811,135,361 )	1,438,755,639 ( 1,438,755,639 )

（注）（ ）の数は本邦における販売・買戻しおよび発行済口数である。

[次へ](#)

### ３ ファンドの経理状況

#### （Ａ）コクサイ・ケイマン・トラスト - 米ドル建 米ドルヘッジ 国際・キャピタル 日本株式オープン

- a．サブ・ファンドの日本文の中間財務書類は、アメリカ合衆国において一般に公正と認められる会計原則に準拠して作成された原文（英文）の中間財務書類を翻訳したものである（ただし、円換算部分を除く。）。これは「特定有価証券の内容等の開示に関する内閣府令」（平成５年大蔵省令第22号。その後の改正を含む。）に基づき、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号。その後の改正を含む。）第76条第４項ただし書の規定の適用によるものである。
- b．サブ・ファンドの原文の中間財務書類は、外国監査法人等（公認会計士法（昭和23年法律第103号。その後の改正を含む。）第１条の３第７項に規定する外国監査法人等をいう。）の監査を受けていない。
- c．サブ・ファンドの原文の中間財務書類は、アメリカ合衆国ドル（以下「米ドル」という。）で表示されている。日本文の中間財務書類には、主要な金額について円換算額が併記されている。日本円への換算には、2021年４月30日現在における株式会社三菱ＵＦＪ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（１米ドル＝108.93円）が使用されている。なお、千円未満の金額は四捨五入されている。日本円に換算された金額は四捨五入のため合計欄の数値が総数と一致しない場合がある。

[次へ](#)

## (1) 資産及び負債の状況

コクサイ・ケイマン・トラスト -  
米ドル建 米ドルヘッジ 国際・キャピタル 日本株式オープン  
(ケイマン諸島籍 オープン・エンド型投資信託)

## 資産負債計算書

2021年3月31日現在(未監査)

	米ドル	千円
資産		
投資先ファンドへの投資(原価:18,471,804米ドル)	24,720,254	2,692,777
現金	350,201	38,147
未収金:		
サブ・ファンド受益証券販売	210,068	22,883
投資有価証券売却	113,129	12,323
その他の資産	5,299	577
資産合計	25,398,951	2,766,708
負債		
未払金:		
投資有価証券購入	205,867	22,425
サブ・ファンド受益証券買戻し	113,865	12,403
未払販売報酬	43,341	4,721
未払投資顧問報酬	20,929	2,280
未払専門家報酬	18,152	1,977
未払印刷費用	17,118	1,865
未払代行協会員報酬	3,096	337
未払保管報酬	2,619	285
未払管理報酬	2,476	270
未払受託報酬	1,616	176
未払管理事務代行報酬および名義書換事務代行報酬	1,316	143
負債合計	430,395	46,883
純資産	24,968,556	2,719,825
純資産		
米ドル建 米ドルヘッジクラス	24,968,556	2,719,825
発行済受益証券口数		
米ドル建 米ドルヘッジクラス	2,168,041,785 口	
受益証券1口当たり純資産価格	米ドル	円
米ドル建 米ドルヘッジクラス	0.011517	1.2545

注記は、財務書類と不可分のものである。

コクサイ・ケイマン・トラスト -  
米ドル建 米ドルヘッジ 国際・キャピタル 日本株式オープン  
(ケイマン諸島籍 オープン・エンド型投資信託)  
損益計算書

2021年３月31日までの６か月間（未監査）

	米ドル	千円
費用		
販売報酬	86,765	9,451
投資顧問報酬	43,382	4,726
管理事務代行報酬および名義書換事務代行報酬	23,678	2,579
専門家報酬	19,714	2,147
保管報酬	13,250	1,443
登録費用	7,921	863
代行協会員報酬	6,197	675
受託報酬	4,987	543
管理報酬	4,958	540
印刷費用	786	86
費用合計	211,638	23,054
投資純損失	(211,638)	(23,054)
実現および未実現利益（損失）		
実現純利益（損失）：		
投資先ファンドの売却	1,065,951	116,114
実現純利益	1,065,951	116,114
未実現評価益（評価損）の純変動：		
投資先ファンドへの投資	3,076,702	335,145
未実現評価益の純変動	3,076,702	335,145
実現および未実現純利益	4,142,653	451,259
運用による純資産の純増加	3,931,015	428,205

注記は、財務書類と不可分のものである。

コクサイ・ケイマン・トラスト -  
米ドル建 米ドルヘッジ 国際・キャピタル 日本株式オープン  
(ケイマン諸島籍 オープン・エンド型投資信託)  
純資産変動計算書  
2021年３月31日までの６か月間（未監査）

	米ドル	千円
運用による純資産の純増加（減少）		
投資純損失	(211,638)	(23,054)
実現純利益	1,065,951	116,114
未実現評価益の純変動	3,076,702	335,145
運用による純資産の純増加	3,931,015	428,205
受益者への分配	(1,777,635)	(193,638)
サブ・ファンド受益証券取引による純資産の純減少	(2,789,061)	(303,812)
純資産の純減少	(635,681)	(69,245)
純資産		
期首	25,604,237	2,789,070
期間末	24,968,556	2,719,825

米ドル建 米ドルヘッジクラス

サブ・ファンドの受益証券取引		
受益証券口数		
発行	115,109,781 口	
買戻し	(369,913,517) 口	
受益証券口数の純変動	(254,803,736) 口	
金額		
発行	1,295,006 米ドル	141,065 千円
買戻し	(4,084,067) 米ドル	(444,877) 千円
サブ・ファンドの受益証券取引による純減少	(2,789,061) 米ドル	(303,812) 千円

注記は、財務書類と不可分のものである。

コクサイ・ケイマン・トラスト -  
米ドル建 米ドルヘッジ 国際・キャピタル 日本株式オープン  
(ケイマン諸島籍 オープン・エンド型投資信託)  
財務ハイライト  
2021年３月31日までの６か月間（未監査）

受益証券１口当たりデータ（要約）

	米ドル建 米ドルヘッジクラス	
	米ドル	円
期首１口当たり純資産価格	0.010568	1.1512
投資純損失±	(0.000092)	(0.0100)
投資による実現および未実現純利益	0.001787	0.1947
投資運用による利益合計	0.001695	0.1846
受益者への分配	(0.000746)	(0.0813)
期間末１口当たり純資産価格	0.011517	1.2545
トータル・リターン <sup>(1)</sup>	17.07 %	
期間末純資産	24,968,556	2,719,824,805
平均純資産に対する費用比 <sup>(2)</sup>	1.59 %	
平均純資産に対する投資純損失比率 <sup>(2)</sup>	(1.59) %	

± 当期間の平均発行済受益証券口数に基づいて計算された。

(1) トータル・リターンは、再投資された分配金（もしあれば）の影響を踏まえたものである。

(2) 専門家報酬および設立費用を除き、１年未満の期間については年換算している。

注記は、財務書類と不可分のものである。

コクサイ・ケイマン・トラスト - 米ドル建 米ドルヘッジ 国際・キャピタル 日本株式オープン  
(ケイマン諸島籍 オープン・エンド型投資信託)

財務書類に対する注記

2021年3月31日現在(未監査)

1. 組織

米ドル建 米ドルヘッジ 国際・キャピタル 日本株式オープン(以下「サブ・ファンド」という。)は、コクサイ・ケイマン・トラスト(以下「ファンド」という。)のサブ・ファンドであり、ケイマン諸島(以下「ケイマン諸島」という。)のオープン・エンド型投資信託として2010年8月3日に設立された。ファンドは、ブラウン・ブラザーズ・ハリマン・トラスト・カンパニー(ケイマン)リミテッド(以下「受託会社」という。)およびルクセンブルク三菱UFJインベスターサービス銀行S.A.(以下「管理会社」という。)の間で締結された2010年8月3日付信託証書に従って、ケイマン諸島の法律に基づいて設立された。サブ・ファンドは、2014年2月19日に運用を開始した。

受託会社は、ケイマン諸島の銀行・信託会社法(その後の改正を含む。)に基づいて信託会社として業務を行う免許を受けている。

ファンドは、ケイマン諸島のミューチュアル・ファンド法(改正済)(以下「ミューチュアル・ファンド法」という。)に基づく投資信託として登録されており、したがって、ミューチュアル・ファンド法に従い規制される。規制ミューチュアル・ファンドとして、ファンドはケイマン諸島金融庁の監督を受ける。

サブ・ファンドの投資目的は、コクサイ・トラスト(以下「投資先ファンド」という。)のシリーズの一つであるジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの米ドル建 米ドルヘッジクラスへの投資を通じて、信託財産の成長を目指すことである。投資先ファンドは、主として日本の金融商品取引所に上場している株式等(同様の金融商品を含む。)に投資する。サブ・ファンドは、資産のほぼすべてを投資先ファンドに投資することにより、投資目的の達成を追求する。したがって、サブ・ファンドは、ファンド・オブ・ファンズの形態で構成されている。本書中のこれに反する記載に関わらず、サブ・ファンドまたは受益者の利益になると判断される場合、サブ・ファンドの資産が株式および確定利付証券を含むその他の有価証券に投資されることがある。

サブ・ファンドは、ASC 946における指針の解釈に基づく投資会社としての定義に合致している。

サブ・ファンドの投資顧問会社は、三菱UFJ国際投信株式会社(以下「投資顧問会社」という。)である。

2. 重要な会計方針

サブ・ファンドの財務書類は、2020年10月1日から2021年3月31日までの期間を反映している。以下は、サブ・ファンドが、アメリカ合衆国において一般に公正と認められる会計原則(以下「U.S. GAAP」という。)に準拠した財務書類を作成するにあたり継続して従っている重要な会計方針の要約である。U.S. GAAPに準拠した財務書類の作成は、財務書類上の報告金額および開示に影響を及ぼす見積りおよび仮定を行うことを経営者に要求している。実際の結果は、これらの見積りと異なることがある。



#### (A) 受益証券の純資産価額の決定

サブ・ファンドの純資産価額は、毎「営業日」（（１）ロンドン、ニューヨークおよび東京において国、州もしくは地域の銀行が営業を行っている日で、かつ（２）ロンドン証券取引所およびニューヨーク証券取引所が取引を行っている日、または管理会社が随時決定するその他の日をいう。）および管理会社が決定するその他の日（それぞれ「決算日」という。）に計算される。サブ・ファンドの純資産価額（以下「純資産価額」という。）は、管理事務代行報酬、弁護士報酬、監査報酬ならびにその他の専門家報酬および費用を含むがこれに限定されないサブ・ファンドのすべての資産および負債を考慮して計算される。サブ・ファンドの純資産価額および受益証券１口当たり純資産価格は、ブラウン・ブラザーズ・ハリマン・アンド・カンパニー（以下「管理事務代行会社」および「名義書換事務代行会社」という。）によって、各営業日の営業終了時点において小数第６位まで四捨五入して計算される。

#### (B) 公正価値測定

サブ・ファンドは、Ｕ．Ｓ．ＧＡＡＰに基づく公正価値測定および開示に関する権威ある指針に従って、公正価値測定に使用される評価技法へのインプットを優先順位付けする階層における投資の公正価値を開示している。この階層は、同一の資産または負債の活発な市場における未調整の公表価格に基づく評価を最も高い優先順位（レベル１測定）とし、評価にとって重要な観察不能なインプットに基づく評価を最も低い優先順位（レベル３測定）としている。当該指針が設定する３つのレベルの公正価値のヒエラルキーは以下の通りである。

- ・レベル１ - 公正価値測定には、同一の資産または負債の活発な市場における未調整の公表価格が用いられる。
- ・レベル２ - 公正価値測定には、レベル１に含まれる公表価格以外のインプットで、資産または負債に関して直接的（すなわち、価格）または間接的（すなわち、価格から派生するもの）に観察可能なものが用いられる。
- ・レベル３ - 公正価値測定には、観察可能な市場データに基づかない資産または負債のインプット（観察不能なインプット）を含む評価技法が用いられる。

インプットは、多様な評価技法の適用に使用されるものであり、概して、市場参加者が評価の決定に用いる仮定（リスクの仮定を含む。）のことをいう。インプットは、価格情報、具体的かつ広範な信用情報、流動性統計ならびにその他の要素を含むことがある。公正価値ヒエラルキーにおける金融商品のレベルは、公正価値測定において重要なインプットの最低レベルに基づいている。ただし、いかなる場合に「観察可能」であるかの決定には、投資顧問会社による重大な判断が要求される。投資顧問会社は、観察可能データとは、容易に入手可能な、定期的に配布されるまたは更新される、信頼できかつ検証可能な、非占有の、また該当市場に積極的に参加する独立した情報源によって提供された市場データであると考えている。ヒエラルキーにおける金融商品の分類は、商品の価格決定の透明性に基づいており、認識される当該商品のリスクと必ずしも一致しない。

2021年３月31日現在、投資先ファンドに対する投資は、レベル１およびレベル２インプットに基づき評価された。サブ・ファンドは、投資先ファンドおよびデリバティブに対する投資を評価するために「マーケット・アプローチ」による評価技法を使用している。サブ・ファンドは、投資会社に特化した会計指針に従って１口当たり純資産価格を計算する投資先ファンドに対する投資の公正価値の見積りのためにＵ．Ｓ．ＧＡＡＰの下で権威ある指針に従う。したがって、サブ・ファンドが投資の１口当たり純資産価格が公正価値を示すと決定した場合、サブ・ファンドは、さらなる調整を行っていない当該投資の１口当たり純資産価格（またはそれと同等のもの。）を使用して投資会社に対する投資の公正価格を計上する（以下「現実的手段」という。）。当該指針は、報告事業体の測定日現在、投資会社に特化した会計指針に従って投資の１口当たり純資産価格を決めた場合のみサブ・ファンドが現実的手段を用

いることを許容する。投資先ファンドに対する投資は、各営業日の最終純資産価額に基づく公正価値で評価される。

#### デリバティブ商品

デリバティブ商品は、取引所取引または店頭（以下「ＯＴＣ」という。）での相対取引が可能である。上場デリバティブ（例えば、先物契約および上場オプション契約）は通常、それらが活発に取引されているとみなされるか否かに応じて公正価値階層のレベル１またはレベル２に分類される。

ＯＴＣデリバティブ（外国為替予約取引を含む。）は、入手可能かつ信頼性があると考えられる場合はいつでも、観察可能なインプット（取引相手方、ディーラーまたはブローカーから受領した相場）を用いて評価される。評価モデルが使用される場合、ＯＴＣデリバティブの価値は、金融商品の契約条件および同商品に内在する固有のリスク、ならびに観察可能なインプットの入手可能性および信頼性に左右される。かかるインプットには参照有価証券の市場価格、イールド・カーブ、クレジット・カーブおよび当該インプットの相関性が含まれる。一般的な外国為替予約取引のような店頭デリバティブは、市場データによる裏付けが通常可能なインプットを有しているため、レベル２として分類される。

これらのＯＴＣデリバティブのうちインプットが観察不能なものはレベル３に分類される。これらのＯＴＣデリバティブの評価に、レベル１および／またはレベル２のインプットが利用される場合がある一方、これらの評価には公正価値の決定にとって重要と考えられる他の観察不能なインプットも含まれる。

以下は、2021年３月31日現在、評価ヒエラルキーの範囲内で項目ごとおよびレベルごとに資産負債計算書に計上された金融商品を示す\*。

投資対象*：	同一の投資対象 の活発な市場に おける（未調整 の）公表価格 （レベル１）	その他の重大な 観察可能な インプット （レベル２）	重大な 観察不能な インプット （レベル３）	純資産価格で 測定される 投資対象	2021年３月31日 現在の公正価値
投資先ファンドへの投資					
ジャパン・エクイティ・マスタート・ファンド（コクサイ・トラストのサブ・ファンド）- 米ドル建 米ドルヘッジクラス	\$ -	\$ -	\$ -	\$ 24,720,254	\$ 24,720,254
投資先ファンドへの投資合計	\$ -	\$ -	\$ -	\$ 24,720,254	\$ 24,720,254

\* 有価証券の分類に関するより詳細な情報は、投資有価証券明細表に記載されている。

2021年3月31日に終了した6か月間において、レベル3への、またはレベル3からの移動はなかった。サブ・ファンドは、各レベルから移動した投資有価証券があれば期間末に会計処理を行う。

#### (C) 投資取引および投資収益

財務報告の目的上、投資先ファンドの売買は約定日現在で計上される。損益は個別法に基づき報告される。投資先ファンドからの収益または実現利益の分配は、分配落日に計上される。投資先ファンドによる元本の払戻しに係る分配は投資原価の減額として計上される。

#### (D) 費用

サブ・ファンドは、投資顧問報酬、管理事務代行報酬および会計報酬、保管報酬、名義書換事務代行報酬、監査報酬およびサブ・ファンドの運用に関連するその他の費用を含むが、これらに限定されない自己の費用を負担する。費用項目は発生主義に基づき計上される。

#### (E) 分配方針

管理会社は、その裁量により、2014年10月以降（または、管理会社が決定するこれより後の年以降）、毎年10月14日（当該日が営業日でない場合には翌営業日）に純投資収益、純実現および未実現キャピタル・ゲインならびに分配可能な元本から分配を宣言することができる。分配は、受益者に対して、分配の宣言時から起算して5営業日以内に行われる。

2021年3月31日に終了した6か月間に宣言され支払われた分配金は、以下のとおりである。

受益者への分配	金額
米ドル建 米ドルヘッジクラス	\$ 1,777,635

#### (F) 現金および外国通貨

サブ・ファンドの表示通貨および報告通貨は、米ドルである。保有する外国有価証券、通貨ならびにその他の資産および負債の公正価値は、毎営業日の実勢為替レートに基づいて、サブ・ファンドの表示通貨に換算される。為替レートの変動による保有通貨ならびにその他の資産および負債の価値の変動は、未実現為替評価損益として計上される。投資有価証券の実現損益および未実現評価損益ならびに収益および費用は、それぞれの取引日および報告日に換算される。投資有価証券およびデリバティブに係る為替レート変動の影響は、損益計算書において、当該証券の市場価格および評価額の変動の影響と区別されないが、実現および未実現純損益に含まれている。

#### (G) 外国為替予約取引

外国為替予約取引とは、将来において定められた価格で通貨を売買する2当事者間の契約である。外国為替レートの変動に伴い、外国為替予約取引の公正価値は変動する。外国為替予約取引は、価格供給機関から入手したレートに基づいて、日次で時価評価され、サブ・ファンドは評価額の変動を未実現評価損益として計上する。契約締結時の価値と契約終了時の価値との差額に相当する実現損益は、通貨の受渡し時に計上される。これらの契約には、資産負債計算書に反映された未実現評価損益を上回る市場リスクが含まれることがある。更に、取引相手方が契約条件を履行できない場合、または通貨価値が基準通貨に対して不利に変動した場合、サブ・ファンドはリスクにさらされる可能性がある。サブ・ファンドはまた、投資者の為替リスクヘッジの目的で外国為替取引を締結することを認められている。

サブ・ファンドは、投資有価証券をヘッジするため、または収益を拡充するために、デリバティブ商品を使用することがある。デリバティブは、その他のタイプの商品よりも、サブ・ファンドが、そのリスク・エクスポージャーをより迅速かつ効果的に増減させることを可能にする。

サブ・ファンドは、予定ヘッジを含むヘッジ目的で外国為替予約取引を利用することができる。ヘッジは、サブ・ファンドがその他のサブ・ファンドの保有財産に伴うリスクを相殺するためにデリバティブを利用する戦略である。ヘッジは、損失を減らすことができる一方で、市場がサブ・ファンドの予測とは異なる態様で変動した場合またはデリバティブのコストがヘッジの利益を超えた場合には、利益を減少させもしくは排除させ、または損失を生じさせる可能性もある。ヘッジは、デリバティブ価額の変動がサブ・ファンドが期待した通りにヘッジされていた当該保有財産の変動に合致しないリスクも伴い、その場合、ヘッジされていた保有財産についての損失が減少せず、増加することがある。サブ・ファンドのヘッジ戦略が、リスクを減少させ、またはヘッジ取引が利用可能となるかもしくは費用効率が良くなるという保証はない。サブ・ファンドは、ヘッジの利用を要求されているわけではなく、それぞれ利用しないことを選択することもできる。リターンの強化を目指したデリバティブの利用は、投機的とみなされることがある。

#### (H) デリバティブ商品

A S C 815 - 10 - 50は、デリバティブ商品およびヘッジ活動に関する開示を要求している。これはすなわち、サブ・ファンドに、a) 事業体がデリバティブ商品をどのように、またなぜ使用するのか、b) デリバティブ商品および関連するヘッジ対象がどのように会計処理されるのか、ならびにc) デリバティブ商品および関連するヘッジ対象が事業体の財政状態、財務成績およびキャッシュ・フローにどのような影響を及ぼすのかについて、開示することを要求している。

2021年3月31日現在、または2021年3月31日に終了した期間において、サブ・ファンドは、デリバティブ商品を保有していなかった。

サブ・ファンドは、随時、締結されるOTCデリバティブおよび為替契約を管理する一定の取引相手方との国際スワップ・デリバティブ協会マスター契約、国際外国為替マスター契約または外国為替およびオプションのマスター契約（以下、総称して「マスター契約」という。）等のマスター・ネットिंग契約の当事者である。マスター契約は、とりわけ当事者の一般的義務、表明、合意、担保要件、デフォルト事由および早期終了に関する条項を含むことがある。

担保要件は、サブ・ファンドと各取引相手方との間の正味ポジションに基づいて決定される。担保は、現金または米国政府もしくは関連機関によって発行された債務証券の形式またはサブ・ファンドおよび関連する取引相手方によって合意されたその他の証券の形式が認められている。サブ・ファンドに提供された担保（もしあれば）は、マスター契約の条項に従って、一定の取引相手方に関しては、サブ・ファンドの保管会社によって分別勘定で保管され、また、売却可能または再担保差入れ可能な金額に関しては、投資有価証券明細表に記載されている。サブ・ファンドが設定した担保（もしあれば）は、サブ・ファンドの保管会社によって分別され、投資有価証券明細表において特定される。2021年3月31日現在、サブ・ファンドが担保として差し入れた有価証券または現金はなかった。

サブ・ファンドに適用ある終了事由は、サブ・ファンドの純資産が、一定の期間にわたり特定の限界値を下回った場合に発生することがある。取引相手方に適用ある終了事由は、取引相手方の信用格付が特定レベルを下回った場合に発生することがある。いずれのケースにおいても、発生時に、その他の当事者は早期終了を選択し、終了当事者の合理的な決定に基づき、当該早期終了から生じた損失および費用の支払を含むすべての未決済のデリバティブおよび為替契約の決済を行うことがある。早期終了を選択するサブ・ファンドの一または複数の取引相手方による決定は、サブ・ファンドの将来のデリバティブ活動に対して影響を及ぼす可能性がある。

### 3. 投資先ファンド

本「3.投資先ファンド」中の以下の情報は、投資先ファンドの2020年9月30日現在の監査済み財務書類から抜粋されたもので、投資先ファンドの2021年3月31日現在の情報と一致している。

### 3.1. 投資先ファンドの組織

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンド(以下「ジャパン・エクイティ・マスター・ファンド」という。)は、2009年9月2日に設立されたケイマン諸島のオープン・エンド型投資信託(以下「マスター・ファンド」という。)のもとで2013年10月3日付補遺信託証書(以下「補遺信託証書」という。)に従い設立されたサブ・ファンドである。マスター・ファンドは、ケイマン諸島の法律に基づいて設立された信託会社であるインタートラスト・トラスティーズ(ケイマン)リミテッド(以下「投資先ファンドの受託会社」という。)が行った信託宣言に従って設立された。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、2013年10月24日付で運用を開始した。

注記3において、インタートラスト・トラスティーズ(ケイマン)リミテッドは、注記1において定義されるサブ・ファンドの受託会社(ブラウン・ブラザーズ・ハリマン・トラスト・カンパニー(ケイマン)リミテッド)と区別する目的においてのみ、投資先ファンドの受託会社と称される。

投資先ファンドの受託会社は、ケイマン諸島の銀行・信託会社法(その後の改正を含む。)に基づいて信託会社として業務を行う免許を受けている。

現在、投資家に対して13のクラスの受益証券が販売されている。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの運用開始時には、投資家に対し11のクラス(豪ドルクラス、ブラジル・リアルクラス、人民元クラス、ユーロクラス、インドネシア・ルピアクラス、日本円クラス、メキシコ・ペソクラス、ロシア・ルーブルクラス、トルコ・リラクラス、米ドルクラスおよび南アフリカ・ランドクラス)の受益証券が販売されていた。豪ドル建 豪ドルヘッジクラスおよび米ドル建 米ドルヘッジクラスを除く各クラスの販売は、日本円で行われる。豪ドル建 豪ドルヘッジクラスおよび米ドル建 米ドルヘッジクラスの販売は、それぞれ豪ドルおよび米ドル建で行われる。また、金利差に相当する為替ヘッジ・プレミアムおよび受益証券クラスの通貨(以下「クラス通貨」という。)の高騰に由来する為替差益を追求するため、日本円クラスを除く各株式クラスは、外国為替予約取引またはノン・デリバラブル・フォワード取引を締結することによる、為替ヘッジ・ポジションを有している。ヘッジ・ポジションを取る場合、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、クレディ・スイス・インターナショナル(以下「為替管理事務代行会社」という。)が提供するヘッジ・オーバーレイ・サービスを利用することに同意する。

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、三菱UFJ国際投信株式会社によって設定された特定の日本の投資信託(三菱UFJ国際投信株式会社が投資顧問業務を提供しているケイマン諸島の信託である、コクサイ・ケイマン・トラストのサブ・ファンドに対してのみ販売される豪ドル建 豪ドルヘッジクラスおよび米ドル建 米ドルヘッジクラスを除く。)のマスター・ファンドとしてのみ設立されている。

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの機能通貨および表示通貨(以下「機能通貨」という。)は、日本円である。投資先ファンドの受託会社は、任意の運用通貨によるクラスを指定することができる。受益証券の発行および買戻しは、そのクラスの運用通貨で処理され、受益証券1口当たり純資産価格は、当該クラスの運用通貨で計算および値付けされる。豪ドル建 豪ドルヘッジクラスの運用通貨は、豪ドルであり、豪ドルクラス、ブラジル・リアルクラス、人民元クラス、ユーロクラス、インドネシア・ルピアクラス、日本円クラス、メキシコ・ペソクラス、ロシア・ルーブルクラス、トルコ・リラクラス、米ドルクラスおよび南アフリカ・ランドクラスについては、日本円であり、また、米ドル建 米ドルヘッジクラスについては、米ドルである。2020年9月30日現在、豪ドル建 豪ドルヘッジクラスお

および米ドル建 米ドルヘッジクラスの運用通貨建の受益証券1口当たり純資産価格は、それぞれ161.8600豪ドルおよび160.6100米ドルであった。

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの投資目的は、主として日本の金融商品取引所に上場している株式等(これに準じるものを含む。)に投資することにより、信託財産の成長を追求することである。市場の全サイクルを通じて、投資運用会社は、TOPIX配当込み指数を日本円建で年間1.5%(手数料控除前)上回ることを目指している。

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは投資会社であり、米国財務会計基準審議会(以下「FASB」という。)会計基準編纂書Topic 946「金融サービス - 投資会社」の投資会社の会計および報告に関する指針に従う。

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの投資運用会社は、キャピタル・インターナショナル株式会社(以下「投資運用会社」という。)である。

### 3.2. 投資先ファンドの重要な会計方針の要約

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの財務書類は、2019年10月1日から2020年9月30日(ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの会計年度末日を指す。)までの期間を反映している。以下は、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドが、アメリカ合衆国において一般に公正と認められる会計原則(以下「U.S.GAAP」という。)に準拠した財務書類を作成するにあたり継続して従っている重要な会計方針の要約である。U.S.GAAPに準拠した財務書類の作成は、財務書類上の報告金額および開示に影響を及ぼす見積りおよび仮定を行うことを経営者に要求している。実際の結果は、これらの見積りと異なることがある。

#### (A) 受益証券の純資産価額の決定

ブラウン・ブラザーズ・ハリマン・アンド・カンパニー(以下「管理事務代行会社」という。)は、投資先ファンドの受託会社の最終的な権限の下、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの全資産の評価を行う。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの純資産価額(以下「純資産価額」という。)は、毎「営業日」(日本における祝日以外の日であり、かつ、ニューヨーク証券取引所、ならびにニューヨーク、ロンドンおよび日本の銀行が営業を行っている日をいう。)および投資先ファンドの受託会社が決定するその他の日(それぞれ「決算日」という。)に計算される。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの純資産価額は、管理事務代行報酬、弁護士報酬、監査報酬ならびにその他の専門家報酬および費用を含むがこれらに限定されないジャパン・エクイティ・マスター・ファンドのすべての資産および負債を考慮して計算される。受益証券1口当たり純資産価格は、日本円建で計算される。豪ドル建 豪ドルヘッジクラスおよび米ドル建 米ドルヘッジクラス(これらの純資産価額は、それぞれ豪ドルおよび米ドル建で計算される。)の純資産価額は、表示通貨である日本円に換算される。各クラスの受益証券1口当たり純資産価格は、通常、各営業日において計算され、受益証券1口当たり純資産価格は、小数第4位まで四捨五入して調整される。

#### (B) 証券の評価

純資産価額の計算にあたり、市場相場が容易に入手可能な組入有価証券およびその他の資産は、公正価値で表示される。公正価値は、通常、当該証券の主要な市場である証券取引所における最新の売値に基づいて決定され、売却が報告されていない場合は、相場報告システム、確立したマーケット・メーカーまたは独立したプライシング・サービスから取得された相場に基づき決定される。

市場相場が容易に入手可能ではない証券およびその他の資産は、管理事務代行会社が、投資先ファンドの受託会社の最終的な権限の下で誠実に決定した公正価値により評価される。管理事務代行会社は、市場相場が容易に取得可能ではない場合において証券およびその他の資産を評価するための手法を採用

している。例えば、日次の市場相場が容易に取得可能ではない特定の証券または投資は、投資先ファンドの受託会社が確立したガイドラインに従って、他の証券または指標を参照した上で評価することができる。

市場相場は、直近のまたは信用に値する、市場に基づくデータ（例えば、取引情報、買呼値／売呼値に関する情報、ブローカーによる相場価格）が存在しない場合に、容易に入手可能ではないものとみなされ、関連する市場の取引終了後においてジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの証券または資産の価値に重大な影響を与える事由が発生した場合も含まれる。更に、市場相場は、特別な事情により、当該証券が取引される取引所または市場において終日取引が行われない、またはその他の市場価格が入手できない場合にも、容易に入手可能ではないものとみなされる。管理事務代行会社は、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの証券または資産の価値に著しい影響を与える重大な事由の監視、および当該重大な事由に鑑みて該当する証券または資産の価値の再評価の必要性の有無の判断につき責任を負う。

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドがその純資産価額の決定のために公正価値を決定する場合、証券の価格は、当該証券が取引される主要な市場における相場ではなく、管理事務代行会社またはその指示の下に行為する者が公正価値を正確に反映していると考え他の方法により決定される。公正価値の決定には、証券の価値に関する主観的な判断が必要となる。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの方針は、価格決定時の証券の価値を適正に反映した純資産価額の計算を意図したものであるが、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、当該証券を価格決定時点で売却する場合（例えば、強制的または危殆時における売却等）に、投資先ファンドの受託会社またはその指示の下に行為する者によって決定された公正価値が、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドが当該証券について取得することができたであろう価格を正確に反映していることを保証することはできない。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドが使用する価格は、当該証券が売却された場合に実現可能であったであろう価値と異なることがあり、両者の差異は、財務書類上重大である場合がある。

## 公正価値測定

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、Ｕ．Ｓ．ＧＡＡＰに基づく公正価値測定および開示に関する権威ある指針に従って、公正価値測定に使用される評価技法へのインプットを優先順位付けする階層における投資の公正価値を開示している。この階層は、同一の資産または負債の活発な市場における未調整の公表価格に基づく評価を最も高い優先順位（レベル１測定）とし、評価にとって重要な観察不能なインプットに基づく評価を最も低い優先順位（レベル３測定）としている。当該指針が設定する３つのレベルの公正価値の階層は以下の通りである。

- ・レベル１ - 公正価値測定には、同一の資産または負債の活発な市場における未調整の公表価格が用いられる。
- ・レベル２ - 公正価値測定には、レベル１に含まれる公表価格以外のインプットで、資産または負債に関して直接的（すなわち、価格）または間接的（すなわち、価格から派生するもの）に観察可能なものが用いられる。
- ・レベル３ - 公正価値測定には、観察可能な市場データに基づかない資産または負債のインプット（観察不能なインプット）を含む評価技法が用いられる。

インプットは、多様な評価技法の適用に使用されるものであり、概して、市場参加者が評価の決定に用いる仮定（リスクの仮定を含む。）のことをいう。インプットは、価格情報、具体的かつ広範な信用情報、流動性統計ならびにその他の要素を含むことがある。公正価値ヒエラルキーにおける金融商品のレベルは、公正価値測定において重要なインプットの最低レベルに基づいている。ただし、いかなる場合に「観察可能」であるかの決定には、投資運用会社による重大な判断が要求される。投資運用会社は、観察可能データとは、容易に入手可能な、定期的に配布されるまたは更新される、信頼できかつ検証可能な、非占有の、また該当市場に積極的に参加する独立した情報源によって提供された市場データであると考えている。ヒエラルキーにおける金融商品の分類は、商品の価格決定の透明性に基づいており、投資先ファンドの受託会社によって認識される当該商品のリスクと必ずしも一致しない。

## 投資

活発な市場における市場相場に基づき評価され、レベル１に分類される投資には、株式および短期金融証券が含まれる。投資先ファンドの受託会社は、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドが多額のポジションを有しており、売却が相場価格に合理的に影響を与える場合であっても、当該証券について相場価格の調整を行わない。

活発ではないとみなされる市場において取引されるが、市場相場価格、ディーラーによる相場価格または観察可能なインプットによって裏付けられる代替的な価格決定のための情報源に基づき評価される投資は、レベル２に分類される。当該投資には、社債、ソブリン債および一部の優先株式が含まれる。レベル２投資には、活発な市場において取引されない、かつ／または譲渡制限の対象となるポジションが含まれているため、非流動性および／または非譲渡可能性を反映する形で評価が調整されることがあり、これらは、通常、入手可能な市場の情報に基づく。定期預金を含め、満期までの期間が60日以下の短期有価証券は、通常、償却原価（公正価値に近似する。）を用いて評価される。インプットが観察可能である場合、当該価格はレベル２に分類される。



## デリバティブ商品

デリバティブ商品は、取引所取引または店頭（以下「ＯＴＣ」という。）での相対取引が可能である。上場デリバティブ（例えば、上場先物契約およびオプション契約）は通常、それらが活発に取引されているとみなされるか否かに応じて公正価値ヒエラルキーのレベル１またはレベル２に分類される。

ＯＴＣデリバティブ（外国為替予約取引を含む。）は、入手可能かつ信頼性があると考えられる場合はいつでも、観察可能なインプット（取引相手方、ディーラーまたはブローカーから受領した相場）を用いて評価される。評価モデルが使用される場合、ＯＴＣデリバティブの価値は、金融商品の契約条件および同商品に内在する固有のリスク、ならびに観察可能なインプットの入手可能性および信頼性に左右される。かかるインプットには参照有価証券の市場価格、イールド・カーブ、クレジット・カーブおよび当該インプットの相関性が含まれる。一般的な予約取引のような店頭デリバティブは、市場データによる裏付けが通常可能なインプットを有しているため、レベル２として分類される。

これらのＯＴＣデリバティブのうち、インプットが観察不能なものはレベル３に分類される。これらのＯＴＣデリバティブの評価に、レベル１および／またはレベル２のインプットが利用される場合がある一方、これらの評価には公正価値の決定にとって重要と考えられる他の観察不能なインプットも含まれる。

下表は、2020年９月30日現在、評価ヒエラルキーの範囲内で項目ごとおよびレベルごとに資産負債計算書に計上された金融商品を示したものである。

投資対象*：	同一の投資に係る 活発な市場における (未調整の)公表価格 (レベル１)	その他の重大な 観察可能なインプット (レベル２)	重大な 観察不能なインプット (レベル３)	2020年９月30日 現在の公正価値
普通株式				
農業	¥ 68,044,000	¥ -	¥ -	¥ 68,044,000
航空	49,739,800	-	-	49,739,800
自動車製造	180,147,300	-	-	180,147,300
自動車部品および機器	109,408,600	-	-	109,408,600
銀行	194,977,750	-	-	194,977,750
飲料	17,183,200	-	-	17,183,200
建設資材	179,490,000	-	-	179,490,000
化学製品	734,319,710	-	-	734,319,710
商業サービス	326,368,000	-	-	326,368,000
コンピューター	1,142,940,400	-	-	1,142,940,400
化粧品／パーソナルケア	688,887,100	-	-	688,887,100
流通／卸売	202,278,750	-	-	202,278,750
各種金融サービス	281,602,300	-	-	281,602,300
電子機器	652,716,000	-	-	652,716,000
土木建築	24,401,200	-	-	24,401,200
食品	81,420,000	-	-	81,420,000
手工具／工作機械	68,607,000	-	-	68,607,000
健康管理用品	523,912,300	-	-	523,912,300
住宅建設業	159,961,750	-	-	159,961,750
家財道具	160,640,000	-	-	160,640,000
保険	161,460,000	-	-	161,460,000
インターネット	387,353,800	-	-	387,353,800
鉄鋼	140,818,500	-	-	140,818,500
娯楽	45,584,000	-	-	45,584,000
機械 - 建設および採掘	426,696,300	-	-	426,696,300
各種機械	1,066,531,000	-	-	1,066,531,000
金属製造／ハードウェア	51,069,000	-	-	51,069,000
鉱業	37,247,000	-	-	37,247,000
石油およびガス	64,689,800	-	-	64,689,800
容器包装	136,444,000	-	-	136,444,000
製薬	1,041,122,100	-	-	1,041,122,100
小売業	1,082,472,000	-	-	1,082,472,000
半導体	452,804,000	-	-	452,804,000
ソフトウェア	395,308,200	-	-	395,308,200
電気通信	434,156,000	-	-	434,156,000
玩具／ゲーム／趣味	89,490,000	-	-	89,490,000
短期投資				
定期預金	-	385,537,847	-	385,537,847
投資合計	¥ 11,860,290,860	¥ 385,537,847	¥ -	¥ 12,245,828,707

金融デリバティブ商品**	同一の投資に係る活発な市場における(未調整の)公表価格(レベル1)	その他の重大な観察可能なインプット(レベル2)	重大な観察不能なインプット(レベル3)	2020年9月30日現在の公正価値
資産				
外国為替予約取引	¥ -	¥ 37,060,933	¥ -	37,060,933
負債				
外国為替予約取引	¥ -	¥ (28,603,312)	¥ -	(28,603,312)

\* 有価証券の分類に関するより詳細な情報は、投資有価証券明細表に記載されている。

\*\* 外国為替予約取引等の金融デリバティブ商品は、商品に係る未実現評価益/(評価損)で評価されている。

2020年9月30日に終了した年度において、レベル3への、またはレベル3からの移動はなかった。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、各レベルから移動した投資有価証券があれば期末に会計処理を行う。

2020年9月30日現在、レベル3として評価される証券はなかった。

#### (C) 証券取引および投資収益

財務報告の目的上、証券取引は取引日において計上される。証券の売却による実現損益は、個別法に基づき報告される。分配収益は、分配落日に計上される。ただし、分配落日が経過している場合、外国有価証券からの特定の配当金は、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドが合理的な努力をはらって分配落日を確認した後速やかに計上される。投資収益について外国税の還付の有無が不確定の場合、投資収益は、外国税を控除した上で計上される。その他の収益には、定期預金の利息が含まれる。

#### (D) 分配方針

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、シリーズごとの決議による承認をもって、各クラスにつき分配金(現金または現物による。)の再投資を宣言し、これを手配する。日本円以外の通貨建のクラスについて、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、分配を行う意向を有していない。

分配は、毎月行われ、( )純実現キャピタル・ゲイン(ヘッジ・ポジションを含む。)、純未実現キャピタル・ゲインおよび純収益から拠出されたプラスの総額と、( )ポートフォリオの分配イールド、純ファンド費用および通貨ヘッジ・プレミアム(費用)に基づく論理的な収益予想(各クラスの純資産合計額により計算される。)のいずれか大きい方に基づき計算される。

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、管理事務代行会社が上記のとおり決定するより大きい方の金額につきクラスの各受益者に対して毎月分配を宣言し、当該分配金は、再投資される。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、当該月に係る分配金を前月の最終営業日または投資先ファンドの受託会社とその単独の裁量において決定するその他の日付(以下「基準日」という。)において宣言し、通常、当該月の最初の営業日(当該日が営業日ではない場合は、翌営業日)または投資先ファンドの受託会社とその単独の裁量において決定するその他の日付(以下「分配日」という。)において、当該分配金を再投資する。各クラスの受益者は、分配金の再投資を選択しているため、関連する分配日において、受益証券が発行される。

2020年９月30日に終了した年度について宣言され、かつ、再投資された分配金は以下のとおりである。

受益者への分配	金額
豪ドルクラス	¥ 4,723,913
ブラジル・リアルクラス	26,954,061
人民元クラス	2,189,948
ユーロクラス	1,354,467
インドネシア・ルピアクラス	4,681,239
日本円クラス	9,072,712
メキシコ・ペソクラス	17,201,569
ロシア・ルーブルクラス	326,333,468
トルコ・リラクラス	96,636,374
米ドルクラス	128,333,975
南アフリカ・ランドクラス	2,005,481
合計	¥ 619,487,207

#### (E) 現金および外国通貨

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの機能通貨および報告通貨は、日本円である。保有する外国有価証券、通貨ならびにその他の資産および負債の公正価値は、毎営業日の実勢為替レートに基づいて、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの機能通貨に換算される。為替レートの変動による保有通貨ならびにその他の資産および負債の価値の変動は、未実現為替評価損益として計上される。投資有価証券の実現損益および未実現評価損益ならびに収益および費用は、それぞれの取引日および報告日に換算される。証券およびデリバティブへの投資に係る外国為替レート変動の影響は、損益計算書において、当該証券の市場価格および評価額の変動の影響と区別されないが、実現および未実現純損益に含まれている。

#### (F) 定期預金

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、ブラウン・ブラザーズ・ハリマン・アンド・カンパニー（以下「保管会社」という。）を通じて、余剰の現金残高を翌日物定期預金として、投資運用会社が決定する１または複数の適格な預金受入機関に預託している。当該預金は、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの投資有価証券明細表において、短期投資に分類されている。日本銀行による預金金利の引下げにより、日本円建ての短期投資の利率は、０％未満となる可能性がある。

#### (G) 外国為替予約取引

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの有価証券の一部もしくは全部に関する通貨エクスポージャーをヘッジするため、または投資戦略の一環として、計画された有価証券売買の決済に関連する外国為替予約取引を締結する。外国為替予約取引とは、将来において定められた価格で通貨を売買する２当事者間の契約である。外国為替レートの変動に伴い、外国為替予約取引の公正価値は変動する。外国為替予約取引は、価格提供会社から入手したレートに基づいて、日次で時価評価され、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは評価額の変動を未実現評価損益として計上する。契約締結時の価値と契約終了時の価値との差額に相当する実現損益は、通貨の受渡し時に計上される。これらの契約には、資産負債計算書に反映された未実現評価損益を上回る市場リスクが含まれることがある。更に、取引相手方が契約条件を履行できない場合、または通貨価値

が基準通貨に対して不利に変動した場合、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドはリスクにさらされる可能性がある。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドはまた、投資者の為替リスクヘッジの目的で外国為替予約取引を締結することを認められている。クラス固有の外国為替取引から生じる損益はそれら固有のクラスに配分される。2020年9月30日現在の未決済の外国為替予約取引の一覧は、投資有価証券明細表に記載されている。

#### (H) デリバティブ商品

A S C 815 - 10 - 50は、デリバティブ商品およびヘッジ活動に関する開示を要求している。これはすなわち、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドに、a) 事業体がデリバティブ商品をどのように、またなぜ使用するのか、b) デリバティブ商品および関連するヘッジ対象がどのように会計処理されるのか、ならびにc) デリバティブ商品および関連するヘッジ対象が事業体の財政状態、財務成績およびキャッシュ・フローにどのような影響を及ぼすのかについて、開示することを要求している。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、デリバティブ商品をA S C 815に基づくヘッジ商品に指定していない。

外国為替予約取引の公正価値は資産負債計算書に含まれ、公正価値の変動は実現利益(損失)または未実現評価益/(評価損)の純変動として損益計算書に反映される。2020年9月30日に終了した年度において、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドのデリバティブ商品取引は外国為替予約取引のみで構成されていた。

下表は、サブ・ファンドのデリバティブ商品の公正価値をリスク・エクスポージャー別に要約したものである。

2020年9月30日現在の資産負債計算書におけるデリバティブ商品の公正価値  
A S C 815に基づくヘッジ商品として計上されていないデリバティブ

位置	外国為替リスク*	
資産デリバティブ		
外国為替予約取引に係る未実現評価益	¥	37,060,933
負債デリバティブ		
外国為替予約取引に係る未実現（評価損）	¥	(28,603,312)

\* 総価額は、資産負債計算書における外国為替予約取引に係る未実現評価損益の項に記載されている。

## 2020年９月30日に終了した年度の損益計算書におけるデリバティブ商品の影響

## ＡＳＣ815に基づくヘッジ商品として計上されていないデリバティブ

位置	外国為替リスク
----	---------

運用の結果として認識されたデリバティブに係る実現利益／（損失）	
---------------------------------	--

外国為替予約取引に係る実現純（損失）*	¥ (861,145,314)
---------------------	-----------------

運用の結果として認識されたデリバティブに係る 未実現評価益／（評価損）の変動	
---	--

外国為替予約取引に係る未実現評価益の純変動**	¥ 38,501,148
-------------------------	--------------

\* 損益計算書において外国為替取引および外国為替予約取引に係る実現利益（損失）として表示される金額に含まれている。

\*\* 損益計算書において外国為替換算および外国為替予約取引による未実現評価益（評価損）の純変動として表示される金額に含まれている。

2020年９月30日に終了した年度において、外国為替予約取引の平均月次元本は以下のとおりであった。

豪ドルクラス	¥	247,878,370
豪ドル建 豪ドルヘッジクラス	¥	1,714,210,109
ブラジル・リアルクラス	¥	675,015,573
人民元クラス	¥	53,238,587
ユーロクラス	¥	115,193,060
インドネシア・ルピアクラス	¥	60,183,735
メキシコ・ペソクラス	¥	242,590,646
ロシア・ルーブルクラス	¥	5,243,333,412
トルコ・リラクラス	¥	785,537,898
米ドルクラス	¥	5,340,358,532
米ドル建 米ドルヘッジクラス	¥	3,550,844,400
南アフリカ・ランドクラス	¥	31,723,902

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、随時、締結されるＯＴＣデリバティブおよび為替契約を管理する一定の取引相手方との国際スワップ・デリバティブ協会マスター契約、国際外国為替マスター契約または外国為替およびオプションのマスター契約（以下、総称して「マスター契約」という。）等のマスター・ネットリング契約の当事者である。マスター・ネットリング契約は、とりわけ当事者の一般的義務、表明、合意、担保要件、デフォルト事由および早期終了に関する条項を含むことがある。

担保要件は、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドと各取引相手方との間の正味ポジションに基づいて決定される。担保は、現金または米国政府もしくは関連機関によって発行された債務証券の形式またはジャパン・エクイティ・マスター・ファンドおよび関連する取引相手方によって合意されたその他の証券の形式が認められている。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドに提供された担保（もしあれば）は、マスター・ネットリング契約の条項に従って、一定の取引相手方に関しては、保管会社によって分別勘定で保管され、また、売却可能または再担保差入れ可能な金額に関しては、投資有

価証券明細表に記載されている。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドが設定した担保（もしあれば）は、保管会社によって分別され、投資有価証券明細表において特定される。2020年9月30日現在、担保として差し入れた有価証券または現金はなかった。

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドに適用ある終了事由は、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの純資産が、一定の期間にわたり特定の限界値を下回った場合に発生することがある。取引相手方に適用ある終了事由は、取引相手方の信用格付が特定レベルを下回った場合に発生することがある。いずれのケースにおいても、発生時に、その他の当事者は早期終了を選択し、終了当事者の合理的な決定に基づき、当該早期終了から生じた損失および費用の支払を含むすべての未決済のデリバティブおよび為替契約の決済を行うことがある。早期終了を選択するジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの一または複数の取引相手方による決定は、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの将来のデリバティブ活動に対して影響を及ぼす可能性がある。

#### (1) 受益証券

2020年9月30日現在、すべての発行済み受益証券は、三菱ＵＦＪ国際投信株式会社により設定された3名の関連する受益者によって保有されていた。当該3名の受益者は、純資産の100%に対して持分を有していた。

受益証券は、純資産価額に基づきプロラタ方式でジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの利益および分配に参加するクラスにつき、以下に記載する終了事由の際の資産に係する範囲において発行される。受益証券は、無額面であり、発行時にその全額が払い込まれなければならない、優先権または先買権は付されていない。管理事務代行会社は、整数または端数の受益証券を発行することができる。

#### 発行

当初払込日以降、各クラスの受益証券は、各営業日において、関連する申込注文が受諾された当該営業日の受益証券の1口当たり純資産価格で購入可能となる。

特定の営業日に取引が実行されるために、取得申込書類は、管理会社が別段の合意をしない限り、当該営業日の「指定時刻」（日本円建クラスの場合は東京時間の午後6時、日本円以外の通貨建クラスの場合はルクセンブルグ時間の午後1時、または投資先ファンドの受託会社が適切とみなす時刻）までに管理事務代行会社に受領されなければならない。指定時刻を過ぎた後に受領された取得申込みは、翌営業日に受領されたものとみなされる。

申込金額は、管理会社が別段の合意をしない限り、該当する営業日（当該営業日を含む。）から5営業日目に保管会社により受領されなければならない。

受益証券に関して券面は発行されないが、（明示的に要求された場合）受益証券の発行の確認書が、管理事務代行会社により交付される。ただし、申込手取金の支払が保管会社に受領されることを条件とする。

投資先ファンドの受託会社および管理事務代行会社は、それぞれの単独の裁量により、受益証券の申込みの全部または一部を拒絶する権利を有する。

#### 買戻し

受益者は、毎営業日および投資先ファンドの受託会社はその裁量により決定するその他の日時（以下、それぞれの日を「買戻日」という。）に、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドに対して、保有する受益証券のすべてまたは一部について買戻しを請求することができる。受益者は、投資先ファ

ンドの管理事務代行会社に対して、買戻日の指定時刻までに買戻日現在の受益証券の買戻を請求しなければならない。指定時刻を過ぎて受領された申込みは、翌営業日に受領されたものとみなされる。

買戻請求には、買戻日、および買戻しを行う受益者の受益証券の割合、受益者の受益証券の具体的な口数または買い戻される受益証券の各通貨での金額のいずれかを明記しなければならない。

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドが、関連する買戻日またはそれより前に清算を開始した場合、いかなる買戻請求も有効とはならない。買戻価格は、買戻日における当該クラスの受益証券１口当たり純資産価格である。投資先ファンドの受託会社の単独の裁量において、またはその受任者により、受益者による買戻しの条件が取消しまたは修正されることがある。

日本円建クラスの買戻金額は、通常、関連する買戻日から４「東京営業日」（東京において銀行が営業している日）以内に日本円で支払われる。日本円以外の通貨建のクラスについては、買戻金額は、通常、関連する買戻日から４営業日以内に各クラスの通貨で支払われる。

#### 譲渡

受益証券の募集は1933年米国証券法（その後の改正を含む。）に基づく登録を受けていないため、各購入者は、申込契約において、当該購入者による受益証券の購入が投資目的であり、当該受益証券の全部または一部の譲渡または処分を意図していない旨の表明保証を行わなければならない。

受益者は、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドに対して書面による事前の通知を行い、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの書面による事前の同意（ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、その単独かつ絶対的な裁量において当該同意を留保することができる。また、通常、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、当該同意を付与する意向を有していない。）を取得することなく、自身が保有する受益証券の全部または一部を譲渡またはその他贈与等の方法により処分してはならない。受益者の死亡に伴い譲渡または処分が提案される場合、当該受益者の財産につき適式に授權された代理人による通知を行うことができる。当該通知は、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドにとって満足のいく形の法的権限に係る証拠により裏付けられたものでなければならない。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、法律の適用により受益証券の所有権を取得した者により保有される受益証券を強制的に買い戻す権利を有する。

#### (J) 報酬および費用

投資先ファンドは、自らの費用（会計・事務管理報酬、投資運用報酬、投資先ファンドの受託報酬、保管報酬、名義書換事務代行報酬、為替管理事務代行報酬および投資先ファンドの運用に関連するその他の費用を含むが、これらに限定されない。）を負担する。これらの報酬は、投資先ファンドへの投資の純資産価額を通じて間接的にサブ・ファンドが負担している。



#### ４．受益証券

2021年３月31日現在、サブ・ファンドにより発行されたすべての受益証券は、単一の受益者名義で保有されている。当該受益者の投資活動は、サブ・ファンドに重大な影響を与える可能性がある。

##### (Ａ) 発行

当初払込日以降、サブ・ファンドの受益証券は、各営業日において、関連する申込注文が受諾された当該営業日の受益証券１口当たり純資産価格で購入可能となる。

特定の営業日に取引が実行されるために、取得申込書類は、管理会社が別段の合意をしない限り、当該営業日の指定時刻（ルクセンブルグ時間の午後１時）までに管理事務代行会社に受領されなければならない。指定時刻を過ぎた後に受領された取得申込みは、翌営業日に受領されたものとみなされる。

申込金額は、管理会社が別段の合意をしない限り、該当する営業日（当該営業日を含む。）から５営業日目にブラウン・ブラザーズ・ハリマン・アンド・カンパニー（以下「保管会社」という。）により受領されなければならない。

受益証券に関して券面は発行されないが、（明示的に要求された場合）受益証券の発行の確認書が、管理事務代行会社により交付される。ただし、申込手取金の支払が保管会社に受領されることを条件とする。

管理会社、受託会社および管理事務代行会社は、それぞれの単独の裁量により、受益証券の申込みの全部または一部を拒絶する権利を有する。

受益者は、ケイマン諸島の2008年犯罪収益法（随時改正される。）および管理事務代行会社に適用されるマネー・ロンダリング防止法の要求に従い、マネー・ロンダリング防止手続の遵守を要求される。

##### (Ｂ) 買戻し

当初払込日以降、受益者はいずれかの営業日に自己の受益証券の全部または一部を買い戻すことができる。受益証券の買戻しの申込みが営業日に処理されるためには、当該申込みは、営業日の指定時刻前に管理事務代行会社により受領されなければならない。指定時刻後に受領された申込みは、翌営業日に受領されたものとみなされる。

管理会社は、その単独の裁量により、受益証券の買戻請求の全部または一部を拒絶する権利を留保する。

買戻金額の支払は、サブ・ファンドの表示通貨建てで、管理会社が買戻請求を承認した日（同日を含む。）から通常５営業日以内に、保管会社またはその代理人によって行われる。

受益証券の買戻金額は、管理会社が買戻請求を承認した営業日現在の１口当たり純資産価格とする。管理事務代行会社は、買戻しを行う受益者に支払われる買戻代金から第三者の費用または源泉徴収税（該当する場合）を控除することができる。買戻しは１口単位で行われなければならない。

## ５．リスク要因

受益証券は、相当の損失リスクを伴う投機的な非流動証券であり、サブ・ファンドに対する投資がその投資家の投資プログラムのすべてを占めるものではなく、かつサブ・ファンドに対する投資のリスクを十分に理解し、かかるリスクを負う能力を有する投資に精通した個人による投資のみに適している。サブ・ファンドにより株式への集中投資が行われることで、サブ・ファンドへの投資が一部のポートフォリオに不適切となることがある。以下のリスクについての要約に記載されたサブ・ファンドならびにサブ・ファンドの投資対象およびポートフォリオに関する言及は、サブ・ファンドおよび投資先ファンドの投資対象およびポートフォリオに関する複合的リスクについて言及するものである。サブ・ファンドに対する投資に伴うすべてのリスクの完全なリストとされるものではない以下の勘案事項は、サブ・ファンドに対する投資を行う前に慎重に評価されるべきである。

### (A) 市場リスク

市場リスクとは、サブ・ファンドが投資する一つ以上の市場の価格が下がるリスクをいい、市場が急激にかつ予測不能に下降する可能性を含む。選択リスクとは、サブ・ファンドの経営陣が選択する証券の運用実績が、同様の投資目的および投資戦略を持つその他のファンドが選択する市場、関連する指数または証券の運用実績を下回るリスクをいう。

### (B) 為替リスク

投資先ファンドは、主に日本円建の資産に投資する。サブ・ファンドは、米ドル建であるため、為替相場の変動は、サブ・ファンドのポートフォリオの価値に影響を与える可能性がある。当該リスクは、通常、「為替変動リスク」と呼ばれ、サブ・ファンドの強力な機能通貨が投資家へのリターンを減少させる可能性がある一方、サブ・ファンドの弱い機能通貨が当該リターンを増加させる可能性があることをいう。外国為替変動リスクの軽減を追求するための手段として、日本円建の原資産について、原則として投資先ファンドによって米ドルに対する為替ヘッジ取引が実施される。このため、外国為替相場の変動が投資先ファンドにおけるサブ・ファンドの投資の価値に影響を与えることがある。

### (C) 流動性リスク

流動性リスクとは、有価証券等を売却または購入しようとする際に、買い需要がなく売却不可能、または売り供給がなく購入不可能等となるリスクのことをいう。例えば、市況動向や有価証券等の流通量等の状況、または買戻金額の規模によっては、組入有価証券等を市場実勢よりも低い価格で売却しなければならないケースが考えられ、この場合には受益証券１口当たり純資産価格の下落要因となる。

### (D) カウンター・パーティーおよびブローカー・リスク

投資先ファンドまたは投資先ファンドの受任者が取引または投資する金融機関およびカウンター・パーティー（銀行およびブローカーを含む。）が、財務上の困難および投資先ファンドに対する債務の不履行に陥ることがある。かかる不履行は、サブ・ファンドにとって著しい損失を引き起こすおそれがある。更に、投資先ファンドは、一定の取引を確保するためにカウンター・パーティーに対して担保を差し入れることがある。

サブ・ファンドは、各カウンター・パーティーとマスター・ネットティング契約を締結することで、カウンター・パーティーの信用リスクに対するエクスポージャーの軽減を試みる。マスター・ネットティング契約は、カウンター・パーティーの信用度が指定されたレベルを超えて低下した時点で、当該契約下で行われた取引のすべてを終了できる権利をサブ・ファンドに与える。マスター・ネットティング契約に基づき、各当事者は、他方当事者の債務不履行があった場合または契約が終了した場合に、当該契約の下で行われた取引のすべてを終了し、各取引に基づき一方当事者が他方当事者に対して支払義務を負う金額を相殺する権利を有する。サブ・ファンドのＯＴＣデリバティブに関連するカウンター・パーティーの信用リスクから発生する最大損失リスクは、一般的に、未実現評価益の総額およびカウン

ター・パーティーがサブ・ファンドに差し入れた担保を超えるカウンター・パーティーの未払金額である。サブ・ファンドは、最低譲渡規定に従い、カウンター・パーティーのために、ＯＴＣデリバティブに関して、各カウンター・パーティーの未決済のデリバティブ契約における未実現評価益以上の金額の担保の差入れを要求されることがあり、かかる差入れ担保（もしあれば）は、投資有価証券明細表に特定されている。

#### (E) 保管リスク

サブ・ファンドは、自己の投資先証券のすべての保管状況を管理しているわけではない。保管会社または保管者として選任されたその他の銀行もしくは証券会社が支払不能となり、そのためにそれらの保管者が保有するサブ・ファンドの証券の全部または一部をサブ・ファンドが失う可能性がある。

#### (F) 通貨リスク

サブ・ファンドが投資する証券その他の商品は、米ドル以外の通貨建てで表示または値付けがなされることがある。このため、外国為替相場の変動がサブ・ファンドのポートフォリオの価値に影響を及ぼすことがある。このリスクは、一般的に「通貨リスク」として知られ、サブ・ファンドの弱い機能通貨が投資家への収益を増やす一方で、強力な機能通貨が投資家への収益を減少させることがある。

#### (G) デリバティブ

サブ・ファンドは、投資をヘッジするまたは利益の増加の追求を目的として、デリバティブ商品を利用することがある。他の種類の金融商品に比べて、デリバティブは、サブ・ファンドのリスク・エクスポージャーをより迅速かつ効果的に増減させる。デリバティブは、変動しやすく、以下を含む重大なリスクを伴っている。

- ・信用リスク - デリバティブ取引における取引相手方（取引の反対側の当事者）が、サブ・ファンドに対する金融債務を履行することができないリスク。
- ・レバレッジリスク - 比較的小さい市場の変動が投資対象の価額を大きく変動させる可能性があるという、一定の種類の投資対象または取引戦略に伴うリスク。レバレッジを伴う一定の投資対象または取引戦略により当初投資した金額を大きく超える損失を生じる可能性がある。
- ・流動性リスク - 一定の証券について、売り手が売却したい時期において、または売り手がかかる証券に現在その価値があると判断する価格にて、売却することが困難または不可能となる可能性があるというリスク。

サブ・ファンドは、予定ヘッジを含むヘッジ目的のためにデリバティブを利用することができる。ヘッジは、サブ・ファンドがその他のサブ・ファンドの保有財産に伴うリスクを相殺するためにデリバティブを利用する戦略である。ヘッジは、損失を減らすことができる一方で、市場がサブ・ファンドの予測とは異なる態様で変動した場合またはデリバティブのコストがヘッジの利益を超えた場合には、利益を減少させもしくは消滅させ、または損失を生じさせる可能性もある。ヘッジは、デリバティブ価額の変動がサブ・ファンドが期待した通りにヘッジされていた保有財産の価額変動に合致しないリスクも伴い、その場合、ヘッジされていた保有財産についての損失が減少せず、増加することがある。サブ・ファンドのヘッジ戦略が、リスクを減少させ、またはヘッジ取引が利用可能かもしくは費用効率が良いという保証はない。サブ・ファンドは、ヘッジの利用を要求されているわけではなく、利用しないことを選択することもできる。サブ・ファンドは、リターン強化のためにデリバティブを利用することがあるため、その投資対象によって、サブ・ファンドは、ヘッジのためだけにデリバティブを利用する場合よりも大きな上述のリスクにさらされることがある。リターンの強化を目指したデリバティブの利用は、投機的とみなされることがある。

## (H) その他のリスク

当年度中、世界保健機関(WHO)がCOVID-19につきパンデミックを宣言した。状況は絶えず変化しており、世界中の都市および国々は、様々な方法で感染拡大に対処している。当該状況の急速な進行および流動性により、その最終的な影響を予測するのは困難であるが、景気および市況に引き続き悪影響が及ぶ可能性、ならびに世界的な景気低迷期が引き起こされる可能性がある。

投資運用会社および受託会社は、COVID-19の感染拡大を注視しており、既存の事業継続計画、ならびに世界の保健機関、関係政府、および一般的なパンデミック対応の成功事例からの指針に基づき、事業上の対応を調整している。

## 6. 保証および補償

サブ・ファンドの設立書類に基づき、特定の当事者(受託会社および投資運用会社を含む。)は、サブ・ファンドに対する各自の義務の履行により発生する可能性のある債務の補償を受ける。更に、通常の業務において、サブ・ファンドは、様々な補償条項を含む契約を締結する。サブ・ファンドに対して現在発生していないが、将来行われる可能性のある請求が含まれるため、これらの契約に基づくサブ・ファンドの最大エクスポージャーは不明である。ただし、サブ・ファンドは、これらの契約に基づく事前の請求または損失を受けてはいない。

## 7. 所得税

サブ・ファンドは、課税上の地位に関してケイマン諸島の法律に従う。ケイマン諸島の現行法の下で、利益、収益、利得および評価益に対して課される税金はなく、また遺産税および相続税の性質を有するいかなる税金もサブ・ファンドを構成する不動産、およびサブ・ファンドの下で生じる収益、ならびに当該不動産および収益に関するサブ・ファンドの受益者に対して適用されない。サブ・ファンドによる分配に対して、および受益証券の買戻時の純資産価額の支払に関して適用される源泉徴収税はない。そのため、当財務書類に計上された所得税の引当はなかった。

サブ・ファンドは通常、米国連邦所得税の目的上、米国における取引または事業に従事しているとみなされないよう活動を実施するようにしている。とりわけ、サブ・ファンドは、1986年内国歳入法(その後の改正を含む。)におけるセーフ・ハーバーに適格となることを目的としており、サブ・ファンドは、同法に基づき、その活動が自己勘定による株式および有価証券またはコモディティー取引に限定される場合、当該事業に従事しているとはみなされない。サブ・ファンドの収益がサブ・ファンドが行う米国の取引または事業に実質的に関連している場合、サブ・ファンドが米国を源泉として得る一定種類の収益(配当および一定種類の受取利息を含む。)に対して米国の税金30%が課される。この税金は通常、当該収益から源泉徴収される。

税務ポジションの不確実性の会計処理および開示に関する権威ある指針(財務会計基準審議会-会計基準編纂書740)は、受託会社に、サブ・ファンドの税務ポジションが税務調査(関連する不服申立てまたは訴訟手続の解決を含む。)時に「認定される可能性の方が高い(more likely than not)」か否かを、当該ポジションの技術上のメリットに基づき決定するよう要求している。認定される可能性の方が高い場合の閾値を満たす税務ポジションについては、当財務書類において認識される税金金額は、関係税務当局と最終的に和解した時点で実現する可能性が50%超である最大ベネフィットまで減額される。受託会社は、サブ・ファンドの税務ポジションについて検討し、当財務書類において納税引当金が不要であるとの結論を出した。現在、不確実な税務ポジションに関して、権利または賦課金はない。

2020年9月30日現在、アメリカ合衆国以外の主要な税務管轄の調査対象となる課税年度は、時効に係る法令に基づき、2014年（運用開始）から当会計年度までである。アメリカ合衆国連邦税務管轄の調査対象となる課税年度は、2014年（運用開始）から2020年9月30日までである。

## ８．報酬および費用

### （Ａ）管理事務代行報酬、名義書換事務代行報酬

管理事務代行会社および名義書換事務代行会社は、サブ・ファンドの純資産価額に基づいて、毎日発生し、毎月支払われる報酬を受領する。管理事務代行会社および名義書換事務代行会社は、毎年、報酬として、5億米ドルまでの部分について年率0.05%、5億米ドル超10億米ドルまでの部分について年率0.04%、10億米ドル超の部分について年率0.03%を受領する権利を有する。管理事務代行会社はまた、毎月3,750米ドルの資産ベースの最低報酬を受領する。かかる報酬は、毎日発生し、毎月後払いされる。2021年3月31日に終了した6か月間に管理事務代行会社および名義書換事務代行会社が稼得した報酬、ならびに2021年3月31日現在における管理事務代行会社および名義書換事務代行会社への未払報酬残高（もしあれば）は、それぞれ損益計算書および資産負債計算書において開示されている。

### （Ｂ）保管報酬

受託会社は、保管会社との間で保管契約を締結し、保管会社は当該契約について純資産の0.01%から0.55%の範囲内の保管報酬を受領する。保管会社は、毎月400米ドルの最低報酬を受領する。保管会社はまた、専門的な処理に関して取引1件につき10米ドルから150米ドルの範囲内の取引費用も受領する。2021年3月31日に終了した6か月間に保管会社が稼得した報酬、および2021年3月31日現在における保管会社への未払報酬残高（もしあれば）は、それぞれ損益計算書および資産負債計算書において開示されている。

### （Ｃ）受託報酬

受託会社は、サブ・ファンドの純資産価額の年率0.01%（ただし、最低年間受託報酬を10,000米ドルとする。）の報酬を受領する。かかる報酬は、毎日発生し、毎月支払われる。2021年3月31日に終了した6か月間に受託会社が稼得した報酬、および2021年3月31日現在における受託会社への未払報酬残高（もしあれば）は、それぞれ損益計算書および資産負債計算書において開示されている。

### （Ｄ）投資顧問報酬

投資顧問会社は、サブ・ファンドの純資産価額の年率0.35%の料率で年間報酬を受領する。かかる報酬は、毎日発生し、毎月支払われる。2021年3月31日に終了した6か月間に投資顧問会社が稼得した報酬、および2021年3月31日現在における投資顧問会社への未払報酬残高（もしあれば）は、それぞれ損益計算書および資産負債計算書において開示されている。

### （Ｅ）代行協会員報酬

三菱ＵＦＪモルガン・スタンレー証券株式会社（以下「代行協会員」という。）は、日本証券業協会の規則および要件を確実に遵守して、ファンドに関する資料の配布、純資産価額の公表および日本におけるサブ・ファンドの財務書類の提供に責任を負い、サブ・ファンドの各クラスの純資産価額の年率0.05%の年間報酬を受領する。かかる報酬は、毎日発生し、四半期毎に支払われる。2021年3月31日に終了した6か月間に代行協会員が稼得した報酬、および2021年3月31日現在における代行協会員への未払報酬残高（もしあれば）は、それぞれ損益計算書および資産負債計算書において開示されている。

### （Ｆ）販売報酬

三菱ＵＦＪモルガン・スタンレー証券株式会社（以下「日本における販売会社」という。）は、日本法に従い投資家により申し込まれた受益証券取引の完了に責任を負い、サブ・ファンドの純資産価額の年率0.70%の報酬を受領する。かかる報酬は、毎日発生し、四半期毎に支払われる。2021年3月31日に

終了した6か月間に日本における販売会社が稼得した報酬、および2021年3月31日現在における日本における販売会社への未払報酬残高(もしあれば)は、それぞれ損益計算書および資産負債計算書において開示されている。

#### (G) 管理報酬

管理会社は、投資顧問会社の指示に従ってファンド運用サービスおよび投資運用サービスを提供し、サブ・ファンドの純資産価額の年率0.04%の報酬を受領する。当該報酬は、毎日発生し、四半期毎に支払われる。2021年3月31日に終了した6か月間に管理会社が稼得した報酬、および2021年3月31日現在における管理会社への未払報酬残高(もしあれば)は、それぞれ損益計算書および資産負債計算書において開示されている。

#### (H) その他の費用

サブ・ファンドは、投資顧問報酬、管理事務代行報酬、保管報酬および名義書換事務代行報酬によってカバーされない、運用に関連するその他の費用を負担することがあり、当該費用には、当局対応手数料、ブローカー手数料およびその他のポートフォリオ取引費用、金利を含む借入費用、訴訟および補償費用を含む特別費用、設立費用、印刷費用、登録費用ならびに専門家報酬が含まれるが、これらに限定されない。

### 9. 関連当事者取引

サブ・ファンドは、受託会社の関連当事者であるブラウン・ブラザーズ・ハリマン・アンド・カンパニーとの間で外国為替予約取引を締結することができる。2021年3月31日現在のブラウン・ブラザーズ・ハリマン・アンド・カンパニーとの間のすべての未決済の外国為替予約取引(もしあれば)は、投資有価証券明細表において開示されている。2021年3月31日に終了した6か月間において、ブラウン・ブラザーズ・ハリマン・アンド・カンパニーとの間で締結された外国為替予約取引に係る損益計算書に開示すべき実現利益/損失はなかった。

### 10. 最近発表された会計基準

2018年8月28日、FASBは、会計基準更新書ASU2018-13「公正価値測定(トピック820):開示の枠組み-公正価値測定に関する開示要件の変更」(以下「ASU2018-13」という。)を公表した。ASU2018-13は、ASC820の開示の目的に関する規定を修正するものであり、(1)「事業体は、少なくとも、開示しなければならない(an entity shall disclose at a minimum)」という文言から「少なくとも(at a minimum)」が、また、(2)事業体による裁量の適切な行使を促すためのその他の類似の「オープン・エンド型」の開示要件が削除された。さらに、ASU2018-13では、ASC820に基づくその他の要件も削除および修正されている。ASU2018-13は、2019年12月15日より後に開始する会計年度および当該会計年度中の中間会計期間についてすべての事業体に適用される。不要となった特定の開示は、サブ・ファンドの財務書類に対する注記から削除された。ASU2018-13の適用は、サブ・ファンドの財務書類に重大な影響を及ぼさなかった。

### 11. 後発事象

受託会社は、2021年5月20日(財務書類の公表日)までに生じたすべての後発取引および後発事象について評価した。2021年4月1日から2021年5月20日までの発行金額は275,821米ドルであり、買戻金額は960,758米ドルであった。サブ・ファンドに関して報告すべきその他の後発事象はない。

## ( 2 ) 投資有価証券明細表等

コクサイ・ケイマン・トラスト -  
米ドル建 米ドルヘッジ 国際・キャピタル 日本株式オープン  
( ケイマン諸島籍 オープン・エンド型投資信託 )

## 投資有価証券明細表

2021年3月31日現在(未監査)

(通貨:米ドル)

投資先ファンドへの投資 - 99.0%	受益証券口数 (口)	純資産比率 (%)	評価額 (米ドル)
ジャパン・エクイティ・マスター・ファンド (コクサイ・トラストのサブ・ファンド) - 米ドル建 米ドルヘッジクラス	130,045	99.0%	\$ 24,720,254
投資先ファンドへの投資合計 (特定された原価 \$ 18,471,804)		99.0	\$ 24,720,254
負債を上回る現金およびその他の資産		1.0	248,302
純資産		100.0%	\$ 24,968,556

2021年3月31日現在、サブ・ファンドは、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの純資産の22.11%を所有している。サブ・ファンドの投資先ファンドにおける個別銘柄の公正価値の比例持分は、サブ・ファンドの純資産の5%を超過していない。

注記は、財務書類と不可分のものである。

[次へ](#)

（Ｂ）コクサイ・ケイマン・トラスト - 豪ドル建 豪ドルヘッジ 国際・キャピタル 日本株式オープン

- a．サブ・ファンドの日本文の中間財務書類は、アメリカ合衆国において一般に公正と認められる会計原則に準拠して作成された原文（英文）の中間財務書類を翻訳したものである（ただし、円換算部分を除く。）。これは「特定有価証券の内容等の開示に関する内閣府令」（平成５年大蔵省令第22号。その後の改正を含む。）に基づき、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号。その後の改正を含む。）第76条第４項ただし書の規定の適用によるものである。
- b．サブ・ファンドの原文の中間財務書類は、外国監査法人等（公認会計士法（昭和23年法律第103号。その後の改正を含む。）第１条の３第７項に規定する外国監査法人等をいう。）の監査を受けていない。
- c．サブ・ファンドの原文の中間財務書類は、オーストラリア・ドル（以下「豪ドル」という。）で表示されている。日本文の中間財務書類には、主要な金額について円換算額が併記されている。日本円への換算には、2021年４月30日現在における株式会社三菱ＵＦＪ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（１豪ドル＝84.75円）が使用されている。なお、千円未満の金額は四捨五入されている。日本円に換算された金額は四捨五入のため合計欄の数値が総数と一致しない場合がある。

[次へ](#)



## (1) 資産及び負債の状況

## コクサイ・ケイマン・トラスト -

## 豪ドル建 豪ドルヘッジ 国際・キャピタル 日本株式オープン

## (ケイマン諸島籍 オープン・エンド型投資信託)

## 資産負債計算書

2021年3月31日現在(未監査)

	豪ドル	千円
資産		
投資先ファンドへの投資(原価:12,649,702豪ドル)	16,813,756	1,424,966
現金	256,274	21,719
未収金:		
投資有価証券売却	190,078	16,109
その他の資産	6,424	544
資産合計	17,266,532	1,463,339
負債		
保管会社に対する債務	110	9
未払金:		
サブ・ファンド受益証券買戻し	190,490	16,144
未払専門家報酬	32,142	2,724
未払販売報酬	29,730	2,520
未払投資顧問報酬	14,375	1,218
未払印刷費用	7,566	641
未払保管報酬	3,464	294
未払受託報酬	2,240	190
未払代行協会員報酬	2,124	180
未払管理報酬	1,699	144
未払管理事務代行報酬および名義書換事務代行報酬	206	17
負債合計	284,146	24,081
純資産	16,982,386	1,439,257
純資産		
豪ドル建 豪ドルヘッジクラス	16,982,386	1,439,257
発行済受益証券口数		
豪ドル建 豪ドルヘッジクラス	1,485,378,430 口	
受益証券1口当たり純資産価格	豪ドル	円
豪ドル建 豪ドルヘッジクラス	0.011433	0.9689

注記は、財務書類と不可分のものである。

コクサイ・ケイマン・トラスト -  
 豪ドル建 豪ドルヘッジ 国際・キャピタル 日本株式オープン  
 （ケイマン諸島籍 オープン・エンド型投資信託）  
 損益計算書

2021年３月31日までの６か月間（未監査）

	豪ドル	千円
費用		
販売報酬	60,606	5,136
投資顧問報酬	30,303	2,568
管理事務代行報酬および名義書換事務代行報酬	30,203	2,560
専門家報酬	27,631	2,342
保管報酬	17,215	1,459
登録費用	11,106	941
印刷費用	9,795	830
受託報酬	6,645	563
代行協会員報酬	4,329	367
管理報酬	3,463	293
費用合計	201,296	17,060
投資純損失	(201,296)	(17,060)
実現および未実現利益（損失）：		
実現純利益（損失）：		
投資先ファンドの売却	814,795	69,054
外国為替取引および外国為替予約取引	(583)	(49)
実現純利益	814,212	69,004
未実現評価益（評価損）の純変動：		
投資先ファンドへの投資	2,038,010	172,721
外国通貨換算および外国為替予約取引	57	5
未実現評価益の純変動	2,038,067	172,726
実現および未実現純利益	2,852,279	241,731
運用による純資産の純増加	2,650,983	224,671

注記は、財務書類と不可分のものである。

コクサイ・ケイマン・トラスト -  
 豪ドル建 豪ドルヘッジ 国際・キャピタル 日本株式オープン  
 （ケイマン諸島籍 オープン・エンド型投資信託）  
 純資産変動計算書  
 2021年３月31日までの６か月間（未監査）

	豪ドル	千円
運用による純資産の純増加（減少）		
投資純損失	(201,296)	(17,060)
実現純利益	814,212	69,004
未実現評価益の純変動	2,038,067	172,726
運用による純資産の純増加	<u>2,650,983</u>	<u>224,671</u>
受益者への分配	(285,051)	(24,158)
サブ・ファンド受益証券取引による純資産の純減少	<u>(3,506,338)</u>	<u>(297,162)</u>
純資産の純減少	(1,140,406)	(96,649)
純資産		
期首	18,122,792	1,535,907
期間末	<u>16,982,386</u>	<u>1,439,257</u>

豪ドル建 豪ドルヘッジクラス

サブ・ファンドの受益証券取引		
受益証券口数		
発行	100,829,573 口	
買戻し	<u>(428,866,629) 口</u>	
受益証券口数の純変動	<u>(328,037,056) 口</u>	
金額		
発行	1,118,238 豪ドル	94,771 千円
買戻し	<u>(4,624,576) 豪ドル</u>	<u>(391,933) 千円</u>
サブ・ファンドの受益証券取引による純減少	<u>(3,506,338) 豪ドル</u>	<u>(297,162) 千円</u>

注記は、財務書類と不可分のものである。

コクサイ・ケイマン・トラスト -  
 豪ドル建 豪ドルヘッジ 国際・キャピタル 日本株式オープン  
 (ケイマン諸島籍 オープン・エンド型投資信託)  
 財務ハイライト  
 2021年3月31日までの6か月間(未監査)

受益証券1口当たりデータ(要約)

	豪ドル建 豪ドルヘッジクラス	
	豪ドル	円
期首1口当たり純資産価格	0.009994	0.8470
投資純損失 <sup>±</sup>	(0.000124)	(0.0105)
投資による実現および未実現純利益	0.001722	0.1459
投資運用による利益合計	0.001598	0.1354
受益者への分配	(0.000159)	(0.0135)
期間末1口当たり純資産価格	0.011433	0.9689
トータル・リターン <sup>(1)</sup>	16.21 %	
期間末純資産	16,982,386	1,439,257,214
平均純資産に対する費用比率 <sup>(2)</sup>	2.04 %	
平均純資産に対する投資純損失比率 <sup>(2)</sup>	(2.04) %	

<sup>±</sup> 当期間の平均発行済受益証券口数に基づいて計算された。

<sup>(1)</sup> トータル・リターンは、再投資された分配金(もしあれば)の影響を踏まえたものである。

<sup>(2)</sup> 専門家報酬および設立費用を除き、1年未満の期間については年換算している。

注記は、財務書類と不可分のものである。

コクサイ・ケイマン・トラスト - 豪ドル建 豪ドルヘッジ 国際・キャピタル 日本株式オープン  
(ケイマン諸島籍 オープン・エンド型投資信託)

財務書類に対する注記

2021年3月31日現在(未監査)

1. 組織

豪ドル建 豪ドルヘッジ 国際・キャピタル 日本株式オープン(以下「サブ・ファンド」という。)は、コクサイ・ケイマン・トラスト(以下「ファンド」という。)のサブ・ファンドであり、ケイマン諸島(以下「ケイマン諸島」という。)のオープン・エンド型投資信託として2010年8月3日に設立された。ファンドは、ブラウン・ブラザーズ・ハリマン・トラスト・カンパニー(ケイマン)リミテッド(以下「受託会社」という。)およびルクセンブルク三菱UFJインベスターサービス銀行S.A.(以下「管理会社」という。)の間で締結された2010年8月3日付信託証書に従って、ケイマン諸島の法律に基づいて設立された。サブ・ファンドは、2014年2月19日に運用を開始した。

受託会社は、ケイマン諸島の銀行・信託会社法(その後の改正を含む。)に基づいて信託会社として業務を行う免許を受けている。

ファンドは、ケイマン諸島のミューチュアル・ファンド法(改正済)(以下「ミューチュアル・ファンド法」という。)に基づく投資信託として登録されており、したがって、ミューチュアル・ファンド法に従い規制される。規制ミューチュアル・ファンドとして、ファンドはケイマン諸島金融庁の監督を受ける。

サブ・ファンドの投資目的は、コクサイ・トラスト(以下「投資先ファンド」という。)のシリーズの一つであるジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの豪ドル建 豪ドルヘッジクラスへの投資を通じて、信託財産の成長を目指すことである。投資先ファンドは、主として日本の金融商品取引所に上場している株式等(同様の金融商品を含む。)に投資する。サブ・ファンドは、資産のほぼすべてを投資先ファンドに投資することにより、投資目的の達成を追求する。したがって、サブ・ファンドは、ファンド・オブ・ファンズの形態で構成されている。本書中のこれに反する記載に関わらず、サブ・ファンドまたは受益者の利益になると判断される場合、サブ・ファンドの資産が株式および確定利付証券を含むその他の有価証券に投資されることがある。

サブ・ファンドは、ASC 946における指針の解釈に基づく投資会社としての定義に合致している。

サブ・ファンドの投資顧問会社は、三菱UFJ国際投信株式会社(以下「投資顧問会社」という。)である。

2. 重要な会計方針

サブ・ファンドの財務書類は、2020年10月1日から2021年3月31日までの期間を反映している。以下は、サブ・ファンドが、アメリカ合衆国において一般に公正と認められる会計原則(以下「USGAAP」という。)に準拠した財務書類を作成するにあたり継続して従っている重要な会計方針の要約である。USGAAPに準拠した財務書類の作成は、財務書類上の報告金額および開示に影響を及ぼす見積りおよび仮定を行うことを経営者に要求している。実際の結果は、これらの見積りと異なることがある。

## (A) 受益証券の純資産価額の決定

サブ・ファンドの純資産価額は、毎「営業日」((1) ロンドン、ニューヨークおよび東京において国、州もしくは地域の銀行が営業を行っている日で、かつ(2) ロンドン証券取引所およびニューヨーク証券取引所が取引を行っている日、または管理会社が随時決定するその他の日をいう。)および管理会社が決定するその他の日(それぞれ「決算日」という。)に計算される。サブ・ファンドの純資産価額(以下「純資産価額」という。)は、管理事務代行報酬、弁護士報酬、監査報酬ならびにその他の専門家報酬および費用を含むがこれに限定されないサブ・ファンドのすべての資産および負債を考慮して計算される。サブ・ファンドの純資産価額および受益証券1口当たり純資産価格は、ブラウン・ブラザーズ・ハリマン・アンド・カンパニー(以下「管理事務代行会社」および「名義書換事務代行会社」という。)によって、各営業日の営業終了時点において小数第6位まで四捨五入して計算される。

## (B) 公正価値測定

サブ・ファンドは、U.S.GAAPに基づく公正価値測定および開示に関する権威ある指針に従って、公正価値測定に使用される評価技法へのインプットを優先順位付けする階層における投資の公正価値を開示している。この階層は、同一の資産または負債の活発な市場における未調整の公表価格に基づく評価を最も高い優先順位(レベル1測定)とし、評価にとって重要な観察不能なインプットに基づく評価を最も低い優先順位(レベル3測定)としている。当該指針が設定する3つのレベルの公正価値のヒエラルキーは以下の通りである。

- ・レベル1 - 公正価値測定には、同一の資産または負債の活発な市場における未調整の公表価格が用いられる。
- ・レベル2 - 公正価値測定には、レベル1に含まれる公表価格以外のインプットで、資産または負債に関して直接的(すなわち、価格)または間接的(すなわち、価格から派生するもの)に観察可能なものが用いられる。
- ・レベル3 - 公正価値測定には、観察可能な市場データに基づかない資産または負債のインプット(観察不能なインプット)を含む評価技法が用いられる。

インプットは、多様な評価技法の適用に使用されるものであり、概して、市場参加者が評価の決定に用いる仮定(リスクの仮定を含む。)のことをいう。インプットは、価格情報、具体的かつ広範な信用情報、流動性統計ならびにその他の要素を含むことがある。公正価値ヒエラルキーにおける金融商品のレベルは、公正価値測定において重要なインプットの最低レベルに基づいている。ただし、いかなる場合に「観察可能」であるかの決定には、投資顧問会社による重大な判断が要求される。投資顧問会社は、観察可能データとは、容易に入手可能な、定期的に配布されるまたは更新される、信頼できかつ検証可能な、非占有の、また該当市場に積極的に参加する独立した情報源によって提供された市場データであると考えている。ヒエラルキーにおける金融商品の分類は、商品の価格決定の透明性に基づいており、認識される当該商品のリスクと必ずしも一致しない。

2021年3月31日現在、投資先ファンドおよびデリバティブに対する投資は、レベル1およびレベル2インプットに基づき評価された。サブ・ファンドは、投資先ファンドおよびデリバティブに対する投資を評価するために「マーケット・アプローチ」による評価技法を使用している。サブ・ファンドは、投資会社に特化した会計指針に従って1口当たり純資産価格を計算する投資先ファンドに対する投資の公正価値の見積りのためにU.S.GAAPの下で権威ある指針に従う。したがって、サブ・ファンドが投資の1口当たり純資産価格が公正価値を示すと決定した場合、サブ・ファンドは、さらなる調整を行っていない当該投資の1口当たり純資産価格(またはそれと同等のもの。)を使用して投資会社に対する投資の公正価格を計上する(以下「現実的手段」という。)。当該指針は、報告事業体の測定日現在、投資会社に特化した会計指針に従って投資の1口当たり純資産価格を決めた場合のみサブ・ファン

ドが現実的手段を用いることを許容する。投資先ファンドに対する投資は、各営業日の最終純資産価額に基づく公正価値で評価される。

#### デリバティブ商品

デリバティブ商品は、取引所取引または店頭（以下「ＯＴＣ」という。）での相対取引が可能である。上場デリバティブ（例えば、先物契約および上場オプション契約）は通常、それらが活発に取引されているとみなされるか否かに応じて公正価値階層のレベル１またはレベル２に分類される。

ＯＴＣデリバティブ（外国為替予約取引を含む。）は、入手可能かつ信頼性があると考えられる場合はいつでも、観察可能なインプット（取引相手方、ディーラーまたはブローカーから受領した相場）を用いて評価される。評価モデルが使用される場合、ＯＴＣデリバティブの価値は、金融商品の契約条件および同商品に内在する固有のリスク、ならびに観察可能なインプットの入手可能性および信頼性に左右される。かかるインプットには参照有価証券の市場価格、イールド・カーブ、クレジット・カーブおよび当該インプットの相関性が含まれる。一般的な外国為替予約取引のような店頭デリバティブは、市場データによる裏付けが通常可能なインプットを有しているため、レベル２として分類される。

これらのＯＴＣデリバティブのうちインプットが観察不能なものはレベル３に分類される。これらのＯＴＣデリバティブの評価に、レベル１および／またはレベル２のインプットが利用される場合がある一方、これらの評価には公正価値の決定にとって重要と考えられる他の観察不能なインプットも含まれる。

以下は、2021年３月31日現在、評価ヒエラルキーの範囲内で項目ごとおよびレベルごとに資産負債計算書に計上された金融商品を示す\*。

投資対象*：	同一の投資対象 の活発な市場に おける（未調整 の）公表価格 （レベル１）	その他の重大な 観察可能な インプット （レベル２）	重大な 観察不能な インプット （レベル３）	純資産価格で 測定される 投資対象	2021年３月31日 現在の公正価値
投資先ファンドへの投資					
ジャパン・エクイティ・マ スター・ファンド（コクサイ・ト ラストのサブ・ファンド）- 豪 ドル建 豪ドルヘッジクラス	\$ -	\$ -	\$ -	\$ 16,813,756	\$ 16,813,756
投資先ファンドへの投資合計	\$ -	\$ -	\$ -	\$ 16,813,756	\$ 16,813,756

\* 有価証券の分類に関するより詳細な情報は、投資有価証券明細表に記載されている。

2021年3月31日に終了した6か月間において、レベル3への、またはレベル3からの移動はなかった。サブ・ファンドは、各レベルから移動した投資有価証券があれば期間末に会計処理を行う。

#### (C) 投資取引および投資収益

財務報告の目的上、投資先ファンドの売買は約定日現在で計上される。損益は個別法に基づき報告される。投資先ファンドからの収益または実現利益の分配は、分配落日に計上される。投資先ファンドによる元本の払戻しに係る分配は投資原価の減額として計上される。

#### (D) 費用

サブ・ファンドは、投資顧問報酬、管理事務代行報酬および会計報酬、保管報酬、名義書換事務代行報酬、監査報酬およびサブ・ファンドの運用に関連するその他の費用を含むが、これらに限定されない自己の費用を負担する。費用項目は発生主義に基づき計上される。

#### (E) 分配方針

管理会社は、その裁量により、2014年10月以降（または、管理会社が決定するこれより後の年以降）、毎年10月14日（当該日が営業日でない場合には翌営業日）に純投資収益、純実現および未実現キャピタル・ゲインならびに分配可能な元本から分配を宣言することができる。分配は、受益者に対して、分配の宣言時から起算して5営業日以内に行われる。

2021年3月31日に終了した6か月間に宣言され支払われた分配金は、以下のとおりである。

受益者への分配	金額
豪ドル建 豪ドルヘッジクラス	\$ 285,051

#### (F) 現金および外国通貨

サブ・ファンドの表示通貨および報告通貨は、豪ドルである。保有する外国有価証券、通貨ならびにその他の資産および負債の公正価値は、毎営業日の実勢為替レートに基づいて、サブ・ファンドの表示通貨に換算される。為替レートの変動による保有通貨ならびにその他の資産および負債の価値の変動は、未実現為替評価損益として計上される。投資有価証券の実現損益および未実現評価損益ならびに収益および費用は、それぞれの取引日および報告日に換算される。投資有価証券およびデリバティブに係る為替レート変動の影響は、損益計算書において、当該証券の市場価格および評価額の変動の影響と区別されないが、実現および未実現純損益に含まれている。

#### (G) 外国為替予約取引

外国為替予約取引とは、将来において定められた価格で通貨を売買する2当事者間の契約である。外国為替レートの変動に伴い、外国為替予約取引の公正価値は変動する。外国為替予約取引は、価格供給機関から入手したレートに基づいて、日次で時価評価され、サブ・ファンドは評価額の変動を未実現評価損益として計上する。契約締結時の価値と契約終了時の価値との差額に相当する実現損益は、通貨の受渡し時に計上される。これらの契約には、資産負債計算書に反映された未実現評価損益を上回る市場リスクが含まれることがある。更に、取引相手方が契約条件を履行できない場合、または通貨価値が基準通貨に対して不利に変動した場合、サブ・ファンドはリスクにさらされる可能性がある。サブ・ファンドはまた、投資者の為替リスクヘッジの目的で外国為替取引を締結することを認められている。

サブ・ファンドは、投資有価証券をヘッジするため、または収益を拡充するために、デリバティブ商品を使用することがある。デリバティブは、その他のタイプの商品よりも、サブ・ファンドが、そのリスク・エクスポージャーをより迅速かつ効果的に増減させることを可能にする。



サブ・ファンドは、予定ヘッジを含むヘッジ目的で外国為替予約取引を利用することができる。ヘッジは、サブ・ファンドがその他のサブ・ファンドの保有財産に伴うリスクを相殺するためにデリバティブを利用する戦略である。ヘッジは、損失を減らすことができる一方で、市場がサブ・ファンドの予測とは異なる態様で変動した場合またはデリバティブのコストがヘッジの利益を超えた場合には、利益を減少させもしくは排除させ、または損失を生じさせる可能性もある。ヘッジは、デリバティブ価額の変動がサブ・ファンドが期待した通りにヘッジされていた当該保有財産の変動に合致しないリスクも伴い、その場合、ヘッジされていた保有財産についての損失が減少せず、増加することがある。サブ・ファンドのヘッジ戦略が、リスクを減少させ、またはヘッジ取引が利用可能となるかもしくは費用効率が良くなるという保証はない。サブ・ファンドは、ヘッジの利用を要求されているわけではなく、それぞれ利用しないことを選択することもできる。リターンの強化を目指したデリバティブの利用は、投機的とみなされることがある。

#### (H) デリバティブ商品

A S C 815 - 10 - 50は、デリバティブ商品およびヘッジ活動に関する開示を要求している。これはすなわち、サブ・ファンドに、a) 事業体がデリバティブ商品をどのように、またなぜ使用するのか、b) デリバティブ商品および関連するヘッジ対象がどのように会計処理されるのか、ならびにc) デリバティブ商品および関連するヘッジ対象が事業体の財政状態、財務成績およびキャッシュ・フローにどのような影響を及ぼすのかについて、開示することを要求している。

外国為替予約取引の公正価値は資産負債計算書に含まれ、公正価値の変動は実現利益（損失）または未実現評価益（評価損）の純変動として損益計算書に反映される。当期間において、サブ・ファンドのデリバティブ商品取引は外国為替予約取引のみで構成されていた。

下表は、サブ・ファンドのデリバティブ商品の公正価値をリスク・エクスポージャー別に要約したものである。

2021年３月31日に終了した６か月間の損益計算書におけるデリバティブ商品の影響

A S C 815に基づくヘッジ商品として計上されていないデリバティブ

位置	外国為替リスク
----	---------

運用の結果として認識されたデリバティブに係る実現利益／（損失）

外国為替予約取引に係る実現純（損失）*	\$ (11)
---------------------	---------

\* 損益計算書において投資先ファンドの売却に係る実現利益（損失）として表示される金額に含まれている。

2021年３月31日現在、または2021年３月31日に終了した期間において、サブ・ファンドは、デリバティブ商品を保有しなかった。

サブ・ファンドは、随時、締結されるOTCデリバティブおよび為替契約を管理する一定の取引相手方との国際スワップ・デリバティブ協会マスター契約、国際外国為替マスター契約または外国為替およびオプションのマスター契約（以下、総称して「マスター契約」という。）等のマスター・ネットिंग契約の当事者である。マスター契約は、とりわけ当事者の一般的義務、表明、合意、担保要件、デフォルト事由および早期終了に関する条項を含むことがある。

担保要件は、サブ・ファンドと各取引相手方との間の正味ポジションに基づいて決定される。担保は、現金または米国政府もしくは関連機関によって発行された債務証券の形式またはサブ・ファンドおよび関連する取引相手方によって合意されたその他の証券の形式が認められている。サブ・ファンドに提供された担保（もしあれば）は、マスター契約の条項に従って、一定の取引相手方に関しては、サ

ブ・ファンドの保管会社によって分別勘定で保管され、また、売却可能または再担保差入れ可能な金額に関しては、投資有価証券明細表に記載されている。サブ・ファンドが設定した担保（もしあれば）は、サブ・ファンドの保管会社によって分別され、投資有価証券明細表において特定される。2021年3月31日現在、サブ・ファンドが担保として差し入れた有価証券または現金はなかった。

サブ・ファンドに適用ある終了事由は、サブ・ファンドの純資産が、一定の期間にわたり特定の限界値を下回った場合に発生することがある。取引相手方に適用ある終了事由は、取引相手方の信用格付が特定レベルを下回った場合に発生することがある。いずれのケースにおいても、発生時に、その他の当事者は早期終了を選択し、終了当事者の合理的な決定に基づき、当該早期終了から生じた損失および費用の支払を含むすべての未決済のデリバティブおよび為替契約の決済を行うことがある。早期終了を選択するサブ・ファンドの一または複数の取引相手方による決定は、サブ・ファンドの将来のデリバティブ活動に対して影響を及ぼす可能性がある。

### ３．投資先ファンド

本「３．投資先ファンド」中の以下の情報は、投資先ファンドの2020年9月30日現在の監査済み財務書類から抜粋されたもので、投資先ファンドの2021年3月31日現在の情報と一致している。

#### 3.1. 投資先ファンドの組織

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンド（以下「ジャパン・エクイティ・マスター・ファンド」という。）は、2009年9月2日に設立されたケイマン諸島のオープン・エンド型投資信託（以下「マスター・ファンド」という。）のもとで2013年10月3日付補遺信託証書（以下「補遺信託証書」という。）に従い設立されたサブ・ファンドである。マスター・ファンドは、ケイマン諸島の法律に基づいて設立された信託会社であるインタートラスト・トラスティーズ（ケイマン）リミテッド（以下「投資先ファンドの受託会社」という。）が行った信託宣言に従って設立された。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、2013年10月24日付で運用を開始した。

注記3において、インタートラスト・トラスティーズ（ケイマン）リミテッドは、注記1において定義されるサブ・ファンドの受託会社（ブラウン・ブラザーズ・ハリマン・トラスト・カンパニー（ケイマン）リミテッド）と区別する目的においてのみ、投資先ファンドの受託会社と称される。

投資先ファンドの受託会社は、ケイマン諸島の銀行・信託会社法（その後の改正を含む。）に基づいて信託会社として業務を行う免許を受けている。

現在、投資家に対して13のクラスの受益証券が販売されている。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの運用開始時には、投資家に対し11のクラス（豪ドルクラス、ブラジル・リアルクラス、人民元クラス、ユーロクラス、インドネシア・ルピアクラス、日本円クラス、メキシコ・ペソクラス、ロシア・ルーブルクラス、トルコ・リラクラス、米ドルクラスおよび南アフリカ・ランドクラス）の受益証券が販売されていた。豪ドル建 豪ドルヘッジクラスおよび米ドル建 米ドルヘッジクラスを除く各クラスの販売は、日本円で行われる。豪ドル建 豪ドルヘッジクラスおよび米ドル建 米ドルヘッジクラスの販売は、それぞれ豪ドルおよび米ドル建で行われる。また、金利差に相当する為替ヘッジ・プレミアムおよび受益証券クラスの通貨（以下「クラス通貨」という。）の高騰に由来する為替差益を追求するため、日本円クラスを除く各株式クラスは、外国為替予約取引またはノン・デリバラブル・フォワード取引を締結することによる、為替ヘッジ・ポジションを有している。ヘッジ・ポジションを取る場合、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、クレディ・スイス・インターナショナル（以下「為替管理事務代行会社」という。）が提供するヘッジ・オーバーレイ・サービスを利用することに同意する。

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、三菱ＵＦＪ国際投信株式会社によって設定された特定の日本の投資信託（三菱ＵＦＪ国際投信株式会社が投資顧問業務を提供しているケイマン諸島の信託である、コクサイ・ケイマン・トラストのサブ・ファンドに対してのみ販売される豪ドル建 豪ドルヘッジクラスおよび米ドル建 米ドルヘッジクラスを除く。）のマスター・ファンドとしてのみ設立されている。

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの機能通貨および表示通貨（以下「機能通貨」という。）は、日本円である。投資先ファンドの受託会社は、任意の運用通貨によるクラスを指定することができる。受益証券の発行および買戻しは、そのクラスの運用通貨で処理され、受益証券１口当たり純資産価格は、当該クラスの運用通貨で計算および値付けされる。豪ドル建 豪ドルヘッジクラスの運用通貨は、豪ドルであり、豪ドルクラス、ブラジル・レアルクラス、人民元クラス、ユーロクラス、インドネシア・ルピアクラス、日本円クラス、メキシコ・ペソクラス、ロシア・ルーブルクラス、トルコ・リラクラス、米ドルクラスおよび南アフリカ・ランドクラスについては、日本円であり、また、米ドル建 米ドルヘッジクラスについては、米ドルである。2020年９月30日現在、豪ドル建 豪ドルヘッジクラスおよび米ドル建 米ドルヘッジクラスの運用通貨建の受益証券１口当たり純資産価格は、それぞれ161.8600豪ドルおよび160.6100米ドルであった。

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの投資目的は、主として日本の金融商品取引所に上場している株式等（これに準じるものを含む。）に投資することにより、信託財産の成長を追求することである。市場の全サイクルを通じて、投資運用会社は、ＴＯＰＩＸ配当込み指数を日本円建て年間1.5%（手数料控除前）上回ることを目指している。

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは投資会社であり、米国財務会計基準審議会（以下「ＦＡＳＢ」という。）会計基準編纂書Topic 946「金融サービス - 投資会社」の投資会社の会計および報告に関する指針に従う。

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの投資運用会社は、キャピタル・インターナショナル株式会社（以下「投資運用会社」という。）である。

### 3.2. 投資先ファンドの重要な会計方針の要約

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの財務書類は、2019年10月1日から2020年9月30日（ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの会計年度末日を指す。）までの期間を反映している。以下は、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドが、アメリカ合衆国において一般に公正と認められる会計原則（以下「Ｕ．Ｓ．ＧＡＡＰ」という。）に準拠した財務書類を作成するにあたり継続して従っている重要な会計方針の要約である。Ｕ．Ｓ．ＧＡＡＰに準拠した財務書類の作成は、財務書類上の報告金額および開示に影響を及ぼす見積りおよび仮定を行うことを経営者に要求している。実際の結果は、これらの見積りと異なることがある。

#### (A) 受益証券の純資産価額の決定

ブラウン・ブラザーズ・ハリマン・アンド・カンパニー（以下「管理事務代行会社」という。）は、投資先ファンドの受託会社の最終的な権限の下、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの全資産の評価を行う。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの純資産価額（以下「純資産価額」という。）は、毎「営業日」（日本における祝日以外の日であり、かつ、ニューヨーク証券取引所、ならびにニューヨーク、ロンドンおよび日本の銀行が営業を行っている日をいう。）および投資先ファンドの受託会社が決定するその他の日（それぞれ「決算日」という。）に計算される。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの純資産価額は、管理事務代行報酬、弁護士報酬、監査報酬ならびにその他の専門家報酬および費用を含むがこれらに限定されないジャパン・エクイティ・マスター・ファンドのすべての資産および負債を考慮して計算される。受益証券１口当たり純資産価格は、日本円建てで計算される。豪ドル建 豪ドルヘッジクラスおよび米ドル建 米ドルヘッジクラス（これらの純資産価額は、それぞれ豪ドルおよび米ドル建てで計算される。）の純資産価額は、表示通貨である日本円に換算される。各クラスの受益証券１口当たり純資産価格は、通常、各営業日において計算され、受益証券１口当たり純資産価格は、小数第４位まで四捨五入して調整される。

#### (B) 証券の評価

純資産価額の計算にあたり、市場相場が容易に入手可能な組入有価証券およびその他の資産は、公正価値で表示される。公正価値は、通常、当該証券の主要な市場である証券取引所における最新の売値に基づいて決定され、売却が報告されていない場合は、相場報告システム、確立したマーケット・メーカーまたは独立したプライシング・サービスから取得された相場に基づき決定される。

市場相場が容易に入手可能ではない証券およびその他の資産は、管理事務代行会社が、投資先ファンドの受託会社の最終的な権限の下で誠実に決定した公正価値により評価される。管理事務代行会社は、市場相場が容易に取得可能ではない場合において証券およびその他の資産を評価するための手法を採用している。例えば、日次の市場相場が容易に取得可能ではない特定の証券または投資は、投資先ファンドの受託会社が確立したガイドラインに従って、他の証券または指標を参照した上で評価することができる。

市場相場は、直近のまたは信用に値する、市場に基づくデータ（例えば、取引情報、買呼値／売呼値に関する情報、ブローカーによる相場価格）が存在しない場合に、容易に入手可能ではないものとみなされ、関連する市場の取引終了後においてジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの証券または資産の価値に重大な影響を与える事由が発生した場合も含まれる。更に、市場相場は、特別な事情により、当該証券が取引される取引所または市場において終日取引が行われない、またはその他の市場価格が入手できない場合にも、容易に入手可能ではないものとみなされる。管理事務代行会社は、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの証券または資産の価値に著しい影響を与える重大な事由の監視、および当該重大な事由に鑑みて該当する証券または資産の価値の再評価の必要性の有無の判断につき責任を負う。

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドがその純資産価額の決定のために公正価値を決定する場合、証券の価格は、当該証券が取引される主要な市場における相場ではなく、管理事務代行会社またはその指示の下に行為する者が公正価値を正確に反映していると考えその他の方法により決定される。公正価値の決定には、証券の価値に関する主観的な判断が必要となる。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの方針は、価格決定時の証券の価値を適正に反映した純資産価額の計算を意図したものであるが、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、当該証券を価格決定時点で売却する場合（例えば、強制的または危殆時における売却等）に、投資先ファンドの受託会社またはその指示の下に行為する者によって決定された公正価値が、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドが当該証券について取得することができたであろう価格を正確に反映していることを保証することはできない。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドが使用する価格は、当該証券が売却された場合に実現可能であったであろう価値と異なることがあり、両者の差異は、財務書類上重大である場合がある。

#### 公正価値測定

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、Ｕ．Ｓ．ＧＡＡＰに基づく公正価値測定および開示に関する権威ある指針に従って、公正価値測定に使用される評価技法へのインプットを優先順位付けする階層における投資の公正価値を開示している。この階層は、同一の資産または負債の活発な市場における未調整の公表価格に基づく評価を最も高い優先順位（レベル１測定）とし、評価にとって重要な観察不能なインプットに基づく評価を最も低い優先順位（レベル３測定）としている。当該指針が設定する３つのレベルの公正価値の階層は以下の通りである。

- ・レベル１ - 公正価値測定には、同一の資産または負債の活発な市場における未調整の公表価格が用いられる。
- ・レベル２ - 公正価値測定には、レベル１に含まれる公表価格以外のインプットで、資産または負債に関して直接的（すなわち、価格）または間接的（すなわち、価格から派生するもの）に観察可能なものが用いられる。
- ・レベル３ - 公正価値測定には、観察可能な市場データに基づかない資産または負債のインプット（観察不能なインプット）を含む評価技法が用いられる。

インプットは、多様な評価技法の適用に使用されるものであり、概して、市場参加者が評価の決定に用いる仮定（リスクの仮定を含む。）のことをいう。インプットは、価格情報、具体的かつ広範な信用情報、流動性統計ならびにその他の要素を含むことがある。公正価値ヒエラルキーにおける金融商品のレベルは、公正価値測定において重要なインプットの最低レベルに基づいている。ただし、いかなる場合に「観察可能」であるかの決定には、投資運用会社による重大な判断が要求される。投資運用会社は、観察可能データとは、容易に入手可能な、定期的に配布されるまたは更新される、信頼できかつ検証可能な、非占有の、また該当市場に積極的に参加する独立した情報源によって提供された市場データであると考えている。ヒエラルキーにおける金融商品の分類は、商品の価格決定の透明性に基づいており、投資先ファンドの受託会社によって認識される当該商品のリスクと必ずしも一致しない。

#### 投資

活発な市場における市場相場に基づき評価され、レベル１に分類される投資には、株式および短期金融証券が含まれる。投資先ファンドの受託会社は、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドが多額のポジションを有しており、売却が相場価格に合理的に影響を与える場合であっても、当該証券について相場価格の調整を行わない。

活発ではないとみなされる市場において取引されるが、市場相場価格、ディーラーによる相場価格または観察可能なインプットによって裏付けられる代替的な価格決定のための情報源に基づき評価される投資は、レベル２に分類される。当該投資には、社債、ソブリン債および一部の優先株式が含まれる。

レベル２投資には、活発な市場において取引されない、かつ／または譲渡制限の対象となるポジションが含まれているため、非流動性および／または非譲渡可能性を反映する形で評価が調整されることがあり、これらは、通常、入手可能な市場の情報に基づく。定期預金を含め、満期までの期間が60日以下の短期有価証券は、通常、償却原価（公正価値に近似する。）を用いて評価される。インプットが観察可能である場合、当該価格はレベル２に分類される。

#### デリバティブ商品

デリバティブ商品は、取引所取引または店頭（以下「ＯＴＣ」という。）での相対取引が可能である。上場デリバティブ（例えば、上場先物契約およびオプション契約）は通常、それらが活発に取引されているとみなされるか否かに応じて公正価値ヒエラルキーのレベル１またはレベル２に分類される。

ＯＴＣデリバティブ（外国為替予約取引を含む。）は、入手可能かつ信頼性があると考えられる場合はいつでも、観察可能なインプット（取引相手方、ディーラーまたはブローカーから受領した相場）を用いて評価される。評価モデルが使用される場合、ＯＴＣデリバティブの価値は、金融商品の契約条件および同商品に内在する固有のリスク、ならびに観察可能なインプットの入手可能性および信頼性に左右される。かかるインプットには参照有価証券の市場価格、イールド・カーブ、クレジット・カーブおよび当該インプットの相関性が含まれる。一般的な予約取引のような店頭デリバティブは、市場データによる裏付けが通常可能なインプットを有しているため、レベル２として分類される。

これらのＯＴＣデリバティブのうち、インプットが観察不能なものはレベル３に分類される。これらのＯＴＣデリバティブの評価に、レベル１および／またはレベル２のインプットが利用される場合がある一方、これらの評価には公正価値の決定にとって重要と考えられる他の観察不能なインプットも含まれる。

下表は、2020年９月30日現在、評価ヒエラルキーの範囲内で項目ごとおよびレベルごとに資産負債計算書に計上された金融商品を示したものである。

投資対象*：	同一の投資に係る 活発な市場における（未調整 の）公表価格 （レベル１）	その他の重大な 観察可能な インプット （レベル２）	重大な 観察不能な インプット （レベル３）	2020年９月30日 現在の公正価値
普通株式				
農業	¥ 68,044,000	¥ -	¥ -	¥ 68,044,000
航空	49,739,800	-	-	49,739,800
自動車製造	180,147,300	-	-	180,147,300
自動車部品および機器	109,408,600	-	-	109,408,600
銀行	194,977,750	-	-	194,977,750
飲料	17,183,200	-	-	17,183,200
建設資材	179,490,000	-	-	179,490,000
化学製品	734,319,710	-	-	734,319,710
商業サービス	326,368,000	-	-	326,368,000
コンピューター	1,142,940,400	-	-	1,142,940,400
化粧品／パーソナルケア	688,887,100	-	-	688,887,100
流通／卸売	202,278,750	-	-	202,278,750
各種金融サービス	281,602,300	-	-	281,602,300
電子機器	652,716,000	-	-	652,716,000
土木建築	24,401,200	-	-	24,401,200
食品	81,420,000	-	-	81,420,000
手工具／工作機械	68,607,000	-	-	68,607,000
健康管理用品	523,912,300	-	-	523,912,300
住宅建設業	159,961,750	-	-	159,961,750
家財道具	160,640,000	-	-	160,640,000
保険	161,460,000	-	-	161,460,000
インターネット	387,353,800	-	-	387,353,800
鉄鋼	140,818,500	-	-	140,818,500
娯楽	45,584,000	-	-	45,584,000
機械 - 建設および採掘	426,696,300	-	-	426,696,300
各種機械	1,066,531,000	-	-	1,066,531,000
金属製造／ハードウェア	51,069,000	-	-	51,069,000
鉱業	37,247,000	-	-	37,247,000
石油およびガス	64,689,800	-	-	64,689,800
容器包装	136,444,000	-	-	136,444,000
製薬	1,041,122,100	-	-	1,041,122,100
小売業	1,082,472,000	-	-	1,082,472,000
半導体	452,804,000	-	-	452,804,000
ソフトウェア	395,308,200	-	-	395,308,200
電気通信	434,156,000	-	-	434,156,000
玩具／ゲーム／趣味	89,490,000	-	-	89,490,000
短期投資				
定期預金	-	385,537,847	-	385,537,847
投資合計	¥ 11,860,290,860	¥ 385,537,847	¥ -	¥ 12,245,828,707

金融デリバティブ商品**	同一の投資に係る 活発な市場における（未調整 の）公表価格 （レベル１）	その他の重大な 観察可能な インプット （レベル２）	重大な 観察不能な インプット （レベル３）	2020年９月30日 現在の公正価値
資産				
外国為替予約取引	¥ -	¥ 37,060,933	¥ -	¥ 37,060,933
負債				

外国為替予約取引	¥	- ¥	(28,603,312) ¥	- ¥	(28,603,312)
----------	---	-----	----------------	-----	--------------

- \* 有価証券の分類に関するより詳細な情報は、投資有価証券明細表に記載されている。
- \*\* 外国為替予約取引等の金融デリバティブ商品は、商品に係る未実現評価益／（評価損）で評価されている。

2020年９月30日に終了した年度において、レベル３への、またはレベル３からの移動はなかった。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、各レベルから移動した投資有価証券があれば期末に会計処理を行う。

2020年９月30日現在、レベル３として評価される証券はなかった。

#### (C) 証券取引および投資収益

財務報告の目的上、証券取引は取引日において計上される。証券の売却による実現損益は、個別法に基づき報告される。分配収益は、分配落日に計上される。ただし、分配落日が経過している場合、外国有価証券からの特定の配当金は、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドが合理的な努力をはらって分配落日を確認した後速やかに計上される。投資収益について外国税の還付の有無が不確定の場合、投資収益は、外国税を控除した上で計上される。その他の収益には、定期預金の利息が含まれる。

#### (D) 分配方針

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、シリーズごとの決議による承認をもって、各クラスにつき分配金（現金または現物による。）の再投資を宣言し、これを手配する。日本円以外の通貨建のクラスについて、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、分配を行う意向を有していない。

分配は、毎月行われ、（ ）純実現キャピタル・ゲイン（ヘッジ・ポジションを含む。）、純未実現キャピタル・ゲインおよび純収益から拠出されたプラスの総額と、（ ）ポートフォリオの分配イールド、純ファンド費用および通貨ヘッジ・プレミアム（費用）に基づく論理的な収益予想（各クラスの純資産合計額により計算される。）のいずれか大きい方に基づき計算される。

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、管理事務代行会社が上記のとおり決定するより大きい方の金額につきクラスの各受益者に対して毎月分配を宣言し、当該分配金は、再投資される。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、当該月に係る分配金を前月の最終営業日または投資先ファンドの受託会社とその単独の裁量において決定するその他の日付（以下「基準日」という。）において宣言し、通常、当該月の最初の営業日（当該日が営業日ではない場合は、翌営業日）または投資先ファンドの受託会社とその単独の裁量において決定するその他の日付（以下「分配日」という。）において、当該分配金を再投資する。各クラスの受益者は、分配金の再投資を選択しているため、関連する分配日において、受益証券が発行される。



2020年９月30日に終了した年度について宣言され、かつ、再投資された分配金は以下のとおりである。

受益者への分配	金額
豪ドルクラス	¥ 4,723,913
ブラジル・リアルクラス	26,954,061
人民元クラス	2,189,948
ユーロクラス	1,354,467
インドネシア・ルピアクラス	4,681,239
日本円クラス	9,072,712
メキシコ・ペソクラス	17,201,569
ロシア・ルーブルクラス	326,333,468
トルコ・リラクラス	96,636,374
米ドルクラス	128,333,975
南アフリカ・ランドクラス	2,005,481
合計	¥ 619,487,207

#### (E) 現金および外国通貨

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの機能通貨および報告通貨は、日本円である。保有する外国有価証券、通貨ならびにその他の資産および負債の公正価値は、毎営業日の実勢為替レートに基づいて、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの機能通貨に換算される。為替レートの変動による保有通貨ならびにその他の資産および負債の価値の変動は、未実現為替評価損益として計上される。投資有価証券の実現損益および未実現評価損益ならびに収益および費用は、それぞれの取引日および報告日に換算される。証券およびデリバティブへの投資に係る外国為替レート変動の影響は、損益計算書において、当該証券の市場価格および評価額の変動の影響と区別されないが、実現および未実現純損益に含まれている。

#### (F) 定期預金

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、ブラウン・ブラザーズ・ハリマン・アンド・カンパニー（以下「保管会社」という。）を通じて、余剰の現金残高を翌日物定期預金として、投資運用会社が決定する１または複数の適格な預金受入機関に預託している。当該預金は、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの投資有価証券明細表において、短期投資に分類されている。日本銀行による預金金利の引下げにより、日本円建ての短期投資の利率は、０％未満となる可能性がある。

#### (G) 外国為替予約取引

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの有価証券の一部もしくは全部に関する通貨エクスポージャーをヘッジするため、または投資戦略の一環として、計画された有価証券売買の決済に関連する外国為替予約取引を締結する。外国為替予約取引とは、将来において定められた価格で通貨を売買する２当事者間の契約である。外国為替レートの変動に伴い、外国為替予約取引の公正価値は変動する。外国為替予約取引は、価格提供会社から入手したレートに基づいて、日次で時価評価され、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは評価額の変動を未実現評価損益として計上する。契約締結時の価値と契約終了時の価値との差額に相当する実現損益は、通貨の受渡し時に計上される。これらの契約には、資産負債計算書に反映された未実現評価損益を上回る市場リスクが含まれることがある。更に、取引相手方が契約条件を履行できない場合、または通貨価値

が基準通貨に対して不利に変動した場合、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドはリスクにさらされる可能性がある。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドはまた、投資者の為替リスクヘッジの目的で外国為替予約取引を締結することを認められている。クラス固有の外国為替取引から生じる損益はそれら固有のクラスに配分される。2020年9月30日現在の未決済の外国為替予約取引の一覧は、投資有価証券明細表に記載されている。

#### (H) デリバティブ商品

A S C 815 - 10 - 50は、デリバティブ商品およびヘッジ活動に関する開示を要求している。これはすなわち、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドに、a) 事業体がデリバティブ商品をどのように、またなぜ使用するのか、b) デリバティブ商品および関連するヘッジ対象がどのように会計処理されるのか、ならびにc) デリバティブ商品および関連するヘッジ対象が事業体の財政状態、財務成績およびキャッシュ・フローにどのような影響を及ぼすのかについて、開示することを要求している。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、デリバティブ商品をA S C 815に基づくヘッジ商品に指定していない。

外国為替予約取引の公正価値は資産負債計算書に含まれ、公正価値の変動は実現利益(損失)または未実現評価益/(評価損)の純変動として損益計算書に反映される。2020年9月30日に終了した年度において、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドのデリバティブ商品取引は外国為替予約取引のみで構成されていた。

下表は、サブ・ファンドのデリバティブ商品の公正価値をリスク・エクスポージャー別に要約したものである。

2020年9月30日現在の資産負債計算書におけるデリバティブ商品の公正価値  
A S C 815に基づくヘッジ商品として計上されていないデリバティブ

位置	外国為替リスク＊	
資産デリバティブ		
外国為替予約取引に係る未実現評価益	¥	37,060,933
負債デリバティブ		
外国為替予約取引に係る未実現（評価損）	¥	(28,603,312)

\* 総価額は、資産負債計算書における外国為替予約取引に係る未実現評価損益の項に記載されている。

## 2020年9月30日に終了した年度の損益計算書におけるデリバティブ商品の影響

## ASC 815に基づくヘッジ商品として計上されていないデリバティブ

位置	外国為替リスク
----	---------

運用の結果として認識されたデリバティブに係る実現利益/(損失)

外国為替予約取引に係る実現純(損失)\* ￥ (861,145,314)

運用の結果として認識されたデリバティブに係る  
未実現評価益/(評価損)の変動

外国為替予約取引に係る未実現評価益の純変動\*\* ￥ 38,501,148

\* 損益計算書において外国為替取引および外国為替予約取引に係る実現利益(損失)として表示される金額に含まれている。

\*\* 損益計算書において外国為替換算および外国為替予約取引による未実現評価益(評価損)の純変動として表示される金額に含まれている。

2020年9月30日に終了した年度において、外国為替予約取引の平均月次元本は以下のとおりであった。

豪ドルクラス	￥	247,878,370
豪ドル建 豪ドルヘッジクラス	￥	1,714,210,109
ブラジル・リアルクラス	￥	675,015,573
人民元クラス	￥	53,238,587
ユーロクラス	￥	115,193,060
インドネシア・ルピアクラス	￥	60,183,735
メキシコ・ペソクラス	￥	242,590,646
ロシア・ルーブルクラス	￥	5,243,333,412
トルコ・リラクラス	￥	785,537,898
米ドルクラス	￥	5,340,358,532
米ドル建 米ドルヘッジクラス	￥	3,550,844,400
南アフリカ・ランドクラス	￥	31,723,902

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、随時、締結されるOTCデリバティブおよび為替契約を管理する一定の取引相手方との国際スワップ・デリバティブ協会マスター契約、国際外国為替マスター契約または外国為替およびオプションのマスター契約(以下、総称して「マスター契約」という。)等のマスター・ネットリング契約の当事者である。マスター・ネットリング契約は、とりわけ当事者の一般的義務、表明、合意、担保要件、デフォルト事由および早期終了に関する条項を含むことがある。

担保要件は、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドと各取引相手方との間の正味ポジションに基づいて決定される。担保は、現金または米国政府もしくは関連機関によって発行された債務証券の形式またはジャパン・エクイティ・マスター・ファンドおよび関連する取引相手方によって合意されたその他の証券の形式が認められている。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドに提供された担保(もしあれば)は、マスター・ネットリング契約の条項に従って、一定の取引相手方に関しては、保管会社によって分別勘定で保管され、また、売却可能または再担保差入れ可能な金額に関しては、投資有

価証券明細表に記載されている。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドが設定した担保（もしあれば）は、保管会社によって分別され、投資有価証券明細表において特定される。2020年9月30日現在、担保として差し入れた有価証券または現金はなかった。

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドに適用ある終了事由は、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの純資産が、一定の期間にわたり特定の限界値を下回った場合に発生することがある。取引相手方に適用ある終了事由は、取引相手方の信用格付が特定レベルを下回った場合に発生することがある。いずれのケースにおいても、発生時に、その他の当事者は早期終了を選択し、終了当事者の合理的な決定に基づき、当該早期終了から生じた損失および費用の支払を含むすべての未決済のデリバティブおよび為替契約の決済を行うことがある。早期終了を選択するジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの一または複数の取引相手方による決定は、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの将来のデリバティブ活動に対して影響を及ぼす可能性がある。

#### (1) 受益証券

2020年9月30日現在、すべての発行済み受益証券は、三菱ＵＦＪ国際投信株式会社により設定された3名の関連する受益者によって保有されていた。当該3名の受益者は、純資産の100%に対して持分を有していた。

受益証券は、純資産価額に基づきプロラタ方式でジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの利益および分配に参加するクラスにつき、以下に記載する終了事由の際の資産に係する範囲において発行される。受益証券は、無額面であり、発行時にその全額が払い込まなければならない、優先権または先買権は付されていない。管理事務代行会社は、整数または端数の受益証券を発行することができる。

#### 発行

当初払込日以降、各クラスの受益証券は、各営業日において、関連する申込注文が受諾された当該営業日の受益証券の1口当たり純資産価格で購入可能となる。

特定の営業日に取引が実行されるために、取得申込書類は、管理会社が別段の合意をしない限り、当該営業日の「指定時刻」（日本円建クラスの場合は東京時間の午後6時、日本円以外の通貨建クラスの場合はルクセンブルグ時間の午後1時、または投資先ファンドの受託会社が適切とみなす時刻）までに管理事務代行会社に受領されなければならない。指定時刻を過ぎた後に受領された取得申込みは、翌営業日に受領されたものとみなされる。

申込金額は、管理会社が別段の合意をしない限り、該当する営業日（当該営業日を含む。）から5営業日目に保管会社により受領されなければならない。

受益証券に関して券面は発行されないが、（明示的に要求された場合）受益証券の発行の確認書が、管理事務代行会社により交付される。ただし、申込手取金の支払が保管会社に受領されることを条件とする。

投資先ファンドの受託会社および管理事務代行会社は、それぞれの単独の裁量により、受益証券の申込みの全部または一部を拒絶する権利を有する。

#### 買戻し

受益者は、毎営業日および投資先ファンドの受託会社はその裁量により決定するその他の日時（以下、それぞれの日を「買戻日」という。）に、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドに対して、保有する受益証券のすべてまたは一部について買戻しを請求することができる。受益者は、投資先ファ

ンドの管理事務代行会社に対して、買戻日の指定時刻までに買戻日現在の受益証券の買戻を請求しなければならない。指定時刻を過ぎて受領された申込みは、翌営業日に受領されたものとみなされる。

買戻請求には、買戻日、および買戻しを行う受益者の受益証券の割合、受益者の受益証券の具体的な口数または買い戻される受益証券の各通貨での金額のいずれかを明記しなければならない。

ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドが、関連する買戻日またはそれより前に清算を開始した場合、いかなる買戻請求も有効とはならない。買戻価格は、買戻日における当該クラスの受益証券１口当たり純資産価格である。投資先ファンドの受託会社の単独の裁量において、またはその受任者により、受益者による買戻しの条件が取消しまたは修正されることがある。

日本円建クラスの買戻金額は、通常、関連する買戻日から４「東京営業日」（東京において銀行が営業している日）以内に日本円で支払われる。日本円以外の通貨建のクラスについては、買戻金額は、通常、関連する買戻日から４営業日以内に各クラスの通貨で支払われる。

#### 譲渡

受益証券の募集は1933年米国証券法（その後の改正を含む。）に基づく登録を受けていないため、各購入者は、申込契約において、当該購入者による受益証券の購入が投資目的であり、当該受益証券の全部または一部の譲渡または処分を意図していない旨の表明保証を行わなければならない。

受益者は、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドに対して書面による事前の通知を行い、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの書面による事前の同意（ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、その単独かつ絶対的な裁量において当該同意を留保することができる。また、通常、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、当該同意を付与する意向を有していない。）を取得することなく、自身が保有する受益証券の全部または一部を譲渡またはその他贈与等の方法により処分してはならない。受益者の死亡に伴い譲渡または処分が提案される場合、当該受益者の財産につき適式に授權された代理人による通知を行うことができる。当該通知は、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドにとって満足のいく形の法的権限に係る証拠により裏付けられたものでなければならない。ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドは、法律の適用により受益証券の所有権を取得した者により保有される受益証券を強制的に買い戻す権利を有する。

#### (J) 報酬および費用

投資先ファンドは、自らの費用（会計・事務管理報酬、投資運用報酬、投資先ファンドの受託報酬、保管報酬、名義書換事務代行報酬、為替管理事務代行報酬および投資先ファンドの運用に関連するその他の費用を含むが、これらに限定されない。）を負担する。これらの報酬は、投資先ファンドへの投資の純資産価額を通じて間接的にサブ・ファンドが負担している。

#### ４．受益証券

2021年３月31日現在、サブ・ファンドにより発行されたすべての受益証券は、単一の受益者名義で保有されている。当該受益者の投資活動は、サブ・ファンドに重大な影響を与える可能性がある。

##### (Ａ) 発行

当初払込日以降、サブ・ファンドの受益証券は、各営業日において、関連する申込注文が受諾された当該営業日の受益証券１口当たり純資産価格で購入可能となる。

特定の営業日に取引が実行されるために、取得申込書類は、管理会社が別段の合意をしない限り、当該営業日の指定時刻（ルクセンブルグ時間の午後１時）までに管理事務代行会社に受領されなければならない。指定時刻を過ぎた後に受領された取得申込みは、翌営業日に受領されたものとみなされる。

申込金額は、管理会社が別段の合意をしない限り、該当する営業日（当該営業日を含む。）から５営業日目にブラウン・ブラザーズ・ハリマン・アンド・カンパニー（以下「保管会社」という。）により受領されなければならない。

受益証券に関して券面は発行されないが、（明示的に要求された場合）受益証券の発行の確認書が、管理事務代行会社により交付される。ただし、申込手取金の支払が保管会社に受領されることを条件とする。

管理会社、受託会社および管理事務代行会社は、それぞれの単独の裁量により、受益証券の申込みの全部または一部を拒絶する権利を有する。

受益者は、ケイマン諸島の2008年犯罪収益法（随時改正される。）および管理事務代行会社に適用されるマネー・ロンダリング防止法の要求に従い、マネー・ロンダリング防止手続の遵守を要求される。

##### (Ｂ) 買戻し

当初払込日以降、受益者はいずれかの営業日に自己の受益証券の全部または一部を買い戻すことができる。受益証券の買戻しの申込みが営業日に処理されるためには、当該申込みは、営業日の指定時刻前に管理事務代行会社により受領されなければならない。指定時刻後に受領された申込みは、翌営業日に受領されたものとみなされる。

管理会社は、その単独の裁量により、受益証券の買戻請求の全部または一部を拒絶する権利を留保する。

買戻金額の支払は、サブ・ファンドの表示通貨建てで、管理会社が買戻請求を承認した日（同日を含む。）から通常５営業日以内に、保管会社またはその代理人によって行われる。

受益証券の買戻金額は、管理会社が買戻請求を承認した営業日現在の１口当たり純資産価格とする。管理事務代行会社は、買戻しを行う受益者に支払われる買戻代金から第三者の費用または源泉徴収税（該当する場合）を控除することができる。買戻しは１口単位で行われなければならない。

## ５．リスク要因

受益証券は、相当の損失リスクを伴う投機的な非流動証券であり、サブ・ファンドに対する投資がその投資家の投資プログラムのすべてを占めるものではなく、かつサブ・ファンドに対する投資のリスクを十分に理解し、かかるリスクを負う能力を有する投資に精通した個人による投資のみに適している。サブ・ファンドにより株式への集中投資が行われることで、サブ・ファンドへの投資が一部のポートフォリオに不適切となることがある。以下のリスクについての要約に記載されたサブ・ファンドならびにサブ・ファンドの投資対象およびポートフォリオに関する言及は、サブ・ファンドおよび投資先ファンドの投資対象およびポートフォリオに関する複合的リスクについて言及するものである。サブ・ファンドに対する投資に伴うすべてのリスクの完全なリストとされるものではない以下の勘案事項は、サブ・ファンドに対する投資を行う前に慎重に評価されるべきである。

### (A) 市場リスク

市場リスクとは、サブ・ファンドが投資する一つ以上の市場の価格が下がるリスクをいい、市場が急激にかつ予測不能に下降する可能性を含む。選択リスクとは、サブ・ファンドの経営陣が選択する証券の運用実績が、同様の投資目的および投資戦略を持つその他のファンドが選択する市場、関連する指数または証券の運用実績を下回るリスクをいう。

### (B) 為替リスク

投資先ファンドは、主に日本円建の資産に投資する。サブ・ファンドは、豪ドル建であるため、為替相場の変動は、サブ・ファンドのポートフォリオの価値に影響を与える可能性がある。当該リスクは、通常、「為替変動リスク」と呼ばれ、サブ・ファンドの強力な機能通貨が投資家へのリターンを減少させる可能性がある一方、サブ・ファンドの弱い機能通貨が当該リターンを増加させる可能性があることをいう。外国為替変動リスクの軽減を追求するための手段として、日本円建の原資産について、原則として投資先ファンドによって豪ドルに対する為替ヘッジ取引が実施される。このため、外国為替相場の変動が投資先ファンドにおけるサブ・ファンドの投資の価値に影響を与えることがある。

### (C) 流動性リスク

流動性リスクとは、有価証券等を売却または購入しようとする際に、買い需要がなく売却不可能、または売り供給がなく購入不可能等となるリスクのことをいう。例えば、市況動向や有価証券等の流通量等の状況、または買戻金額の規模によっては、組入有価証券等を市場実勢よりも低い価格で売却しなければならないケースが考えられ、この場合には受益証券１口当たり純資産価格の下落要因となる。

### (D) カウンター・パーティーおよびブローカー・リスク

投資先ファンドまたは投資先ファンドの受任者が取引または投資する金融機関およびカウンター・パーティー（銀行およびブローカーを含む。）が、財務上の困難および投資先ファンドに対する債務の不履行に陥ることがある。かかる不履行は、サブ・ファンドにとって著しい損失を引き起こすおそれがある。更に、投資先ファンドは、一定の取引を確保するためにカウンター・パーティーに対して担保を差し入れることがある。

サブ・ファンドは、各カウンター・パーティーとマスター・ネットティング契約を締結することで、カウンター・パーティーの信用リスクに対するエクスポージャーの軽減を試みる。マスター・ネットティング契約は、カウンター・パーティーの信用度が指定されたレベルを超えて低下した時点で、当該契約下で行われた取引のすべてを終了できる権利をサブ・ファンドに与える。マスター・ネットティング契約に基づき、各当事者は、他方当事者の債務不履行があった場合または契約が終了した場合に、当該契約の下で行われた取引のすべてを終了し、各取引に基づき一方当事者が他方当事者に対して支払義務を負う金額を相殺する権利を有する。サブ・ファンドのＯＴＣデリバティブに関連するカウンター・パーティーの信用リスクから発生する最大損失リスクは、一般的に、未実現評価益の総額およびカウン

ター・パーティーがサブ・ファンドに差し入れた担保を超えるカウンター・パーティーの未払金額である。サブ・ファンドは、最低譲渡規定に従い、カウンター・パーティーのために、ＯＴＣデリバティブに関して、各カウンター・パーティーの未決済のデリバティブ契約における未実現評価益以上の金額の担保の差入を要求されることがあり、かかる差入れ担保（もしあれば）は、投資有価証券明細表に特定されている。

#### (E) 保管リスク

サブ・ファンドは、自己の投資先証券のすべての保管状況を管理しているわけではない。保管会社または保管者として選任されたその他の銀行もしくは証券会社が支払不能となり、そのためにそれらの保管者が保有するサブ・ファンドの証券の全部または一部をサブ・ファンドが失う可能性がある。

#### (F) 通貨リスク

サブ・ファンドが投資する証券その他の商品は、豪ドル以外の通貨建てで表示または値付けがなされることがある。このため、外国為替相場の変動がサブ・ファンドのポートフォリオの価値に影響を及ぼすことがある。このリスクは、一般的に「通貨リスク」として知られ、サブ・ファンドの弱い機能通貨が投資家への収益を増やす一方で、強力な機能通貨が投資家への収益を減少させることがある。

#### (G) デリバティブ

サブ・ファンドは、投資をヘッジするまたは利益の増加の追求を目的として、デリバティブ商品を利用することがある。他の種類の金融商品に比べて、デリバティブは、サブ・ファンドのリスク・エクスポージャーをより迅速かつ効果的に増減させる。デリバティブは、変動しやすく、以下を含む重大なリスクを伴っている。

- ・信用リスク - デリバティブ取引における取引相手方（取引の反対側の当事者）が、サブ・ファンドに対する金融債務を履行することができないリスク。
- ・レバレッジリスク - 比較的小さい市場の変動が投資対象の価額を大きく変動させる可能性があるという、一定の種類の投資対象または取引戦略に伴うリスク。レバレッジを伴う一定の投資対象または取引戦略により当初投資した金額を大きく超える損失を生じる可能性がある。
- ・流動性リスク - 一定の証券について、売り手が売却したい時期において、または売り手がかかる証券に現在その価値があると判断する価格にて、売却することが困難または不可能となる可能性があるというリスク。

サブ・ファンドは、予定ヘッジを含むヘッジ目的のためにデリバティブを利用することができる。ヘッジは、サブ・ファンドがその他のサブ・ファンドの保有財産に伴うリスクを相殺するためにデリバティブを利用する戦略である。ヘッジは、損失を減らすことができる一方で、市場がサブ・ファンドの予測とは異なる態様で変動した場合またはデリバティブのコストがヘッジの利益を超えた場合には、利益を減少させもしくは消滅させ、または損失を生じさせる可能性もある。ヘッジは、デリバティブ価額の変動がサブ・ファンドが期待した通りにヘッジされていた保有財産の価額変動に合致しないリスクも伴い、その場合、ヘッジされていた保有財産についての損失が減少せず、増加することがある。サブ・ファンドのヘッジ戦略が、リスクを減少させ、またはヘッジ取引が利用可能かもしくは費用効率が良いという保証はない。サブ・ファンドは、ヘッジの利用を要求されているわけではなく、利用しないことを選択することもできる。サブ・ファンドは、リターン強化のためにデリバティブを利用することがあるため、その投資対象によって、サブ・ファンドは、ヘッジのためだけにデリバティブを利用する場合よりも大きな上述のリスクにさらされることがある。リターンの強化を目指したデリバティブの利用は、投機的とみなされることがある。



## (H) その他のリスク

当年度中、世界保健機関(WHO)がCOVID-19につきパンデミックを宣言した。状況は絶えず変化しており、世界中の都市および国々は、様々な方法で感染拡大に対処している。当該状況の急速な進行および流動性により、その最終的な影響を予測するのは困難であるが、景気および市況に引き続き悪影響が及ぶ可能性、ならびに世界的な景気低迷期が引き起こされる可能性がある。

投資運用会社および受託会社は、COVID-19の感染拡大を注視しており、既存の事業継続計画、ならびに世界の保健機関、関係政府、および一般的なパンデミック対応の成功事例からの指針に基づき、事業上の対応を調整している。

## 6. 保証および補償

サブ・ファンドの設立書類に基づき、特定の当事者(受託会社および投資運用会社を含む。)は、サブ・ファンドに対する各自の義務の履行により発生する可能性のある債務の補償を受ける。更に、通常の業務において、サブ・ファンドは、様々な補償条項を含む契約を締結する。サブ・ファンドに対して現在発生していないが、将来行われる可能性のある請求が含まれるため、これらの契約に基づくサブ・ファンドの最大エクスポージャーは不明である。ただし、サブ・ファンドは、これらの契約に基づく事前の請求または損失を受けてはいない。

## 7. 所得税

サブ・ファンドは、課税上の地位に関してケイマン諸島の法律に従う。ケイマン諸島の現行法の下で、利益、収益、利得および評価益に対して課される税金はなく、また遺産税および相続税の性質を有するいかなる税金もサブ・ファンドを構成する不動産、およびサブ・ファンドの下で生じる収益、ならびに当該不動産および収益に関するサブ・ファンドの受益者に対して適用されない。サブ・ファンドによる分配に対して、および受益証券の買戻時の純資産価額の支払に関して適用される源泉徴収税はない。そのため、当財務書類に計上された所得税の引当はなかった。

サブ・ファンドは通常、米国連邦所得税の目的上、米国における取引または事業に従事しているとみなされないよう活動を実施するようにしている。とりわけ、サブ・ファンドは、1986年内国歳入法(その後の改正を含む。)におけるセーフ・ハーバーに適格となることを目的としており、サブ・ファンドは、同法に基づき、その活動が自己勘定による株式および有価証券またはコモディティー取引に限定される場合、当該事業に従事しているとはみなされない。サブ・ファンドの収益がサブ・ファンドが行う米国の取引または事業に実質的に関連している場合、サブ・ファンドが米国を源泉として得る一定種類の収益(配当および一定種類の受取利息を含む。)に対して米国の税金30%が課される。この税金は通常、当該収益から源泉徴収される。

税務ポジションの不確実性の会計処理および開示に関する権威ある指針(財務会計基準審議会-会計基準編纂書740)は、受託会社に、サブ・ファンドの税務ポジションが税務調査(関連する不服申立てまたは訴訟手続の解決を含む。)時に「認定される可能性の方が高い(more likely than not)」か否かを、当該ポジションの技術上のメリットに基づき決定するよう要求している。認定される可能性の方が高い場合の閾値を満たす税務ポジションについては、当財務書類において認識される税金金額は、関係税務当局と最終的に和解した時点で実現する可能性が50%超である最大ベネフィットまで減額される。受託会社は、サブ・ファンドの税務ポジションについて検討し、当財務書類において納税引当金が不要であるとの結論を出した。現在、不確実な税務ポジションに関して、権利または賦課金はない。

2020年9月30日現在、アメリカ合衆国以外の主要な税務管轄の調査対象となる課税年度は、時効に係る法令に基づき、2014年（運用開始）から当会計年度までである。アメリカ合衆国連邦税務管轄の調査対象となる課税年度は、2014年（運用開始）から2020年9月30日までである。

## ８．報酬および費用

### (A) 管理事務代行報酬、名義書換事務代行報酬

管理事務代行会社および名義書換事務代行会社は、サブ・ファンドの純資産価額に基づいて、毎日発生し、毎月支払われる報酬を受領する。管理事務代行会社および名義書換事務代行会社は、毎年、報酬として、5億豪ドルまでの部分について年率0.05%、5億豪ドル超10億豪ドルまでの部分について年率0.04%、10億豪ドル超の部分について年率0.03%を受領する権利を有する。管理事務代行会社はまた、毎月3,750米ドルの資産ベースの最低報酬を受領する。かかる報酬は、毎日発生し、毎月後払いされる。2021年3月31日に終了した6か月間に管理事務代行会社および名義書換事務代行会社が稼得した報酬、ならびに2021年3月31日現在における管理事務代行会社および名義書換事務代行会社への未払報酬残高（もしあれば）は、それぞれ損益計算書および資産負債計算書において開示されている。

### (B) 保管報酬

受託会社は、保管会社との間で保管契約を締結し、保管会社は当該契約について純資産の0.01%から0.55%の範囲内の保管報酬を受領する。保管会社は、毎月400米ドルの最低報酬を受領する。保管会社はまた、専門的な処理に関して取引1件につき10米ドルから150米ドルの範囲内の取引費用も受領する。2021年3月31日に終了した6か月間に保管会社が稼得した報酬、および2021年3月31日現在における保管会社への未払報酬残高（もしあれば）は、それぞれ損益計算書および資産負債計算書において開示されている。

### (C) 受託報酬

受託会社は、サブ・ファンドの純資産価額の年率0.01%（ただし、最低年間受託報酬を10,000米ドルとする。）の報酬を受領する。かかる報酬は、毎日発生し、毎月支払われる。2021年3月31日に終了した6か月間に受託会社が稼得した報酬、および2021年3月31日現在における受託会社への未払報酬残高（もしあれば）は、それぞれ損益計算書および資産負債計算書において開示されている。

### (D) 投資顧問報酬

投資顧問会社は、サブ・ファンドの純資産価額の年率0.35%の料率で年間報酬を受領する。かかる報酬は、毎日発生し、毎月支払われる。2021年3月31日に終了した6か月間に投資顧問会社が稼得した報酬、および2021年3月31日現在における投資顧問会社への未払報酬残高（もしあれば）は、それぞれ損益計算書および資産負債計算書において開示されている。

### (E) 代行協会員報酬

三菱ＵＦＪモルガン・スタンレー証券株式会社（以下「代行協会員」という。）は、日本証券業協会の規則および要件を確実に遵守して、ファンドに関する資料の配布、純資産価額の公表および日本におけるサブ・ファンドの財務書類の提供に責任を負い、サブ・ファンドの各クラスの純資産価額の年率0.05%の年間報酬を受領する。かかる報酬は、毎日発生し、四半期毎に支払われる。2021年3月31日に終了した6か月間に代行協会員が稼得した報酬、および2021年3月31日現在における代行協会員への未払報酬残高（もしあれば）は、それぞれ損益計算書および資産負債計算書において開示されている。

### (F) 販売報酬

三菱ＵＦＪモルガン・スタンレー証券株式会社（以下「日本における販売会社」という。）は、日本法に従い投資家により申し込まれた受益証券取引の完了に責任を負い、サブ・ファンドの純資産価額の年率0.70%の報酬を受領する。かかる報酬は、毎日発生し、四半期毎に支払われる。2021年3月31日に

終了した６か月間に日本における販売会社が稼得した報酬、および2021年３月31日現在における日本における販売会社への未払報酬残高（もしあれば）は、それぞれ損益計算書および資産負債計算書において開示されている。

#### （Ｇ）管理報酬

管理会社は、投資顧問会社の指示に従ってファンド運用サービスおよび投資運用サービスを提供し、サブ・ファンドの純資産価額の年率0.04%の報酬を受領する。当該報酬は、毎日発生し、四半期毎に支払われる。2021年３月31日に終了した６か月間に管理会社が稼得した報酬、および2021年３月31日現在における管理会社への未払報酬残高（もしあれば）は、それぞれ損益計算書および資産負債計算書において開示されている。

#### （Ｈ）その他の費用

サブ・ファンドは、投資顧問報酬、管理事務代行報酬、保管報酬および名義書換事務代行報酬によってカバーされない、運用に関連するその他の費用を負担することがあり、当該費用には、当局対応手数料、ブローカー手数料およびその他のポートフォリオ取引費用、金利を含む借入費用、訴訟および補償費用を含む特別費用、設立費用、印刷費用、登録費用ならびに専門家報酬が含まれるが、これらに限定されない。

### ９．関連当事者取引

サブ・ファンドは、受託会社の関連当事者であるブラウン・ブラザーズ・ハリマン・アンド・カンパニーとの間で外国為替予約取引を締結することができる。2021年３月31日現在のブラウン・ブラザーズ・ハリマン・アンド・カンパニーとの間のすべての未決済の外国為替予約取引（もしあれば）は、投資有価証券明細表において開示されている。2021年３月31日に終了した６か月間において、ブラウン・ブラザーズ・ハリマン・アンド・カンパニーとの間で締結された外国為替予約取引に係る11豪ドルの実現純損失があり、損益計算書において開示されている。

### 10．最近発表された会計基準

2018年８月28日、ＦＡＳＢは、会計基準更新書ＡＳＵ2018 - 13「公正価値測定（トピック820）：開示の枠組み - 公正価値測定に関する開示要件の変更」（以下「ＡＳＵ2018 - 13」という。）を公表した。ＡＳＵ2018 - 13は、ＡＳＣ820の開示の目的に関する規定を修正するものであり、（１）「事業体は、少なくとも、開示しなければならない（an entity shall disclose at a minimum）」という文言から「少なくとも（at a minimum）」が、また、（２）事業体による裁量の適切な行使を促すためのその他の類似の「オープン・エンド型」の開示要件が削除された。さらに、ＡＳＵ2018 - 13では、ＡＳＣ820に基づくその他の要件も削除および修正されている。ＡＳＵ2018 - 13は、2019年12月15日より後に開始する会計年度および当該会計年度中の中間会計期間についてすべての事業体に適用される。不要となった特定の開示は、財務書類に対する注記から削除された。ＡＳＵ2018 - 13の適用は、財務書類に重大な影響を及ぼさなかった。

### 11．後発事象

受託会社は、2021年５月20日（財務書類の公表日）までに生じたすべての後発取引および後発事象について評価した。2021年４月１日から2021年５月20日までの発行金額は212,515豪ドルであり、買戻金額は861,666豪ドルであった。サブ・ファンドに関して報告すべきその他の後発事象はない。

## ( 2 ) 投資有価証券明細表等

コクサイ・ケイマン・トラスト -  
 豪ドル建 豪ドルヘッジ 国際・キャピタル 日本株式オープン  
 ( ケイマン諸島籍 オープン・エンド型投資信託 )

## 投資有価証券明細表

2021年3月31日現在(未監査)

(通貨:豪ドル)

投資先ファンドへの投資 - 99.0%	受益証券口数 (口)	純資産比率 (%)	評価額 (豪ドル)
ジャパン・エクイティ・マスター・ファンド (コクサイ・トラストのサブ・ファンド) - 豪ドル建 豪ドルヘッジクラス	88,164	99.0%	\$ 16,813,756
投資先ファンドへの投資合計 (特定された原価 \$12,649,702)		99.0	\$ 16,813,756
負債を上回る現金およびその他の資産		1.0	168,630
純資産		100.0%	\$ 16,982,386

2021年3月31日現在、サブ・ファンドは、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの純資産の11.45%を所有している。サブ・ファンドの投資先ファンドにおける個別銘柄の公正価値の比例持分は、サブ・ファンドの純資産の5%を超過していない。

注記は、財務書類と不可分のものである。

[次へ](#)

## 4 管理会社の概況

### ( 1 ) 資本金の額（2021年4月末日現在）

払込済資本金の額 187,117,965.90米ドル（約204億円）

発行済株式総数 5,051,655株

管理会社が発行する株式総数の上限については制限がない。

最近5年間における資本金の額の増減は、以下の通りである。

2016年4月末日	37,117,968.52米ドル
2017年4月末日	37,117,968.52米ドル
2017年11月9日	187,117,965.90米ドル
2018年4月末日	187,117,965.90米ドル
2019年4月末日	187,117,965.90米ドル
2020年4月末日	187,117,965.90米ドル
2021年4月末日	187,117,965.90米ドル

### ( 2 ) 事業の内容及び営業の状況

管理会社は、投資信託の事務管理、国際的な保管業務、信託会計の事務管理およびこれらに関する一般的な銀行業務ならびに外国為替業務に従事する。

管理会社は、信託証書に基づき、期間の限定なく任命されているが、受託会社は、以下の場合、かかる任命を直ちに解除することができる。(a) 管理会社が清算される場合、(b) 管理会社の事業に関して財産保全管理人が任命された場合、(c) 受託会社が、管理会社の変更が受益者の利益にとって望ましいとの見解を有し、受益者に対してその旨を書面で表明した場合、(d) 法律が許容する限り速やかに管理会社の解任にかかる特別決議が定時投資主総会において受益者により可決された場合、または(e) 発行済受益証券の価値の4分の3を保有する受益者が管理会社の解任を書面で受託会社に要求した場合。管理会社がサブ・ファンドの管理者でなくなった場合、受託会社は、サブ・ファンドの管理者になる資格を有する他の者を任命しなければならない。管理会社はまた、受託会社への通知により、管理会社の関係会社である他の管理者を後任者として、直ちに退任する権利を有する。ただし、管理会社が関係会社でない他の管理者を後任者として退任することを希望する場合、受託会社への60日前の通知が行われなければならない。

信託証書の規定に基づき、管理会社は、信託証書に基づく義務の履行に関する故意の不履行、詐欺または（信託証書に定義される）重過失の場合を除き、サブ・ファンド、受益者または受託会社に対していかなる責任も負わない。

信託証書に基づき、受託会社は、サブ・ファンドのために、かつサブ・ファンドの資産からのみ、管理会社ならびに管理会社の関係会社、代理人および受任者ならびに管理会社およびこれらの者の役員、取締役、株主および支配者に対して、( ) サブ・ファンドの運営もしくはサブ・ファンドの受益証券の募集もしくは( ) 管理会社の行為に関係し、もしくはこれらから生じ、もしくはこれらに基づき、または信託証書に基づきサブ・ファンドのために行われた事業もしくは業務に別途に関連して、管理会社が現実に一時的に負担したあらゆる損失、責任、損害、費用または経費（弁護士費用および会計士費用を含むが、これらに限定されない。）、判決および和解において支払われる金額（ただし、受託会社が、サブ・ファンドを代表して、かかる和解を承認していることを条件とする。）を補償するものとし、上記の者を上記のあらゆる損失、責任、損害、費用または経費から免責するものとする。ただし、かかる行為が信託証書に基づく義務の履行に関する故意の不履行、詐欺または重過失を構成する場合はこの限りでない。

管理会社は、2021年4月末日現在、以下の投資信託の管理を行っている。

国・地域別 （設立地）	種類別（基本的性格）	本数	純資産価額の総額
ケイマン諸島	契約型投資信託（アンブレラ・ファンド のサブ・ファンドを含む。）	29	4,817,328,853.62米ドル

（３）その他

本半期報告書提出前６か月以内において、訴訟事件その他管理会社およびサブ・ファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はない。

[次へ](#)

## 5 管理会社の経理の概況

- a．管理会社の最近事業年度の日本文の財務書類は、ルクセンブルグにおける法令に準拠して作成された原文（英文）の財務書類を翻訳したものである（ただし、円換算部分を除く。）。これは「特定有価証券の内容等の開示に関する内閣府令」（平成５年大蔵省令第22号。その後の改正を含む。）に基づき、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。その後の改正を含む。）第131条第５項ただし書の規定の適用によるものである。
- b．管理会社の原文の財務書類は、外国監査法人等（公認会計士法（昭和23年法律第103号。その後の改正を含む。）第１条の３第７項に規定する外国監査法人等をいう。）であるビーディーオー オーディット ソシエテ アノニムから監査証明に相当すると認められる証明を受けており、当該監査証明に相当すると認められる証明に係る監査報告書に相当するもの（訳文を含む。）が当該財務書類に添付されている。
- c．管理会社の原文の財務書類は、米ドルで表示されている。日本文の財務書類には、主要な金額について円貨換算が併記されている。日本円による金額は、2021年４月30日現在における株式会社三菱ＵＦＪ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（１米ドル＝108.93円）で換算されている。なお、千円未満の金額は四捨五入されている。

[次へ](#)

## ( 1 ) 資産及び負債の状況

## ルクセンブルク三菱UFJインベスターサービス銀行S.A.

## 貸借対照表

2020年12月31日現在

( 単位：米ドル )

## 資産

	注記	2020年		2019年	
		( 米ドル )	( 千円 )	( 米ドル )	( 千円 )
現金、中央銀行および郵便局における残高	31.1、31.3	4,532,995,593	493,779,210	3,122,139,702	340,094,678
金融機関に対するローンおよび貸付金	3、15、31.1、31.3	3,037,512,831	330,876,273	3,708,799,645	403,999,545
a ) 要求払い		1,555,628,740	169,454,639	2,480,378,645	270,187,646
b ) その他のローンおよび貸付金		1,481,884,091	161,421,634	1,228,421,000	133,811,900
顧客に対するローンおよび貸付金	31.1、31.3	7,934,281	864,281	670,745	73,064
株式およびその他の変動利回り有価証券	4、31.1、31.3	3,033	330	2,783	303
固定資産	5	4,710,734	513,140	3,551,365	386,850
その他の資産	6a	6,000,367	653,620	365	40
前払金および未収収益	6b、15	31,779,267	3,461,716	37,533,722	4,088,548
資産合計	7	<u>7,620,936,106</u>	<u>830,148,570</u>	<u>6,872,698,327</u>	<u>748,643,029</u>

添付の注記は当財務書類と不可分のものである。



## ルクセンブルク三菱UFJインベスターサービス銀行S.A.

貸借対照表(続き)  
2020年12月31日現在  
(単位:米ドル)

## 負債

	注記	2020年		2019年	
		(米ドル)	(千円)	(米ドル)	(千円)
金融機関に対する負債	15、31.1	1,709,328,688	186,197,174	1,156,999,949	126,032,004
a) 要求払い		1,709,328,688	186,197,174	1,156,999,949	126,032,004
b) 約定満期日あり		0	0	0	0
顧客に対する負債	8、15、31.1	5,363,495,359	584,245,549	5,228,117,398	569,498,828
a) 要求払い		5,363,495,359	584,245,549	5,228,117,398	569,498,828
b) 約定満期日あり		0	0	0	0
その他の負債	9	2,082,383	226,834	1,232,118	134,215
未払金および繰延利益	10、15	57,840,142	6,300,527	29,941,563	3,261,534
引当金		13,923,076	1,516,641	21,488,541	2,340,747
a) 納税引当金	11	11,830,337	1,288,679	20,080,003	2,187,315
b) その他の引当金	12	2,092,739	227,962	1,408,538	153,432
発行済み資本	13	187,117,966	20,382,760	187,117,966	20,382,760
準備金	14	247,675,774	26,979,322	197,956,757	21,563,430
繰越損益	14	70,174	7,644	988	108
当期利益		39,402,544	4,292,119	49,843,047	5,429,403
負債合計	16	7,620,936,106	830,148,570	6,872,698,327	748,643,029

添付の注記は当財務書類と不可分のものである。

## ルクセンブルク三菱UFJインベスターサービス銀行S.A.

## オフ・バランス・シート項目

2020年12月31日現在

(単位:米ドル)

	注記	2020年		2019年	
		(米ドル)	(千円)	(米ドル)	(千円)
偶発債務	17、31.1	580,391	63,222	528,585	57,579
<u>内訳:</u>					
保証金および担保証券として 差し入れられた資産		580,391	63,222	528,585	57,579
信託運用	20	78,178,721,148	8,516,008,095	80,843,518,883	8,806,284,512

添付の注記は当財務書類と不可分のものである。

## ( 2 ) 損益の状況

## ルクセンブルク三菱UFJインベスターサービス銀行S.A.

## 損益計算書

2020年12月31日に終了した年度

( 単位：米ドル )

	注記	2020年		2019年	
		( 米ドル )	( 千円 )	( 米ドル )	( 千円 )
未収利息および類似収益		61,610,819	6,711,267	102,750,017	11,192,559
内訳：					
- 金融機関および顧客に対する未払金に係るマイナス金利		12,160,020	1,324,591	9,159,885	997,786
- 外貨スワップからの利差益		25,573,309	2,785,701	45,637,424	4,971,285
未払利息および類似費用		(28,557,337)	(3,110,751)	(54,594,603)	(5,946,990)
内訳：					
- ローンおよび貸付金ならびに金融機関における残高に係るマイナス金利		(24,493,537)	(2,668,081)	(18,415,271)	(2,005,975)
- 外貨スワップからの利差損		(127,727)	(13,913)	(511,746)	(55,744)
有価証券からの収益		0	0	0	0
株式およびその他の変動利回り有価証券からの収益		0	0	0	0
未収手数料	21	145,574,882	15,857,472	135,532,835	14,763,592
未払手数料		(72,054,185)	(7,848,862)	(68,018,470)	(7,409,252)
金融業務の純利益		4,668,204	508,507	3,671,743	399,963
その他の事業収益	22	1,924,254	209,609	1,439,792	156,837
一般管理費用		(56,732,446)	(6,179,865)	(50,532,935)	(5,504,553)
a) スタッフ費用	24、25	(22,100,683)	(2,407,427)	(19,811,185)	(2,158,032)
内訳：					
- 賃金およびサラリー		(18,041,424)	(1,965,252)	(16,226,776)	(1,767,583)
- 社会保障費		(2,606,334)	(283,908)	(2,550,297)	(277,804)
内訳：					
- 年金に関する社会保障費		(1,602,327)	(174,541)	(1,580,110)	(172,121)
b) その他の一般管理費用	26、30	(34,631,763)	(3,772,438)	(30,721,750)	(3,346,520)
有形および無形資産に関する価値調整		(1,684,655)	(183,509)	(1,515,702)	(165,105)
その他の事業費用	23	(400,035)	(43,576)	(624,491)	(68,026)
経常収益にかかる税金	11、27.1	(13,053,249)	(1,421,890)	(16,495,317)	(1,796,835)
税引後経常収益		41,296,252	4,498,401	51,612,869	5,622,190
前勘定科目に表示されていないその他の税金	27.2	(1,893,708)	(206,282)	(1,769,822)	(192,787)
当期利益		39,402,544	4,292,119	49,843,047	5,429,403

添付の注記は当財務書類と不可分のものである。

## ルクセンブルク三菱UFJインベスターサービス銀行S.A.

## 財務諸表に対する注記

2020年12月31日現在

## 注1 一般事項

## 1.1. 会社概況

ルクセンブルク三菱UFJインベスターサービス銀行S.A.(以下「当行」という。)は、ルクセンブルグにおいて1974年4月11日に株式会社として設立された。

1996年4月1日に、親会社の株式会社東京銀行が株式会社三菱銀行と合併して株式会社東京三菱銀行が設立され、バンク・オブ・トウキョウ(ルクセンブルグ)エス・エイは、バンク・オブ・トウキョウ・ミツビシ(ルクセンブルグ)エス・エイに名称を変更した。

2005年10月1日に、間接株主の株式会社三菱東京フィナンシャル・グループ(以下「MTFG」という。)は、株式会社UFJホールディングス(以下「UFJ」という。)と合併し、新規金融グループの株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ(以下「MUFG」という。)となった。

2006年1月1日に、親銀行の株式会社東京三菱銀行は、株式会社UFJ銀行と合併し、株式会社三菱東京UFJ銀行となり、バンク・オブ・トウキョウ・ミツビシ(ルクセンブルグ)エス・エイは、バンク・オブ・トウキョウ・ミツビシUFJ(ルクセンブルグ)エス・エイに名称を変更した。

2007年4月2日に、当行は、共に持株会社である三菱UFJフィナンシャル・グループ(MUFG)の子会社である三菱UFJ信託銀行株式会社が70%および株式会社三菱東京UFJ銀行が30%を共同で出資する子会社に変更された。その結果、バンク・オブ・トウキョウ・ミツビシUFJ(ルクセンブルグ)エス・エイは、ミツビシUFJグローバルカストディ・エス・エイ(以下「MUGC」という。)に名称を変更した。

2008年4月28日に、ミツビシUFJグローバルカストディ・エス・エイは、新株49,080株を発行し、当行の資本金は1,817,968.52米ドル増加した。発行済株主資本総額は、現在37,117,968.52米ドルである。当行の主たる株主2社は、株主資本92.25%を保有しており、三菱UFJ信託銀行株式会社が63.72%および株式会社三菱東京UFJ銀行が28.53%を保有している。

2014年8月7日に、ミツビシUFJグローバルカストディ・エス・エイは、アイルランド共和国、ダブリン2、ローワー・レッスン・ストリート12-13、オーモンド・ハウスに所在する外国支店を開設した。ミツビシUFJグローバルカストディ・エス・エイ、ダブリン支店は、1993年のUE規則に準拠して、金融機関として907648番で登録された。

2016年5月1日に、ミツビシUFJグローバルカストディ・エス・エイは、その名称をルクセンブルク三菱UFJインベスターサービス銀行S.A.(以下「MIBL」という。)に変更した。

2017年5月31日に、三菱UFJ信託銀行株式会社は、ルクセンブルク三菱UFJインベスターサービス銀行S.A.の議決権株式の100%を取得した。

取締役会のメンバーは、三菱UFJ信託銀行株式会社のグループの専務取締役および独立取締役である。事業方針および評価基準は、ルクセンブルグの現行法規に定められている場合を除き、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループにおいて適用されているものに準拠して、取締役会によって決定および監督される。

## 1.2. 事業の性質

当行の事業目的は、当行自身およびルクセンブルグ大公国内外の第三者のための銀行業務または金融業務を行うこと、ならびに工業、商業、不動産といった上記の主目的に直接または間接的に関連するその他の全ての業務を行うことにある。

より具体的には、当行は投資運用サービスに活動を集中している。

当行における取引の大部分は、三菱UFJフィナンシャル・グループのグループ企業との間で、直接または間接的に完結するものである。

## 1.3. 財務書類

当行は、資本の表示通貨である米ドルを基準にして財務書類を作成している。当行の会計年度は、暦年と一致している。

## 注2 重要な会計方針の要約

当行の財務書類は、ルクセンブルグ大公国における法律および規制ならびにルクセンブルグ大公国の銀行部門で一般に公正妥当と認められている会計基準に準拠して、取得原価主義で作成されている。

これらを遵守するにあたって、以下の重要な会計基準が適用される。

### 2.1. 貸借対照表における取引計上日

貸借対照表における資産および負債は、かかる金額が確定した日、つまり権利移転日付で計上される。

### 2.2. 外貨

当行は、全ての取引を契約締結日における一または複数の取引通貨で計上する、複数通貨会計システムを採用している。

資産および負債は、貸借対照表の日付のスポット為替レートで米ドルに換算される。再評価によって生じる実現および未実現損益は、当期の損益に計上されるが、取得為替レートで計上される外国為替予約契約(スワップおよびヘッジ外国為替予約契約)によって特にカバーされたものから生じる実現および未実現損益はこの限りではない。

外貨建ての収益および費用は、日々、実勢為替レートで米ドルに換算される。

期末現在、全ての未決済の先渡取引は、満期までの残存期間に対応した貸借対照表の日付における実勢フォワード・レートで米ドルに換算される。

スポット取引およびスワップ取引に連動する未決済の先渡取引から生じる損益は、貸借対照表の日付に見越し計上される。外国為替スワップによりカバーされたポジションに係る未実現損益については、期末においてこれを中立化する。

### 2.3. デリバティブ金融商品

金利スワップ、フォワード・レート契約、金融先物およびオプションのような、デリバティブ金融商品から派生している当行のコミットメントは、取引日にオフ・バランス・シート項目として計上される。

必要があれば、期末日に、当行の各コミットメントの時価による再評価によって生じる未実現損失に対して引当金が設定される。先渡取引に係る未実現損失に対する引当金は、2020年は計上されていない(2019年: 0米ドル)。

金融商品が明らかに資産または負債をカバーかつ経済的統一している場合、または金融商品が逆取引でヘッジされているためにオープン・ポジションが存在しない場合においては、かかる引当金は設定されない。

### 2.4. 貸倒れおよび回収不能債務に関する特定価値調整

取締役会において、貸倒れおよび回収不能とみなされた債務に関して特定価値調整を行うのが当行の方針である。

特定価値調整がある場合は、関連する資産から控除される。

### 2.5. 証書、ローンおよび貸付金ならびにリース取引にかかる見込み損失に対する価値調整

ローンおよび貸付金の見込み損失に対する価値調整がある場合は、関連する資産から控除される。

### 2.6. リスク持高に対する一括引当金

当行は、ルクセンブルクの税法に準拠して、銀行監督諮問管理法に規定されているように、リスク持高に対する一括引当金を設定することができる。引当金の目的は、年次決算時にはまだ確認されていないが具体化すると考えられるリスクを考慮することにある。

税務局長によって1997年12月16日に発行された指図書に従い、当行のリスク持高の税引前かつ1.25%を超えない当該引当金が設定されなければならない。

当行は、2020年12月31日現在、当該引当金を計上しなかった(2019年: 0米ドル)。

#### 2.7. 譲渡可能有価証券

譲渡可能有価証券は、当初、購入価格で計上される。当初の評価には平均原価法が使用される。注2.5.の詳述に従って計算されたまたは価値が減少したことによって生じる価値調整は、勘定残高から控除される。

#### 2.8. 有形および無形資産

有形および無形資産は、購入価格で評価される。耐用年数が限られている有形および無形固定資産の価値は、かかる資産の下記の耐用年数に渡って体系的に償却するために計算された価値調整分減少する。

ハードウェア機器: 4年

ソフトウェア: 4年および5年

その他の無形資産: 5年

その他の有形資産: 10年

のれん: 5年

#### 2.11. 税金

税金は、関連する勘定が属する会計年度において発生主義で計上される。納税引当金は、当行が設定した引当金の見積額と、最終税務査定通知未受領の会計年度に関する前払金との差額に相当する。

#### 2.12. 前払金および未収収益

本資産項目は、当期中に発生したが次年度以降に係る費用が含まれる。

#### 2.13. 未払金および繰延利益

本負債項目は、当期中に受領したが次年度以降に係る費用が含まれる。

## 2.14. 引当金

引当金は、その性質が明確に定義されている損失または債務であって、かつ貸借対照表日付時点で発生する可能性が高いかもしくは発生することが確実だが、金額または発生日が不確定なものを対象とすることが企図されている。

## 2.15. 収益の認識

当行の主要な収益源は、利息および手数料収益から成る。当行は、顧客に対して提供する多様な業務から報酬および手数料収益を稼得する。

収益は通常、関連する業務の履行時または当該業務が提供された期間を通じて認識される。

### 注 3 金融機関に対するローンおよび貸付金

額面価格で示される金融機関に対するローンおよび貸付金は、要求払いのものを除き、残存期間別に以下のとおりである。

	2020年 米ドル	2019年 米ドル
3 か月以下	606,285,500	541,421,000
3 か月超 1 年未満	875,598,591	687,000,000
	<u>1,481,884,091</u>	<u>1,228,421,000</u>

### 注 4 株式およびその他の変動利回り有価証券

「株式およびその他の変動利回り有価証券」の項目に表示されている譲渡可能有価証券は全て、3,033 米ドル（2019年：2,783米ドル）の未上場有価証券で構成される。

### 注 5 固定資産の変動

以下の変動は、当期中に当行の固定資産に対して生じたものである。

固定資産：

	期首現在 価値総額 米ドル	追加 米ドル	売却 米ドル	為替差額 米ドル	期末現在 価値総額 米ドル	価値調整 累計 米ドル	期末現在 価値純額 米ドル
1. 有形資産	3,240,997	166,690	0	291,762	3,699,449	2,952,787	746,662
a) ハードウェア	790,243	160,626	0	71,139	1,022,008	679,546	342,462
b) その他付属品、 家具、機器、 車両	2,450,754	6,064	0	220,623	2,677,441	2,273,241	404,200
2. 無形資産	19,873,064	2,357,632	0	1,613,885	23,844,581	19,880,509	3,964,072
a) ソフトウェア	17,927,625	2,357,632	0	1,613,885	21,899,142	17,935,070	3,964,072
b) 有価約因に基づ いて取得した のれん	1,945,439	0	0	0	1,945,439	1,945,439	0
固定資産合計	23,114,061	2,524,322	0	1,905,647	27,544,030	22,833,296	4,710,734

価値ある対価として取得されたのれんは、他機関の顧客の一部の買収の価値を表す。

## 注６a その他の資産

	2020年 米ドル	2019年 米ドル
その他の資産	6,000,367	365
	<u>6,000,367</u>	<u>365</u>

2020年12月31日現在、主な項目として、変更が予定されている副保管会社およびテクノロジー業務提供者に関する未収金を含む。当該金額は2021年１月に決済された。

## 注６b 前払金および未収収益

当行の前払金および未収収益は以下のとおりである。

	2020年 米ドル	2019年 米ドル
未収利息	5,933,296	14,177,184
スワップに係る未収利息収入	1,612,214	1,713,597
管理会社手数料	858,421	183,794
信託業務手数料	1,512,122	1,566,075
全体保管手数料	14,654,292	12,792,274
投資ファンド手数料	5,437,372	5,053,137
その他の未収収益	364,437	543,439
その他の手数料	177,468	171,171
その他の前払金	363,811	324,052
前払一般経費	387,854	572,304
前払法人税	818	751
未回収付加価値税（ＶＡＴ）	477,162	435,944
	<u>31,779,267</u>	<u>37,533,722</u>

## 注７ 外貨建て資産

2020年12月31日現在、米ドルに換算した、当行の外貨建て資産の総額は、5,991,487,186米ドル（2019年：5,141,994,595米ドル）である。

## 注８ 顧客未払金

2020年12月31日現在、顧客に対する債務（要求払いのものを除く。）はない（2019年12月31日現在、債務（要求払いのものを除く。）は、0米ドルであった。）。

## 注９ その他の負債

当行のその他の負債は以下のとおりである。

	2020年 米ドル	2019年 米ドル
優先債務	678,795	649,292
諸債務	1,403,588	582,826
	<u>2,082,383</u>	<u>1,232,118</u>



## 注10 未払金および繰延利益

当行の未払金および繰延利益は以下のとおりである。

	2020年 米ドル	2019年 米ドル
未払手数料	9,248,976	8,943,522
未払一般経費	5,966,428	4,769,237
未払利息	0	1,612,014
手数料に関連する繰延利益	47,421	58,141
その他の繰延利益（＊）	6,000,000	0
外国為替スワップによりカバーされたポジションに係る外国為替実績の中立化（注2.2）	36,126,293	14,380,755
その他の未払費用	140,872	114,097
その他の仮受金（＊）	310,152	63,797
	<u>57,840,142</u>	<u>29,941,563</u>

（＊）その他の繰延利益：注記6 aに関連する。

（＊）その他の仮受金：2020年12月31日より後の関連する受益者に対する未払仮受金の仮勘定。

## 注11 税金 - 為替差損失：繰延税金

当行は、法定資本の表示通貨である米ドルで財務書類を作成している。

税務当局は、2016年6月21日付のCircular L.G.-A no 60に従って、2018年9月に、当行が米ドルを税機能通貨として用いることを許可した。

この結果、会計上の貸借対照表および商業上の貸借対照表は米ドルの同一通貨にて作成されている。

2020年12月31日現在、繰延税金はなかった。

## 注12 その他の引当金

当行のその他の引当金は、従業員の報酬引当金により構成されている。

	2020年 米ドル	2019年 米ドル
従業員の報酬引当金	2,092,739	1,408,538
	<u>2,092,739</u>	<u>1,408,538</u>

## 注13 発行済資本

2020年12月31日現在、当行の発行済かつ全額払込済資本は、クラスAの5,002,575株およびクラスBの49,080株に対して187,117,966米ドルである。

## 注14 準備金および繰越損益の変動

	法定準備金 米ドル	その他の準備金 米ドル	繰越損益 米ドル
2020年１月１日現在の残高	7,395,745	190,561,012	988
2019年12月31日終了年度の利益	0	0	49,843,047
利益の処分			
- 株主への配当金支払			(54,844)
- 2020年純資産税準備金への振替		10,911,000	(10,911,000)
- 2014年純資産税準備金からの振替		(3,019,136)	3,019,136
- 任意準備金への割当て		39,335,000	(39,335,000)
- 法定準備金への割当て	2,492,153	0	(2,492,153)
2020年12月31日現在の残高	<u>9,887,898</u>	<u>237,787,876</u>	<u>70,174</u>

ルクセンブルグの法律に従い、当行は毎年の純利益の最低５％相当額を法定準備金として、かかる準備金が株主資本の１０％に達するまで、充当しなければならない。当該充当は翌年に行われる。法定準備金の分配は制限されている。

当行は、ルクセンブルグの税法に基づいて、当該年度が支払期限である純資産税の全てまたは一部について税額控除の適用を選択した。ただし、当該税額控除は、前年度が支払期限である税額控除調整前の法人税額を上限とする。当該控除から利益を得るためには、翌年度末以前に純資産税額控除の５倍にあたる金額を特別準備金に計上するという立場を表明しなければならず、これを５年間維持しなければならない。

2020年12月31日現在、総額37,216,791米ドル（2019年：29,324,927米ドル）の純資産税特別準備金が、当行のその他の準備金に含まれている。

2020年３月25日付の年次株主総会において決議されたとおり、当行は、10,911,000米ドルを2020年の純資産税特別準備金に割り当て、2014年に構成した利用可能な純資産税特別準備金3,019,136米ドルを戻し入れた。

2020年12月31日現在、純資産税の特別準備金の累積残高は、以下のとおりである。

年度	2020年 純資産税準備金 米ドル
2016年	3,348,440
2017年	4,276,351
2018年	8,700,000
2019年	9,981,000
2020年	<u>10,911,000</u>
2020年12月31日現在の残高	<u>37,216,791</u>

## 注15 関連会社残高

2020年12月31日現在、以下の関連会社残高が未決済となっている。

## 資産

	2020年 米ドル	2019年 米ドル
金融機関に対するローンおよび貸付金	2,523,209,017	3,313,250,489
前払金および未収収益	18,411,677	25,391,063
	<u>2,541,620,694</u>	<u>3,338,641,552</u>

## 負債

	2020年 米ドル	2019年 米ドル
金融機関に対する未払金	1,685,102,780	1,121,324,163
顧客に対する未払金	589,335,450	790,938,178
未払金および繰延利益	5,093,264	5,272,305
	<u>2,279,531,494</u>	<u>1,917,534,646</u>

上記の関係会社間取引は、非関連当事者との取引と同等の取引条件により行われている。

当行の要求により、ルクセンブルグ監督当局（ＣＳＳＦ）は、2013年6月26日付規則（ＥＵ）575 / 2013（パート ）に基づいて、大口エクスポージャー規制の計算にグループ（三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ）に対するエクスポージャーを全額適用除外とすることを認めた。

2020年12月31日現在、グループに関する当該適用除外金額は、2,585,897,973米ドルであり、内訳は以下のとおり分析される。

	2020年 米ドル	2019年 米ドル
金融機関に対するローンおよび貸付金	2,522,808,891	3,311,881,103
前払金および未収収益	5,944,840	14,190,435
外国為替取引（市場リスク手法）	57,144,242	56,995,178
	<u>2,585,897,973</u>	<u>3,383,066,716</u>

## 注16 外貨建て負債

2020年12月31日現在、米ドルに換算した、当行の外貨建て負債の総額は、5,998,748,318米ドル（2019年：5,161,213,531米ドル）である。

## 注17 偶発債務

当行の偶発債務は、以下のとおりである。

	2020年 米ドル	2019年 米ドル
発行済念書	580,391	528,585

期末現在、関連会社残高はなかった。

## 注18 コミットメント

当行は、貸借対照表およびオフ・バランス・シートのいずれにも開示されていないが、当行の財政状態を査定する上で重要な一定のコミットメントを締結した。かかるコミットメントの詳細は以下のとおりである。

	2020年 米ドル	2019年 米ドル
建物の固定賃貸料支払契約に関するコミットメント	4,216,945	5,226,846

期末現在、関連会社残高はなかった。

## 注19 通貨為替レート、金利およびその他の市場金利に連動する運用

2020年12月31日および2019年12月31日現在、流通している先渡取引の種類は以下のとおりである。

通貨為替レートに連動する運用

- 為替先渡取引（スワップ、アウトライト）

外貨為替レートと連動する運用は、大抵、持高をカバーする目的で行われる。

## 注20 投資運用業務および引受業務

当行が提供する運用および代理業務には、以下の項目が含まれる。

- 譲渡可能有価証券の保管および管理事務
- 信託代理
- 代理店機能
- ポートフォリオ運用および顧問

## 注21 未収手数料

	2020年 米ドル	2019年 米ドル
投資信託に係る報酬	24,626,803	22,712,248
機関顧客からのグローバルカस्टディに係る報酬	108,765,953	99,635,836
信託取引に係る報酬	9,891,734	11,022,939
管理会社に対する業務に係る報酬	858,421	700,533
その他の報酬および手数料	1,431,971	1,461,279
	145,574,882	135,532,835

未収手数料は、以下により構成される。

投資信託に係る報酬は、保管業務、集中管理、預金およびその他の業務について投資信託に課される報酬および手数料からなる。かかる報酬は、管理を行っているファンドの純資産価額に基づき計算される。

機関顧客からのグローバルカストディに係る報酬は、証券取引管理、決済、法人業務、利益回収および代理投票等のグローバルカストディ業務について、機関顧客に対して課される報酬および手数料からなる。かかる報酬は、保管を行っている資産および取引数に基づき計算される。

信託取引に係る報酬は、保管取引、現金運用およびフィデュシアリー・ノートの発行を含む信託資産により得られる報酬および手数料からなる。かかる報酬は、運用を行っている資産および取引数に基づき計算される。

管理会社に対する業務に係る報酬には、業務レベル契約に基づく職務関連出費およびサポート業務報酬等の報酬が含まれる。

その他の報酬および手数料には、上場代理人報酬、保証報酬、銀行業務報酬およびファンド注文デスク業務報酬等の様々な報酬が含まれる。

1992年6月17日法第69条第2項の適用により、金融機関の財務書類において、収益源は地理的地域別に分析されていない。

## 注22 その他の事業収益

	2020年 米ドル	2019年 米ドル
2015年-2018年の所得税の調整	88,772	0
過年度の手数料の調整	1,168,278	663,382
過年度の一般経費調整からの利益	532,488	478,260
管理会社から受領したサブ・レンタル報酬 （サービス品質保証契約）	84,638	78,621
その他の事業収益	50,078	219,529
	<u>1,924,254</u>	<u>1,439,792</u>

## 注23 その他の事業費用

	2020年 米ドル	2019年 米ドル
過年度の一般経費調整からの費用	87,248	170,811
過年度の手数料	244,112	325,550
過年度の利息	2,765	106,282
その他事業損失	65,910	21,848
	<u>400,035</u>	<u>624,491</u>

## 注24 従業員数

当期における当行の平均従業員数は以下のとおりである。

	2020年 人数	2019年 人数
上級管理職	28	30
中間管理職	85	83
従業員	56	56
	<u>169</u>	<u>169</u>

## 注25 経営者報酬

当期に当行は、当行の管理職に対しその経営責任を考慮して以下のとおり手当を与えた。

	2020年 米ドル	2019年 米ドル
上級管理職報酬	4,877,002	5,606,190
上級管理職報酬のうち、変動報酬	811,702	821,298
上級管理職報酬のうち、固定報酬	4,065,300	4,784,892

当期中に取締役会および一般管理職のメンバーとの間で年金に関する契約は結ばれなかった。

2020年12月31日および2019年12月31日現在、当行は、取締役会および一般管理職のメンバーに対して貸付および与信をしていなかった。

## 注26 その他の一般管理費用

	2020年 米ドル	2019年 米ドル
データ費用	1,273,871	1,286,243
維持費	1,470,242	1,420,213
会員費	4,291,080	3,049,059
専門家報酬	3,782,542	3,356,649
賃借および関連費用	1,279,480	1,207,833
業務契約	6,402,064	5,099,944
業務費用	3,166,402	2,770,636
システム費用	11,802,849	11,351,403
通信費用	563,427	393,275
旅費、交通費、出張費	108,354	172,054
その他の費用	491,452	614,441
	34,631,763	30,721,750

会員費の増加は、2020年に単一破綻処理基金に支払われた費用の増加に起因している（注29）。

## 注27 税金

## 27.1. 経常収益にかかる税金

	2020年 米ドル	2019年 米ドル
法人税	9,580,154	12,027,260
地方事業税	3,473,095	4,468,057
	13,053,249	16,495,317

## 27.2. 前勘定科目に表示されていないその他の税金

	2020年 米ドル	2019年 米ドル
付加価値税（ＶＡＴ）	1,825,735	1,710,089
その他の税金	67,973	59,733
	<u>1,893,708</u>	<u>1,769,822</u>

## 注28 親会社

2020年12月31日現在、当行は、日本の法律に準拠して設立され登記上の事務所を東京都に持つ持株会社である三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ（ＭＵＦＧ）の子会社である三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社が、100%を出資する子会社である。

当行の年次決算は、三菱ＵＦＪ信託銀行（登録金融機関番号が関東財務局長（登金）第33号であり、日本の郵便番号100-8212、東京都千代田区丸の内一丁目4番5号に登記上の住所を有する）の連結決算に含まれている。

持株会社である三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ（ＭＵＦＧ）の連結財務書類は、日本の郵便番号100、東京都千代田区丸の内二丁目7番1号所在の本社より入手することができる。

## 注29 預金保証制度

金融機関および投資会社の再建・破綻に関する枠組みを定める指令（2014/59/EU）ならびに預金保証スキームおよび投資家補償スキームに関連する指令（2014/49/EU）をルクセンブルグ法に法制化する、金融機関および一定の投資会社の破綻、組織変更および解散に関連し、預金保証スキームおよび投資家補償スキームに関する法律（以下「本法」という。）が2015年12月18日付で可決された。

預金保証制度である「ルクセンブルグ預金保証基金」（以下「FGDL」という。）および投資家補償制度である「ルクセンブルグ投資家補償システム」（以下「SIEL」という。）は、各預金者の100,000ユーロまでの適格な預金および20,000ユーロまでの投資を対象とする。また、本法は、特定の取引から生じた預金もしくは特定の社会的・その他目的を充足する預金については、100,000ユーロを超える部分について、12か月間は対象となると規定している。

金融機関は毎年、ルクセンブルグの銀行破綻基金である「ルクセンブルグ破綻基金」（以下「FRL」という。）およびFGDLのそれぞれに資金を拠出している。

FRLの拠出金は、本法第107条第1項に定義される通り、2024年末までには、欧州連合全加盟国の認可金融機関全ての対象預金の少なくとも1%に到達する。この拠出金額は、2015年から2024年までの間に徴収される予定である。

FGDLの拠出金の目標レベルは、本法第179条第1項に定義される通り、関連金融機関の対象預金の0.8%に設定されており、年間拠出金によって2018年末までに到達予定である。かかる金額は、2016年から2018年の間に徴収される予定である。0.8%のレベルが達成された場合、ルクセンブルグの金融機関は、本法第180条第1項に定義される通り、対象預金の0.8%の追加セーフティ・バッファを構成するために、追加で8年間拠出を継続する。

2020年12月31日終了年度において、当行のFRLへの年間拠出金は2,879,732ユーロ（3,283,564米ドル）（2019年：1,924,193ユーロ/2,144,032米ドル）であった。

## 注30 監査報酬

ＥＵの監査に関する法律および監査法人の強制ローテーション制度の枠組みの中で、当行は2020年度からビーディーオー オーディット ソシエテ アノニムを任命している。

当行の監査人の報酬は以下のとおりである（付加価値税を除く。）。

	2020年 米ドル	2019年 米ドル
監査報酬	257,225	273,905
監査関連報酬	56,245	138,827
税務報酬	22,550	30,103
	<u>336,020</u>	<u>442,835</u>

監査人に付与されたその他の監査関連報酬には、以下の業務が含まれる。

- 2020年1月1日から2020年12月31日までの期間を対象としたＩＳＡＥ 3402報告書

当期に関する税務報酬には、以下の業務が含まれる。

- 納税申告書の作成
- 付加価値税申告書の作成



## 注31 金融商品の開示

## 31.1. 主要な非トレーディング金融商品

2020年12月31日現在、クラス別および残存期間別の主要な非トレーディング金融商品（当行はトレーディングポートフォリオを有していない。）の詳細は以下のとおりである。

米ドルによる簿価	3 か月以下 米ドル	3 か月超 1 年以下 米ドル	1 年超 5 年以下 米ドル	5 年超 米ドル	合計 米ドル
金融資産					
商品クラス					
ＢＣＬ残高 （ＢＣＬ準備金を含む）	4,532,995,593	0	0	0	4,532,995,593
金融機関に対するローン および貸付金	2,161,914,240	875,598,591	0	0	3,037,512,831
顧客に対するローンおよび 貸付金	7,934,281	0	0	0	7,934,281
株式およびその他の 変動利回り有価証券	0	0	0	3,033	3,033
その他の資産	6,000,000	0	0	0	6,000,000
金融資産合計	<u>6,708,844,114</u>	<u>875,598,591</u>	<u>0</u>	<u>3,033</u>	<u>7,584,445,738</u>
金融負債					
商品クラス					
金融機関に対する負債	1,709,328,688	0	0	0	1,709,328,688
顧客に対する負債	5,363,495,359	0	0	0	5,363,495,359
金融負債合計	<u>7,072,824,047</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>7,072,824,047</u>
偶発債務として開示されて いるオフ・バランス・シート 項目					
保証金	580,391	0	0	0	580,391
保証金合計	<u>580,391</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>580,391</u>

2019年12月31日現在、クラス別および残存期間別の主要な非トレーディング金融商品（当行はトレーディングポートフォリオを有していない。）の詳細は以下のとおりである。

米ドルによる簿価	3 か月以下 米ドル	3 か月超 1 年以下 米ドル	1 年超 5 年以下 米ドル	5 年超 米ドル	合計 米ドル
金融資産					
商品クラス					
ＢＣＬ残高 （ＢＣＬ準備金を含む）	3,122,139,702	0	0	0	3,122,139,702
金融機関に対するローン および貸付金	3,021,799,645	687,000,000	0	0	3,708,799,645
顧客に対するローンおよび 貸付金	670,745	0	0	0	670,745
株式およびその他の 変動利回り有価証券	0	0	0	2,783	2,783
金融資産合計	6,144,610,092	687,000,000	0	2,783	6,831,612,875
金融負債					
商品クラス					
金融機関に対する負債	1,156,999,949	0	0	0	1,156,999,949
顧客に対する負債	5,228,117,398	0	0	0	5,228,117,398
金融負債合計	6,385,117,347	0	0	0	6,385,117,347
偶発債務として開示されて いるオフ・バランス・シート 項目					
保証金	528,585	0	0	0	528,585
保証金合計	528,585	0	0	0	528,585

31.2. デリバティブ・非トレーディング金融商品

2020年12月31日現在、クラス別および残存期間別の店頭デリバティブ・非トレーディング金融商品  
(当行はトレーディングポートフォリオを有していない。)の詳細は以下のとおりである。

米ドルによる未払いの 想定元本	3か月以下 米ドル	3か月超 1年以下 米ドル	1年超 5年以下 米ドル	5年超 米ドル	合計 米ドル	公正価値 米ドル
金融資産						
商品クラス						
外国為替取引						
先渡	4,826,443,660	5,041,174	0	0	4,831,484,834	19,024,454
スワップ	2,872,843,236	0	0	0	2,872,843,236	11,023,212
合計	7,699,286,896	5,041,174	0	0	7,704,328,070	30,047,666
金融負債						
商品クラス						
外国為替取引						
先渡	4,766,463,318	5,073,276	0	0	4,771,536,594	18,983,782
スワップ	2,044,899,016	0	0	0	2,044,899,016	42,172,709
合計	6,811,362,334	5,073,276	0	0	6,816,435,610	61,156,491

上記の金額には、取引日が2020年12月31日以前で、評価日が2020年12月31日より後である店頭デリバティブ・非トレーディング金融商品が含まれる。

2019年12月31日現在、クラス別および残存期間別の店頭デリバティブ・非トレーディング金融商品  
（当行はトレーディングポートフォリオを有していない。）の詳細は以下のとおりである。

米ドルによる未払いの 想定元本	3 か月以下 米ドル	3 か月超 1 年以下 米ドル	1 年超 5 年以下 米ドル	5 年超 米ドル	合計 米ドル	公正価値 米ドル
金融資産						
商品クラス						
外国為替取引						
先渡	3,932,042,624	5,842,135	0	0	3,937,884,759	26,049,631
スワップ	1,004,949,710	0	0	0	1,004,949,710	2,872,627
	<u>                    </u>	<u>                    </u>	<u>                    </u>	<u>                    </u>	<u>                    </u>	<u>                    </u>
合計	<u>4,936,992,334</u>	<u>5,842,135</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>4,942,834,469</u>	<u>28,922,258</u>
金融負債						
商品クラス						
外国為替取引						
先渡	3,952,576,741	5,799,199	0	0	3,958,375,940	26,036,732
スワップ	2,408,687,339	0	0	0	2,408,687,339	11,231,097
	<u>                    </u>	<u>                    </u>	<u>                    </u>	<u>                    </u>	<u>                    </u>	<u>                    </u>
合計	<u>6,361,264,080</u>	<u>5,799,199</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>6,367,063,279</u>	<u>37,267,829</u>

上記の金額には、取引日が2019年12月31日以前で、評価日が2019年12月31日より後である店頭デリバティブ・非トレーディング金融商品が含まれる。

31.3. 主要な非トレーディング金融商品に対する信用リスクに関する情報

2020年12月31日現在、当行は以下の、主要な非トレーディング金融商品に対する信用リスクにさらされている。

	2020年 簿価 米ドル	2019年 簿価 米ドル
金融資産		
商品クラス別かつ地域別		
現金、ＢＣＬ残高	4,532,995,593	3,122,139,702
現金、ＢＣＬ残高のうち、ＢＣＬ最低準備金	74,074,339	61,322,494
ＥＵ加盟国	4,532,995,593	3,122,139,702
金融機関に対するローンおよび貸付金	3,037,512,831	3,708,799,645
ＥＵ加盟国	683,470,279	135,123,430
北および中央アメリカ	331,454,821	894,909,307
アジア	1,950,621,860	2,674,535,568
ヨーロッパ（非ＥＵ加盟国）	56,563,445	1,183,449
オーストラリアおよびニュージーランド	15,402,426	3,047,891
顧客に対するローンおよび貸付金	7,934,281	670,745
ＥＵ加盟国	7,365,151	315,164
北および中央アメリカ	38,644	351,379
アジア	530,486	0
ヨーロッパ（非ＥＵ加盟国）	0	4,202
株式およびその他の変動利回り有価証券	3,033	2,783
ＥＵ加盟国	3,033	2,783
その他の資産	6,000,000	0
ＥＵ加盟国	6,000,000	0
合計	7,584,445,738	6,831,612,875

31.4. デリバティブ・非トレーディング金融商品に関する情報

2020年12月31日現在、当行は以下の、デリバティブ・非トレーディング金融商品に対する信用リスクにさらされている。

	2020年 未払想定元本 米ドル	2020年 リスク相当額 米ドル
金融資産		
商品クラス別かつ地域別		
外国為替取引		
先渡		
E U加盟国	1,573,370,543	9,120,220
アメリカ	2,763,233,382	7,104,859
アジア	494,880,909	2,799,375
スワップ		
E U加盟国	2,872,843,236	11,023,212
合計	7,704,328,070	30,047,666

2019年12月31日現在、当行は以下の、デリバティブ・非トレーディング金融商品に対する信用リスクにさらされている。

	2019年 未払想定元本 米ドル	2019年 リスク相当額 米ドル
金融資産		
商品クラス別かつ地域別		
外国為替取引		
先渡		
E U加盟国	3,136,956,781	17,460,853
アメリカ	752,436,735	8,314,206
アジア	48,491,243	274,572
スワップ		
E U加盟国	1,004,949,710	2,872,627
合計	4,942,834,469	28,922,258

## 注32 後発事象

当行は、副保管会社およびテクノロジー業務提供者の変更を予定している。これにより、運営経費を節約できるのみならず、顧客の利便性向上につながる24時間営業の実施を通じて当行のサービスの質および競争力を強化できる。また、当行のサービスが既存および潜在顧客の期待に応え続け、さらには期待を上回ることができるようにするため、当行は、内部運営を改善するとともに世界のＭＵＦＧインベスターサービスのネットワークと連携することで、引き続きサービスの質の維持および向上に注力する。

当行は、その運営をＭＵＦＧファンドサービス（ＭＦＳ）が管理するグループの標準プラットフォームと統合する予定である。この新しい戦略に基づき、当行は、グループの世界の各拠点における非常に高度なテクノロジーおよび人材を活用しながら、監督および監視活動に注力する。これにより、当行は、より多くの機会（非日系顧客およびオルタナティブファンド等）が見込まれる市場で競争力を高めることができる。当該戦略のため、当行の事業規模の縮小が必要となる。2021年3月15日、当行は、特定の条件を伴う16件の雇用契約の終了に関して、当行、スタッフ代表団および労働組合の間で社会保障プランに署名することで合意に達した。

上述の点を除き、2021年において、2020年12月31日現在の当行の財務書類で開示が必要となる他の重大な事象はなかった。

[次へ](#)

MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES & BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

BALANCE SHEET AND OFF BALANCE SHEET ITEMS

December 31, 2020

(expressed in USD)



## MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES &amp; BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

## BALANCE SHEET

December 31, 2020

(in USD)

## A S S E T S

	Notes	2020	2019
Cash, balances with central banks and post office banks	31.1., 31.3.	4.532.995.593	3.122.139.702
Loans and advances to credit institutions	3, 15, 31.1., 31.3.	3.037.512.831	3.708.799.645
a) repayable on demand		1.555.628.740	2.480.378.645
b) other loans and advances		1.481.884.091	1.228.421.000
Loans and advances to customers	31.1., 31.3.	7.934.281	670.745
Shares and other variable-yield securities	4, 31.1., 31.3.	3.033	2.783
Fixed Assets	5	4.710.734	3.551.365
Other assets	6a	6.000.367	365
Prepayments and accrued income	6b, 15	<u>31.779.267</u>	<u>37.533.722</u>
TOTAL ASSETS	7	<u><u>7.620.936.106</u></u>	<u><u>6.872.698.327</u></u>

The accompanying notes form an integral part of the annual accounts.

## MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES &amp; BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

## BALANCE SHEET

December 31, 2020

(in USD)

- continued -

## L I A B I L I T I E S

	Notes	2020	2019
Amounts owed to credit institutions	15, 31.1.	1.709.328.688	1.156.999.949
a) repayable on demand		1.709.328.688	1.156.999.949
b) with agreed maturity dates		0	0
Amounts owed to customers	8, 15, 31.1.	5.363.495.359	5.228.117.398
a) repayable on demand		5.363.495.359	5.228.117.398
b) with agreed maturity dates		0	0
Other liabilities	9	2.082.383	1.232.118
Accruals and deferred income	10, 15	57.840.142	29.941.563
Provisions		13.923.076	21.488.541
a) provisions for taxation	11	11.830.337	20.080.003
b) other provisions	12	2.092.739	1.408.538
Subscribed capital	13	187.117.966	187.117.966
Reserves	14	247.675.774	197.956.757
Result brought forward	14	70.174	988
Profit for the financial year		<u>39.402.544</u>	<u>49.843.047</u>
TOTAL LIABILITIES	16	<u><u>7.620.936.106</u></u>	<u><u>6.872.698.327</u></u>

The accompanying notes form an integral part of the annual accounts.

## MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES &amp; BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

## OFF BALANCE SHEET ITEMS

December 31, 2020

(in USD)

	Notes	2020	2019
Contingent liabilities	17, 31.1.	580.391	528.585
<u>of which:</u>			
guarantees and assets pledged as collateral security		580.391	528.585
Fiduciary operations	20	78.178.721.148	80.843.518.883

The accompanying notes form an integral part of the annual accounts.

MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES & BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

PROFIT AND LOSS ACCOUNT

Year ended December 31, 2020

(expressed in USD)

## MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES &amp; BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

## PROFIT AND LOSS ACCOUNT

Year ended December 31, 2020

(in USD)

	Notes	2020	2019
Interest receivable and similar income		61.610.819	102.750.017
<u>of which:</u>			
- Negative interest received on amounts owed to credit institutions and to customers		12.160.020	9.159.885
- Interest Gain from foreign currency swap		25.573.309	45.637.424
Interest payable and similar charges		(28.557.337)	(54.594.603)
<u>of which:</u>			
- Negative interest paid on loans and advances and on balances with credit institutions		(24.493.537)	(18.415.271)
- Interest Loss from foreign currency swap		(127.727)	(511.746)
Income from securities		0	0
Income from shares and other variable yield securities		0	0
Commission receivable	21	145.574.882	135.532.835
Commission payable		(72.054.185)	(68.018.470)
Net profit on financial operations		4.668.204	3.671.743
Other operating income	22	1.924.254	1.439.792
General administrative expenses	532	(56.732.446)	(50.532.935)
a) staff costs	24, 25	(22.100.683)	(19.811.185)
<u>of which:</u>			
- wages and salaries		(18.041.424)	(16.226.776)
- social security costs		(2.606.334)	(2.550.297)
<u>of which:</u>			
- social security costs relating to pensions		(1.602.327)	(1.580.110)
b) other administrative expenses	26, 30	(34.631.763)	(30.721.750)
Value adjustments in respect of tangible and intangible assets		(1.684.655)	(1.515.702)
Other operating charges	23	(400.035)	(624.491)

	Notes	2020	2019
Tax on profit on ordinary activities	11, 27.1.	<u>(13.053.249)</u>	<u>(16.495.317)</u>
Profit on ordinary activities after tax		41.296.252	51.612.869
Other taxes not shown under the preceding items	27.2.	<u>(1.893.708)</u>	<u>(1.769.822)</u>
Profit for the financial year		<u><u>39.402.544</u></u>	<u><u>49.843.047</u></u>

The accompanying notes form an integral part of the annual accounts.

MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES & BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES & BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

NOTE 1 - GENERAL

1.1. Corporate matters

Mitsubishi UFJ Investor Services & Banking (Luxembourg) S.A. (the “Bank”) was incorporated in Luxembourg on April 11, 1974 as a société anonyme.

On April 1, 1996, the Parent Bank, The Bank of Tokyo, Ltd., merged with The Mitsubishi Bank, Limited to form The Bank of Tokyo-Mitsubishi Ltd., and Bank of Tokyo (Luxembourg) S.A. changed its name to Bank of Tokyo-Mitsubishi (Luxembourg) S.A..

On October 1, 2005, the indirect shareholder, Mitsubishi Tokyo Financial Group, Inc. (MTFG) merged with UFJ Holdings, Inc. (UFJ) and formed a new financial group, Mitsubishi UFJ Financial Group (MUFG).

On January 1, 2006, the Parent Bank, The Bank of Tokyo-Mitsubishi, Ltd. merged with UFJ Bank Limited to form The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ Ltd., and Bank of Tokyo-Mitsubishi (Luxembourg) S.A. changed its name to Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ (Luxembourg) S.A..

On April 2, 2007, the Bank became a jointly capitalized subsidiary of Mitsubishi UFJ Trust and Banking Corporation by 70% and Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ Ltd. by 30%, which are under the same holding company Mitsubishi UFJ Financial Group (MUFG). Consequently, Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ (Luxembourg) S.A. changed its name to MITSUBISHI UFJ Global Custody S.A. (MUGC).

On April 28, 2008, MITSUBISHI UFJ Global Custody S.A., has issued 49,080 new shares and the capital of the Bank has been increased by USD 1,817,968,52. The total subscribed share capital is currently set at USD 37,117,968,52. The two major shareholders of the Bank hold 92,25% of the capital, Mitsubishi UFJ Trust and Banking Corporation by 63,72% and Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ Ltd. by 28,53%.

On August 7, 2014, MITSUBISHI UFJ Global Custody S.A. has established an external branch located at Ormonde House, 12-13 lower Lesson Street, Dublin 2, Ireland. Mitsubishi UFJ Global Custody S.A., Dublin Branch is registered as credit institution pursuant to UE Regulation, 1993, under the number 907648.



## MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES &amp; BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

## NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

On May 1, 2016, MITSUBISHI UFJ Global Custody S.A. has changed its name to MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES & BANKING (LUXEMBOURG) S.A. (MIBL).

On May 31, 2017, Mitsubishi UFJ Trust and Banking Corporation obtained 100% of the voting shares of Mitsubishi UFJ Investor Services & Banking (Luxembourg) S.A..

The members of the Board of Directors are Senior Executives of Mitsubishi UFJ Trust and Banking Corporation Group and Independent Directors. The business policy and valuation principles, unless prescribed by the legal requirements existing in Luxembourg, are determined and monitored by the Board of Directors in accordance with those applied in Mitsubishi UFJ Financial Group.

### 1.2. Nature of business

The object of the Bank is the undertaking for its own account, as well as for the account of third parties either within or outside the Grand-Duchy of Luxembourg, of any banking or financial operations, as well as all other operations, whether industrial or commercial or in real estate, which directly or indirectly relate to the main object described above.

More specifically, the Bank concentrates its activities on investment management services.

A significant volume of the Bank's transactions is concluded directly or indirectly with companies of Mitsubishi UFJ Financial Group.

### 1.3. Annual accounts

The Bank prepares its annual accounts in US Dollars (USD), the currency in which the capital is expressed. The Bank's accounting year coincides with the calendar year.

## NOTE 2 - SUMMARY OF SIGNIFICANT ACCOUNTING POLICIES

The Bank prepares its annual accounts under the historical cost principle in accordance with the laws and regulations in force in the Grand-Duchy of Luxembourg and on the basis of accounting principles generally accepted in the banking sector in the Grand-Duchy of Luxembourg.

MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES & BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

In observing these, the following significant accounting policies are applied.

2.1. The date of recording of transactions in the balance sheet

Assets and liabilities are stated in the balance sheet on the date the amounts concerned become cleared funds, that is, on their date of effective transfer.

2.2. Foreign currencies

The Bank maintains a multi-currency accounting system which records all transactions in the currency or currencies of the transaction, on the day on which the contract is concluded.

Assets and liabilities are converted into USD at the spot exchange rates applicable at the balance sheet date. Both realised and unrealised profits and losses arising on revaluation are accounted for in the profit and loss account for the year, except for those resulting from items specifically covered by a forward foreign exchange contract (swap and hedging forward foreign exchange contract) which are recorded at historical exchange rates.

Revenues and expenses in foreign currencies are translated into USD daily at the prevailing exchange rates.

At the year-end, all unsettled forward transactions are translated into USD at the forward rate prevailing on the Balance Sheet date for the remaining maturities.

Results on unsettled forward transactions linked to spot transactions and on swap transactions are accrued at the balance sheet date. In case of unrealised results on position covered by foreign exchange swap, these are neutralized at year end.

2.3. Financial instruments derivatives

The Bank's commitments deriving from the derivatives financial instruments such as interest rate swaps, forward rate agreements, financial futures and options are recorded on the transaction date among the off balance sheet items.

MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES & BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

At the year-end, where necessary, a provision is set up in respect of individual unrealised losses resulting from the revaluation of the Bank's commitments at market value. There is no provision for unrealized losses on forward deals recorded for the year 2020 (2019: USD nil).

No provision is set up in those cases where a financial instrument clearly covers an asset or a liability and economic unity is established or where a financial instrument is hedged by a reverse transaction so that no open position exists.

2.4. Specific value adjustments in respect of doubtful and irrecoverable debts

It is the Bank's policy to establish specific value adjustments in respect of doubtful and irrecoverable debts, as deemed appropriate by the Board of Directors.

Value adjustments, if any, are deducted from the assets to which they relate.

2.5. Value adjustments for possible losses on bills, loans and advances and leasing transactions

The value adjustments for possible losses on loans and advances, if any, are deducted from the assets to which they relate.

2.6. Lump-sum provision for risk exposures

In accordance with the Luxembourg tax legislation, the Bank can establish a lump-sum provision for risk exposures, as defined in the legislation governing prudential supervision of banks. The purpose of the provision is to take account of risks which are likely to crystallise but which have not yet been identified as at the date of preparation of the annual accounts.

Pursuant to the Instructions issued by the Directeur des Contributions on December 16, 1997, this provision should be made before taxation and should not exceed 1,25% of the Bank's risk exposures.

The Bank has not constituted any provision as of December 31, 2020 (2019: USD 0).

MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES & BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

2.7. Transferable securities

Transferable securities are recorded initially at their purchase price. The average cost method is used for initial recognition. Value adjustments, calculated as described in note 2.5. or arising from a diminution of value, are deducted from the account balance.

2.8. Tangible and intangible assets

Tangible and intangible assets are valued at purchase price. The value of tangible and intangible fixed assets with limited useful economic lives is reduced by value adjustments calculated to write off the value of such assets systematically over their useful economic lives as follows:

- Hardware equipment: 4 years;
- Software: 4 years and 5 years;
- Other intangible assets: 5 years;
- Other tangible assets: 10 years;
- Goodwill: 5 years.

2.11. Taxes

Taxes are accounted for on an accruals basis in the accounts of the year to which they relate. Provision for taxation corresponds to the difference between the estimated provisions created by the Bank and the advance payments for the financial years for which no final tax assessment notices have been received yet.

2.12. Prepayment and accrued income

This asset item includes expenditure incurred during the financial year but relating to a subsequent financial year.

2.13. Accruals and deferred income

This liability item includes income received during the financial year but relating to a subsequent financial year.

MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES & BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

2.14. Provisions

Provisions are intended to cover losses or debts the nature of which is clearly defined and which, at the date of the balance sheet are either likely to be incurred or certain to be incurred but uncertain as to their amount or as to the date on which they will arise.

2.15. Revenue recognition

The Bank's main streams of revenue are comprised of interests and commissions income. The Bank earns fee and commission income from a wide range of services it provides to its customers.

Revenue is generally recognized when the related services are performed or recognized over the period that the services are provided.

NOTE 3 - LOANS AND ADVANCES TO CREDIT INSTITUTIONS

Loans and advances to credit institutions other than those repayable on demand, presented at their nominal value may be analysed according to their remaining maturity as follows:

	2020 USD	2019 USD
Not more than three months	606.285.500	541.421.000
More than three months but less than one year	875.598.591	687.000.000
	<u>1.481.884.091</u>	<u>1.228.421.000</u>

NOTE 4 - SHARES AND OTHER VARIABLE YIELD SECURITIES

Transferable securities shown under the item "Shares and other variable yield securities" consist entirely of unlisted securities for USD 3.033 (2019: USD 2.783).

[次へ](#)

## MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES &amp; BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

## NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

## NOTE 5 - MOVEMENTS IN FIXED ASSETS

The following movements have occurred in the Bank's fixed assets in the course of the financial year:

## FIXED ASSETS:

	Gross value at the beginning of the financial year	Additions	Disposals	Exchange difference	Gross value at the end of the financial year	Cumulative value adjustments	Net value at the end of the financial year
	USD	USD	USD	USD	USD	USD	USD
1. Tangible assets	3.240.997	166.690	0	291.762	3.699.449	2.952.787	746.662
a) Hardware	790.243	160.626	0	71.139	1.022.008	679.546	342.462
b) Other fixtures and fittings, flat furniture, equipment and vehicles	2.450.754	6.064	0	220.623	2.677.441	2.273.241	404.200
2. Intangible assets	19.873.064	2.357.632	0	1.613.885	23.844.581	19.880.509	3.964.072
a) Software	17.927.625	2.357.632	0	1.613.885	21.899.142	17.935.070	3.964.072
b) Goodwill acquired for valuable Consideration	1.945.439	0	0	0	1.945.439	1.945.439	0
Total Fixed Assets	23.114.061	2.524.322	0	1.905.647	27.544.030	22.833.296	4.710.734

Goodwill acquired for valuable consideration represents the value of the takeover of part of the client base of another institution.

[次へ](#)

## MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES &amp; BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

## NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

## NOTE 6a - OTHER ASSETS

	2020	2019
	USD	USD
Other assets	6.000.367	365
	<u>6.000.367</u>	<u>365</u>

At December 31, 2020, the main item includes receivable related to the upcoming change of sub custody and technology provider. The amount was settled in January 2021.

## NOTE 6b - PREPAYMENTS AND ACCRUED INCOME

The Bank's prepayments and accrued income may be analysed as follows:

	2020	2019
	USD	USD
Accrued interest income	5.933.296	14.177.184
Accrued Interest income on swaps	1.612.214	1.713.597
Commission from the Management Company	858.421	183.794
Commission on fiduciary operations	1.512.122	1.566.075
Commission on global custody	14.654.292	12.792.274
Commission on investment funds	5.437.372	5.053.137
Other accrued income	364.437	543.439
Other Commissions	177.468	171.171
Other prepayments	363.811	324.052
Prepaid general expenses	387.854	572.304
Prepaid income taxes	818	751
VAT recoverable	477.162	435.944
	<u>31.779.267</u>	<u>37.533.722</u>

MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES & BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

NOTE 7 - FOREIGN CURRENCY ASSETS

At December 31, 2020, the aggregate amount of the Bank's assets denominated in foreign currencies, translated into USD, is USD 5.991.487.186 (2019: USD 5.141.994.595).

NOTE 8 - AMOUNTS OWED TO CUSTOMERS

As at December 31, 2020, there is no debts other than those repayable on demand owed to customers. (as at December 31, 2019 debts other than repayable on demand amounted to USD 0).

NOTE 9 - OTHER LIABILITIES

The Bank's other liabilities may be analysed as follows:

	2020	2019
	USD	USD
Preferential creditors	678.795	649.292
Sundry creditors	1.403.588	582.826
	<u>2.082.383</u>	<u>1.232.118</u>



## MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES &amp; BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

## NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

## NOTE 10 - ACCRUALS AND DEFERRED INCOME

The Bank's accruals and deferred income may be analysed as follows:

	2020	2019
	USD	USD
Accrued commission	9.248.976	8.943.522
Accrued general expenses	5.966.428	4.769.237
Accrued interest expenses	0	1.612.014
Deferred income related to commission	47.421	58.141
Other deferred income(*)	6.000.000	0
Neutralization of foreign exchange results on position covered by foreign exchange swap (note 2.2.)	36.126.293	14.380.755
Other accrued expenses	140.872	114.097
Other suspense receipts (*)	310.152	63.797
	<u>57.840.142</u>	<u>29.941.563</u>

(\*) Other deferred income: In relation to the note 6a.

(\*) Other suspense receipts: Transitory account for suspense receipts payable after the December 31, 2020 to the related beneficiary.

## MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES &amp; BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

## NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

## NOTE 11 - TAXATION - EXCHANGE DIFFERENCE: DEFERRED TAXATION

The Bank prepares its annual accounts in USD, currency in which its statutory capital is denominated.

In September 2018 the Tax Authorities authorized the Bank to use the USD tax functional currency in accordance with the Circular L.G.-A no 60 dated June 21, 2016.

Consequently the fiscal and commercial balance sheets are established in the same currency the USD.

As at December 31, 2020, there are no deferred tax.

## NOTE 12 - OTHER PROVISIONS

The Bank's other provisions are made of provision for staff remuneration.

	2020	2019
	USD	USD
Provision for staff remuneration	2.092.739	1.408.538
	<u>2.092.739</u>	<u>1.408.538</u>

## NOTE 13 - SUBSCRIBED CAPITAL

As of December 31, 2020, the Bank's subscribed and fully paid up capital amounts to USD 187.117.966 for 5.002.575 shares of Class A and 49.080 shares of Class B.

## MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES &amp; BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

## NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

## NOTE 14 - MOVEMENTS IN RESERVES AND RESULT BROUGHT FORWARD

	Legal reserve USD	Other reserves USD	Result brought forward USD
Balance at January 1, 2020	7.395.745	190.561.012	988
Profit for the year ended December 31, 2019	0	0	49.843.047
Appropriation of profit			
- Dividends paid to shareholders			(54.844)
- Transfer to reserves for Net Worth Tax 2020		10.911.000	(10.911.000)
- Transfer from Reserve for Net Worth Tax 2014		(3.019.136)	3.019.136
- Allocation to Free reserve		39.335.000	(39.335.000)
- Allocation to Legal reserve	2.492.153	0	(2.492.153)
Balance at December 31, 2020	<u>9.887.898</u>	<u>237.787.876</u>	<u>70.174</u>

Under Luxembourg law, the Bank must appropriate to a legal reserve an amount equivalent to at least 5% of the annual net profit until such reserve is equal to 10% of the share capital. This appropriation is made in the following year. Distribution of the legal reserve is restricted.

Based on the Luxembourg tax law, the Bank has elected to get a tax credit for all or part of the net worth tax due for that year. This tax credit is however, limited to the amount of the corporate income tax due for the previous year before the imputation of any tax credits. In order to profit from this credit, the Bank must commit itself to post before the end of the subsequent year an amount equal to five times the net worth tax credit to a special reserve, which has to be maintained for a period of five years.

As of December 31, 2020, the special reserve for net worth tax is included in the Bank's other reserve for a total amount of USD 37.216.791 (2019: USD 29.324.927).

As resolved in the Annual General Meeting dated March 25, 2020, the Bank has allocated an amount of USD 10.911.000 to special reserve for Net Worth Tax 2020 and reversed the available special reserve for Net Worth Tax constituted in 2014 which amounted to USD 3.019.136.

## MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES &amp; BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

## NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

The accumulated balance of special reserve for Net Worth Taxes states as follows as at December 31, 2020.

Years	2020 Reserve for Net Worth Tax USD
2016	3.348.440
2017	4.276.351
2018	8.700.000
2019	9.981.000
2020	10.911.000
Balance at December 31, 2020	<u>37.216.791</u>

## NOTE 15 - RELATED PARTY BALANCES

As at December 31, 2020, the following balances with related parties are outstanding:

## ASSETS

	2020 USD	2019 USD
Loans and advances to credit institutions	2.523.209.017	3.313.250.489
Prepayments and accrued income	18.411.677	25.391.063
	<u>2.541.620.694</u>	<u>3.338.641.552</u>

## LIABILITIES

	2020 USD	2019 USD
Amounts owed to credit institutions	1.685.102.780	1.121.324.163
Amounts owed to customers	589.335.450	790.938.178
Accruals and deferred income	5.093.264	5.272.305
	<u>2.279.531.494</u>	<u>1.917.534.646</u>

MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES & BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

The above transactions with related parties were made at conditions comparable with non-related counterparties.

At the request of the Bank, the CSSF has granted a total exemption for the exposures towards the group (Mitsubishi UFJ Financial Group) in the calculation of large exposure limits, in accordance with the Regulation (EU) No 575/2013 of June 26, 2013 (Part IV).

As at December 31, 2020, the amount towards the group falling under this exemption amounts to USD 2.585.897.973 and can be analysed as follows:

	2020	2019
	USD	USD
Loans and advances to credit institutions	2.522.808.891	3.311.881.103
Prepayments and accrued income	5.944.840	14.190.435
Foreign exchange transactions (Market Risk method)	57.144.242	56.995.178
	<u>2.585.897.973</u>	<u>3.383.066.716</u>

NOTE 16 - FOREIGN CURRENCY LIABILITIES

At December 31, 2020, the aggregate amounts of liabilities denominated in foreign currencies translated into USD is USD 5.998.748.318 (2019: USD 5.161.213.531).

NOTE 17 - CONTINGENT LIABILITIES

The Bank's contingent liabilities may be analysed as follows:

	2020	2019
	USD	USD
Counter-guarantees issued	<u>580.391</u>	<u>528.585</u>

As at the year-end, there were no related party balances.

## MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES &amp; BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

## NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

## NOTE 18 - COMMITMENTS

The Bank has entered into certain commitments which are not disclosed neither in the Balance Sheet nor in the Off Balance Sheet Items, but which are significant for the purposes of assessing the financial situation of the Bank. Details of such commitments are as follows:

	2020	2019
	USD	USD
Commitments in respect of fixed rental payments contracted on buildings	4.216.945	5.226.846

As at the year-end, there are no related party balances.

## NOTE 19 - OPERATIONS LINKED TO CURRENCY EXCHANGE RATES, INTEREST RATES AND OTHER MARKET RATES

The following types of forward transactions are outstanding as at December 31, 2020 and 2019:

Operations linked to currency exchange rates

- Forward exchange transactions (swaps, outright).

Operations linked to the foreign currency exchange rates are made to a large extent for the purposes of covering the existing positions.

## NOTE 20 - INVESTMENT MANAGEMENT SERVICES AND UNDERWRITING FUNCTIONS

Management and agency services provided by the Bank include:

- Custody and administration of transferable securities;
- Fiduciary representations;
- Agency functions;
- Portfolio management and advice.

MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES & BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

NOTE 21 - COMMISSIONS RECEIVABLE

	2020	2019
	USD	USD
Fees on Investment Funds	24.626.803	22.712.248
Fees on Global custody from Institutional customers	108.765.953	99.635.836
Fees on Fiduciary transactions	9.891.734	11.022.939
Fees on Services to Management Company	858.421	700.533
Other fees and commissions	1.431.971	1.461.279
	<u>145.574.882</u>	<u>135.532.835</u>

Commissions receivable consist of the following:

Fees on Investment Funds consist of fees and commissions charged to Investment Funds for custody services, central administration, depositary and other services. The fees are calculated on the basis of the value of net assets of the funds under administration.

Fees on Global custody from Institutional customers consist of fees and commissions charged to institutional customers for global custody services including securities trade management, settlement, corporate actions, income collection and proxy voting. The fees are calculated on the basis of the assets held under custody and the number of transactions.

Fees on Fiduciary transactions consist of fees and commissions earned on fiduciary assets including custody transactions, cash management and fiduciary notes issuance. The fees are calculated on the basis of the assets held under management and the number of transactions.

Fees on Services to Management Company include fees covering functional expenditures and fees for support services in accordance with the Service Level Agreement.

Other fees and commissions include various fees such as listing agent fees, guarantee fees, banking services fees and fund order desk services fees.

By application of Article 69(2) of the law of June 17, 1992, on the annual accounts of credit institutions sources of income have not been analysed by geographical region.

## MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES &amp; BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

## NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

## NOTE 22 - OTHER OPERATING INCOME

	2020	2019
	USD	USD
Adjustment of Income taxes 2015-2018	88.772	0
Adjustment for commission previous years	1.168.278	663.382
Income from the adjustment of general expenses regarding previous years	532.488	478.260
Sub-Rental Fee received from the Management Company (Service level agreement)	84.638	78.621
Other operating income	50.078	219.529
	<u>1.924.254</u>	<u>1.439.792</u>

## NOTE 23 - OTHER OPERATING CHARGES

	2020	2019
	USD	USD
Charges from the adjustment of general expenses regarding previous years	87.248	170.811
Commission on previous years	244.112	325.550
Interest on previous years	2.765	106.282
Others operating losses	65.910	21.848
	<u>400.035</u>	<u>624.491</u>

## NOTE 24 - STAFF NUMBERS

The average number of persons employed during the financial year by the Bank is as follows:

	2020	2019
	Number	Number
Senior management	28	30
Middle management	85	83
Employees	56	56
	<u>169</u>	<u>169</u>



MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES & BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

NOTE 25 - MANAGEMENT REMUNERATION

The Bank has granted emoluments in respect of the financial year to the members of the managerial body of the Bank by reason of their responsibilities as follows:

	2020	2019
	USD	USD
Senior management	4.877.002	5.606.190
Of which variable remuneration	811.702	821.298
Of which fix remuneration	4.065.300	4.784.892

During the financial year, no pension commitments to the members of the Board of Directors and General Management were made.

As at December 31, 2020 and 2019, the Bank did not grant any advances and credits to the members of the Board of Directors and General Management.

NOTE 26 - OTHER ADMINISTRATIVE EXPENSES

	2020	2019
	USD	USD
Data charges	1.273.871	1.286.243
Maintenance	1.470.242	1.420.213
Membership fees	4.291.080	3.049.059
Professional fees	3.782.542	3.356.649
Rent and related expenses	1.279.480	1.207.833
Service contracts	6.402.064	5.099.944
Service fee	3.166.402	2.770.636
System cost	11.802.849	11.351.403
Telecommunication expenses	563.427	393.275
Travelling, moving, business trips	108.354	172.054
Other expenses	491.452	614.441
	34.631.763	30.721.750

The increase of the costs for Memberships is due to the increase of the fees paid to Single Resolution Funds during the year 2020 (Note 29).

## MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES &amp; BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

## NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

## NOTE 27 - TAX

27.1. Tax on profit on ordinary activities

	2020	2019
	USD	USD
Corporate Income Tax	9.580.154	12.027.260
Municipal Business Tax	3.473.095	4.468.057
	<u>13.053.249</u>	<u>16.495.317</u>

27.2. Other taxes not shown under the preceding items

	2020	2019
	USD	USD
VAT	1.825.735	1.710.089
Other taxes	67.973	59.733
	<u>1.893.708</u>	<u>1.769.822</u>

## NOTE 28 - PARENT UNDERTAKING

As of December 31, 2020, the Bank is a jointly capitalized subsidiary of Mitsubishi UFJ Trust and Banking Corporation by 100 %, which are under the holding company Mitsubishi UFJ Financial Group (MUFG), which is incorporated under the laws of Japan and whose registered office is in Tokyo.

The annual accounts of the Bank are included in the consolidated accounts of Mitsubishi UFJ Trust and Banking Corporation, with Registered Financial Institution number 33 at Kanto Local Finance Bureau Japan and registered address 4-5, Marunouchi 1-Chome, Chiyoda-Ku, Tokyo 100-8212, Japan.

The consolidated accounts of the holding company Mitsubishi UFJ Financial Group (MUFG) may be obtained from the head office at 7-1, Marunouchi 2-Chome, Chiyoda-Ku, Tokyo 100, Japan.

## MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES &amp; BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

## NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

## NOTE 29 - DEPOSIT GUARANTEE SCHEME

The law related to the resolution, reorganisation and winding-up measures of credit institutions and certain investment firms and on deposit guarantee and investor compensation schemes (the “Law”), transposing into Luxembourgish law the directive 2014/59/EU establishing a framework for the recovery and resolution of credit institutions and investment firms and the directive 2014/49/EU related to deposit guarantee and investor compensation schemes, was passed on December 18, 2015.

The deposit guarantee scheme ( “Fonds de garantie des dépôts Luxembourg” (FGDL)) and the investor compensation system ( “Système d'indemnisation des investisseurs Luxembourg” (SIIL)) cover eligible deposits of each depositor up to an amount of EUR 100.000 and investments up to an amount of EUR 20.000. The Law also provides that deposits resulting from specific transactions or fulfilling a specific social or other purpose are covered for an amount above EUR 100.000 for a period of 12 months.

Credit institutions contribute on an annual basis to the Luxembourg banking resolution fund ( “Fonds de resolution Luxembourg” (FRL)), respectively to the FGDL.

The funded amount of the FRL shall reach by the end of 2024 at least 1% of covered deposits, as defined in article 107(1) of the Law, of all authorized credit institutions in all participating Member States. This amount will be collected during the years 2015 to 2024.

The target level of funding of the FGDL is set at 0,8% of covered deposits, as defined in article 179(1) of the Law, of the relevant credit institutions and is to be reached by the end of 2018 through annual contributions. This amount will be collected during the years 2016 to 2018. When the level of 0,8% is reached, the Luxembourgish credit institutions are to continue to contribute for 8 additional years in order to constitute an additional safety buffer of 0.8% of covered deposits as defined in article 180(1) of the Law.

For the year end December 31, 2020, the Bank's annual contribution for FRL amounted to EUR 2.879.732 (USD 3.283.564). (2019 : EUR 1.924.193 / USD 2.144.032).

MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES & BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

NOTE 30 - AUDIT FEES

Within the framework of the EU audit legislation and the mandatory audit firm rotation, the Bank has appointed BDO Audit S.A. starting from the fiscal year 2020.

The fees of the Auditor of the Bank are as follows (excluding VAT):

	2020	2019
	USD	USD
Audit fees	257.225	273.905
Audit related fees	56.245	138.827
Tax fees	22.550	30.103
	<u>336.020</u>	<u>442.835</u>

The other audit related fees provided of the Auditor included the following Service:

- ISAE 3402 Report for the period from January 1, 2020 to December 31, 2020.

The tax fees in relation to the financial year included the following services:

- Preparation of tax returns;
- Preparation of VAT returns.

[次へ](#)

## MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES &amp; BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

## NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

## NOTE 31 - FINANCIAL INSTRUMENT DISCLOSURES

31.1. Primary non-trading financial instruments

As at December 31, 2020, the analysis of primary non-trading financial instruments (the Bank has no trading portfolio) by class and residual maturity is the following:

	<sup>22</sup> <sub>64</sub> 3 months	> 3 months <sup>22</sup> <sub>64</sub> 1 year	> 1 year <sup>22</sup> <sub>64</sub> 5 years	> 5 years	Total
At carrying amount in USD	USD	USD	USD	USD	USD
FINANCIAL ASSETS					
Instrument class					
Balances with the BCL (including BCL reserve)	4.532.995.593	0	0	0	4.532.995.593
Loans and advances to credit institutions	2.161.914.240	875.598.591	0	0	3.037.512.831
Loans and advances to customers	7.934.281	0	0	0	7.934.281
Shares and other variable yield securities	0	0	0	3.033	3.033
Other Assets	6.000.000	0	0	0	6.000.000
Total Financial Assets	<u>6.708.844.114</u>	<u>875.598.591</u>	<u>0</u>	<u>3.033</u>	<u>7.584.445.738</u>
FINANCIAL LIABILITIES					
Instrument class					
Amounts owed to credit institutions	1.709.328.688	0	0	0	1.709.328.688
Amounts owed to customers	<u>5.363.495.359</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>5.363.495.359</u>
Total Financial Liabilities	<u>7.072.824.047</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>7.072.824.047</u>
Off-balance sheet items disclosed as contingencies					
Guarantees					
	<u>580.391</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>580.391</u>
Total Guarantees	<u>580.391</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>580.391</u>

## MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES &amp; BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

## NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

As at December 31, 2019, the analysis of primary non-trading financial instruments (the Bank has no trading portfolio) by class and residual maturity is the following:

	<sup>22</sup> <sub>64</sub> 3 months	<sup>22</sup> <sub>64</sub> > 3 months 1 year	<sup>22</sup> <sub>64</sub> > 1 year 5 years	> 5 years	Total
At carrying amount in USD	USD	USD	USD	USD	USD
FINANCIAL ASSETS					
Instrument class					
Balances with the BCL (including BCL reserve)	3.122.139.702	0	0	0	3.122.139.702
Loans and advances to credit institutions	3.021.799.645	687.000.000	0	0	3.708.799.645
Loans and advances to customers	670.745	0	0	0	670.745
Shares and other variable yield securities	0	0	0	2.783	2.783
Total Financial Assets	<u>6.144.610.092</u>	<u>687.000.000</u>	<u>0</u>	<u>2.783</u>	<u>6.831.612.875</u>
FINANCIAL LIABILITIES					
Instrument class					
Amounts owed to credit institutions	1.156.999.949	0	0	0	1.156.999.949
Amounts owed to customers	<u>5.228.117.398</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>5.228.117.398</u>
Total Financial Liabilities	<u>6.385.117.347</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>6.385.117.347</u>
Off-balance sheet items disclosed as contingencies					
Guarantees					
	<u>528.585</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>528.585</u>
Total Guarantees	<u>528.585</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>528.585</u>

## MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES &amp; BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

## NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

31.2. Derivative non-trading financial instruments

As at December 31, 2020, the analysis of OTC derivative non-trading financial instruments (the Bank has no trading portfolio) by class and residual maturity is the following:

	<sup>2 2</sup> <sub>6 4</sub> 3 months	<sup>2 2</sup> <sub>6 4</sub> > 3 months 1 year	<sup>2 2</sup> <sub>6 4</sub> > 1 year 5 years	> 5 years	Total	Fair value
At notional payable amount in USD	USD	USD	USD	USD	USD	USD
FINANCIAL ASSETS						
Instrument class						
Foreign exchange transactions						
Forwards	4.826.443.660	5.041.174	0	0	4.831.484.834	19.024.454
Swaps	<u>2.872.843.236</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>2.872.843.236</u>	<u>11.023.212</u>
Total	<u>7.699.286.896</u>	<u>5.041.174</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>7.704.328.070</u>	<u>30.047.666</u>
FINANCIAL LIABILITIES						
Instrument class						
Foreign exchange transactions						
Forwards	4.766.463.318	5.073.276	0	0	4.771.536.594	18.983.782
Swaps	<u>2.044.899.016</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>2.044.899.016</u>	<u>42.172.709</u>
Total	<u>6.811.362.334</u>	<u>5.073.276</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>6.816.435.610</u>	<u>61.156.491</u>

These amounts include OTC derivative non-trading financial instruments with a trade date before December 31, 2020 and a value date after December 31, 2020.

## MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES &amp; BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

## NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

As at December 31, 2019, the analysis of OTC derivative non-trading financial instruments (the Bank has no trading portfolio) by class and residual maturity is the following:

	<sup>22</sup> <sub>6.4</sub> 3 months	<sup>22</sup> <sub>6.4</sub> > 3 months 1 year	<sup>22</sup> <sub>6.4</sub> > 1 year 5 years	> 5 years	Total	Fair value
At notional payable amount in USD	USD	USD	USD	USD	USD	USD
FINANCIAL ASSETS						
Instrument class						
Foreign exchange transactions						
Forwards	3.932.042.624	5.842.135	0	0	3.937.884.759	26.049.631
Swaps	<u>1.004.949.710</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>1.004.949.710</u>	<u>2.872.627</u>
Total	<u>4.936.992.334</u>	<u>5.842.135</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>4.942.834.469</u>	<u>28.922.258</u>
FINANCIAL LIABILITIES						
Instrument class						
Foreign exchange transactions						
Forwards	3.952.576.741	5.799.199	0	0	3.958.375.940	26.036.732
Swaps	<u>2.408.687.339</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>2.408.687.339</u>	<u>11.231.097</u>
Total	<u>6.361.264.080</u>	<u>5.799.199</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>6.367.063.279</u>	<u>37.267.829</u>

These amounts include OTC derivative non-trading financial instruments with a trade date before December 31, 2019 and a value date after December 31, 2019.

[次へ](#)



MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES & BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

31.3. Information on credit risk on primary non-trading financial instruments

As at December 31, 2020, the Bank is exposed to the following credit risk on primary non-trading financial instruments:

	2020 Carrying amount in USD	2019 Carrying amount in USD
FINANCIAL ASSETS		
By instrument class and geographic location		
Cash, balances with the BCL	4.532.995.593	3.122.139.702
Of which BCL minimum reserve	74,074,339	61.322.494
EU member countries	4.532.995.593	3.122.139.702
Loans and advances to credit institutions	3.037.512.831	3.708.799.645
EU member countries	683.470.279	135.123.430
North & Central America	331.454.821	894.909.307
Asia	1.950.621.860	2.674.535.568
Europe, non-EU member countries	56.563.445	1.183.449
Australia and New Zealand	15.402.426	3.047.891
Loans and advances to customers	7.934.281	670.745
EU member countries	7.365.151	315.164
North & Central America	38.644	351.379
Asia	530.486	0
Europe, non-EU member countries	0	4.202
Shares and other variable yield securities	3.033	2.783
EU member countries	3.033	2.783
Other Assets	6.000.000	0
EU member countries	6.000.000	0
Total	<u>7.584.445.738</u>	<u>6.831.612.875</u>

## MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES &amp; BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

## NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

31.4. Information on derivative non-trading financial instruments

As at December 31, 2020, the Bank is exposed to the following credit risk on derivatives non-trading financial instruments:

	2020 Notional/ payable amount in USD	2020 Risk equivalent amount in USD
FINANCIAL ASSETS		
By instrument class and geographic location		
Foreign exchange transactions		
Forwards		
EU member countries	1.573.370.543	9.120.220
America	2.763.233.382	7.104.859
Asia	494.880.909	2.799.375
Swaps		
EU member countries	2.872.843.236	11.023.212
Total	7.704.328.070	30.047.666

## MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES &amp; BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

## NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

As at December 31, 2019, the Bank is exposed to the following credit risk on derivatives non-trading financial instruments:

	2019 Notional/ payable amount in USD	2019 Risk equivalent amount in USD
FINANCIAL ASSETS		
By instrument class and geographic location		
Foreign exchange transactions		
Forwards		
EU member countries	3.136.956.781	17.460.853
America	752.436.735	8.314.206
Asia	48.491.243	274.572
Swaps		
EU member countries	<u>1.004.949.710</u>	<u>2.872.627</u>
Total	<u><u>4.942.834.469</u></u>	<u><u>28.922.258</u></u>

MITSUBISHI UFJ INVESTOR SERVICES & BANKING (LUXEMBOURG) S.A.

NOTES TO THE ACCOUNTS

December 31, 2020

- continued -

NOTE 32- SUBSEQUENT EVENTS

The Bank plans to change a sub custody and technology service provider. It enables us to not only save operational costs but enhance our service quality and competitiveness by implementation of 24 hours operation that benefits the convenience for clients. Also, the Bank will continuously focus on keeping and improving our service quality by both improving internal business and cooperating with the global MUFG Investor Services network, so that our services will be able to continue to meet, even exceed, the existing and potential clients' expectations.

The Bank will plan to integrate its operation to the group's standard platform managed by MUFG Fund Services ( "MFS" ). Based on this new strategy, the bank will focus on oversight and monitoring activities while leveraging highly advanced technology and talents across the group's global locations. It will enable the Bank to be more competitive in the market where we foresee more opportunity; non-Japanese clients and alternative funds. This strategy requires downsizing of the Bank's operation. On March 15, 2021 the Bank reached an agreement by having signed a social plan between the Bank, staff delegation and the Unions regarding the termination of 16 employment contracts with certain terms and conditions.

Except for the above, there have been no other significant events in 2021, that would require disclosure in the annual accounts of the Bank as of December 31, 2020.

[次へ](#)

## (2) その他の訂正

訂正箇所を下線で示します。

## 第二部 ファンド情報

### 第１ ファンドの状況

#### １ ファンドの性格

##### (3) ファンドの仕組み 管理会社の概況

< 訂正前 >

(前略)

##### (ハ) 資本金の額 (2021年 1 月末日現在)

払込済資本金の額 187,117,965.90米ドル (約196億円)

発行済株式総数 5,051,655株 (一株37.04米ドルの記名式額面株式)

管理会社が発行する株式総数の上限については制限がない。

ただし、上記資本金の増減については、定款の規定に基づく株主総会の決議を要する。

##### (ニ) 会社の沿革

(後略)

< 訂正後 >

(前略)

##### (ハ) 資本金の額 (2021年 4 月末日現在)

払込済資本金の額 187,117,965.90米ドル (約204億円)

発行済株式総数 5,051,655株 (一株37.04米ドルの記名式額面株式)

管理会社が発行する株式総数の上限については制限がない。

ただし、上記資本金の増減については、定款の規定に基づく株主総会の決議を要する。

(注) 米ドルの円貨換算は、便宜上、2021年 4 月30日現在の株式会社三菱ＵＦＪ銀行の対顧客電信売買相場  
の仲値 (1 米ドル = 108.93円) による。

##### (ニ) 会社の沿革

(後略)

#### 4 手数料等及び税金

##### (5) 課税上の取扱い

< 訂正前 >

(前略)

##### (A) 日本

2021年 2 月末日現在、日本の受益者に対する課税については、以下のような取扱いとなる。

(後略)

< 訂正後 >

(前略)

##### (A) 日本

2021年 5 月末日現在、日本の受益者に対する課税については、以下のような取扱いとなる。

(後略)

## 5 運用状況

### （３）運用実績

#### 分配の推移

< 訂正前 >

（前略）

< 米ドル建 米ドルヘッジ >

（中略）

< 参考情報 >

	米ドル	円
2016年10月14日	0	0
2017年10月16日	0.001538	0.1607
2018年10月15日	0.000596	0.0623
2019年10月14日	0	0
2020年10月14日	0.000746	0.0779
直近 1 年間累計	0.000746	0.0779
設定来累計	0.003856	0.4029

（中略）

< 豪ドル建 豪ドルヘッジ >

（中略）

< 参考情報 >

	豪ドル	円
2016年10月14日	0	0
2017年10月16日	0.001626	0.1302
2018年10月15日	0.000509	0.0408
2019年10月14日	0	0
2020年10月14日	0.000159	0.0127
直近 1 年間累計	0.000159	0.0127
設定来累計	0.003352	0.2684

< 訂正後 >

（前略）

< 米ドル建 米ドルヘッジ >

（中略）

< 参考情報 >

	米ドル	円
2016年10月14日	0	0
2017年10月16日	0.001538	0.1607
2018年10月15日	0.000596	0.0623
2019年10月15日	0	0
2020年10月14日	0.000746	0.0779
直近 1 年間累計	0.000746	0.0779
設定来累計	0.003856	0.4029

（中略）

## &lt; 豪ドル建 豪ドルヘッジ &gt;

( 中略 )

## &lt; 参考情報 &gt;

	豪ドル	円
2016年10月14日	0	0
2017年10月16日	0.001626	0.1302
2018年10月15日	0.000509	0.0408
2019年10月15日	0	0
2020年10月14日	0.000159	0.0127
直近 1 年間累計	0.000159	0.0127
設定来累計	0.003352	0.2684

ルクセンブルク三菱UFJインベスターサービス銀行S.A.

取締役会各位

## 承認された監査人の報告書

### 財務書類の監査に関する報告

#### 意見

我々は、2020年12月31日現在の貸借対照表、同日に終了した年度の損益計算書および財務書類に対する注記(重要な会計方針の要約を含む。)から構成されるルクセンブルク三菱UFJインベスターサービス銀行S.A.(以下「本銀行」という。)の財務書類について監査を行った。

我々の意見では、本財務書類は、財務書類の作成および表示に関するルクセンブルグにおける法律および規制の要件に従い、本銀行の2020年12月31日現在の財務状態および同日に終了した年度の営業成績を、真正かつ公正な概観を表示しているものと認める。

#### 意見の基礎

我々は、EU規則第537/2014号、監査専門職に関する2016年7月23日法(以下「2016年7月23日法」という。)および金融監督委員会(以下「CSSF」という。)によってルクセンブルグにつき採用された国際監査基準(以下「ISA」という。)に準拠して監査を実施した。EU規則第537/2014号、2016年7月23日法およびCSSFによってルクセンブルグにつき採用されたISAに基づく我々の責任は、当報告書の「財務書類の監査に対する承認された監査人の責任」で詳述する。また、我々は、CSSFによってルクセンブルグにつき採用された、国際会計士倫理基準審議会が制定した国際独立性基準を含む職業会計士の国際倫理規程(IESBA規程)および我々による本財務書類の監査に関連する倫理上の義務に従い、本銀行から独立しており、当該倫理上の義務に基づくその他の倫理上の責任を果たした。我々は、我々が入手した監査証拠は、我々の意見の基礎を提供するために十分かつ適切なものであると確信している。

#### 監査上の主要な事項

監査上の主要な事項とは、我々の専門的判断において、当期の財務書類の監査上最も重要であった事項をいう。我々は、これらの事項について、財務書類全体に対する監査の観点から、財務書類に対する監査意見の形成にあたり検討しており、これらの事項に関して個別の意見を提供しない。



収益認識 未収手数料	
監査上最も重要な事項の一つであると判断した理由	監査における対応方法
<p>我々は、財務書類のうち、「重要な会計方針の要約 注記2.14 収益認識」および「注記21 未収手数料」について言及する。</p> <p>2020年12月31日現在の未収手数料は145,574,882米ドルであった。未収手数料は、主にファンド管理事務、信託業務およびグローバルカストディ業務から生じている。</p> <p>手数料の種類ごとに適用されるレートは、保管および管理下にある原資産、契約ならびに提供される業務によって異なる。</p> <p>未収手数料認識プロセスは、人の手による介入を伴い、関連する金額の重要性に加え、計上される取引量に鑑み、監査上の主要な事項とみなされる。</p>	<p>我々は、財務・経理部に対して聞き取りを行い、未収手数料認識プロセスについて理解した。</p> <p>我々は、未収手数料に関する内部統制の整備および運用状況について検討し、関連する統制の有効性を検証した。</p> <p>我々は、手数料収入の種類ごとの合計額について予測を策定し、当該予測額を本銀行により計上された金額と比較した。</p> <p>異なる種類の手数料の実例として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・我々は、手数料について別途再計算を行うことにより未収手数料をテストした。これには、基礎となる契約に対する手数料条件の修正および外部証拠に対する基礎的根拠の修正も含まれた。</li> <li>・我々は、未払手数料を年度末後に受領することを承認した。</li> </ul>

#### その他の情報

取締役会は、その他の情報について責任を負う。その他の情報は、経営者報告書に記載される情報から構成されるが、財務書類およびそれに対する承認された監査人の報告書を含まない。

財務書類に対する我々の意見は、その他の情報を対象としておらず、我々は、その他の情報に対していかなる形式の結論の保証も表明しない。

財務書類の監査に関して、我々の責任は、その他の情報を精読し、その過程において、その他の情報に、財務書類もしくは我々が監査で入手した知識と重大な不一致があるか、または重大な虚偽記載があると思われるかについて検討することである。我々が実施した作業に基づき、その他の情報に重大な虚偽記載があるという結論に達した場合、我々はかかる事実を報告する必要がある。この点に関し、我々が報告すべき事実はない。

#### 財務書類に対する取締役会の責任

取締役会は、財務書類の作成および表示に関するルクセンブルグにおける法律および規制の要件に従い本財務書類を作成することおよび公正に表示すること、ならびに不正によるか誤謬によるかを問わず、重大な虚偽記載のない財務書類を作成するために必要であると取締役会が判断する内部統制について責任を負う。

財務書類の作成において、取締役会は、継続企業としての本銀行の存続能力の評価、継続企業に関連する事項の開示（該当する場合）および継続企業の前提による会計処理の実施について責任を負う。ただし、取締役会が本銀行を清算もしくはその業務を停止する意向を有する場合、またはそうするより他に現実的な代替方法がない場合を除く。

## 財務書類の監査に対する承認された監査人の責任

我々の目的は、不正によるか誤謬によるかを問わず、全体として財務書類に重要な虚偽記載がないかどうかについての合理的な確証を得て、我々の意見を含む承認された監査人の報告書を発行することにある。合理的な確証は、高い水準の確証であるが、EU規則第537/2014号、2016年7月23日法およびCSSFによってルクセンブルグにつき採用されたISAに準拠して行われた監査が、存在するすべての重要な虚偽記載を常に発見することを確認するものではない。虚偽記載は、不正または誤謬から発生する可能性があり、個別にまたは全体として、本財務書類に基づく利用者の経済的意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

EU規則第537/2014号、2016年7月23日法およびCSSFによってルクセンブルグにつき採用されたISAに準拠した監査の一環として、我々は、監査を通じて職業的専門家としての判断を行使し、職業的専門家としての懐疑心を保持する。我々は、以下の事項も実施する。

- 不正によるか誤謬によるかを問わず、財務書類上の重要な虚偽記載のリスクを識別、評価し、当該リスクに対応した監査手続を立案、実施し、我々の意見の基礎となるに十分かつ適切な監査証拠を入手する。不正による重要な虚偽記載を発見できないリスクは、誤謬による当該リスクよりも高くなる。これは、不正には、共謀、文書の偽造、意図的な除外、虚偽の言明または内部統制の無効化が伴うことがあるためである。
- 状況に照らして適切である監査手続を策定するため、監査に関する内部統制を理解する。ただし、これは本銀行の内部統制の有効性について意見を表明するために行うものではない。
- 取締役会が採用した会計原則の適切性および取締役会が行った会計上の見積りおよび関連する開示の合理性について評価する。
- 取締役会が継続企業の前提による会計処理を実施したことの適切性について、また、入手した監査証拠に基づき、本銀行の継続企業としての存続能力に重要な疑義を生じさせるような事由または状況に関して重要な不確実性が存在するか否かについて結論を下す。我々は、重要な不確実性が存在するとの結論に至った場合、承認された監査人の報告書において、財務書類の関連する開示を参照するよう促すか、または当該開示が不十分な場合には、我々の意見を修正する必要がある。我々の結論は、承認された監査人の報告書の日付までに入手した監査証拠に基づいている。しかし、将来の事由または状況により、本銀行が継続企業として存続しなくなる可能性がある。
- 財務書類の全体的な表示、構成および内容(開示を含む。)ならびに財務書類が基礎となる取引および事由を適正に表示しているかを評価する。

我々は、ガバナンス担当者と、特に、計画した監査の範囲およびその実施時期ならびに監査上の重要な発見事項(監査の過程で我々が発見した内部統制の重要な不備を含む。)に関して協議する。

また、我々はガバナンス担当者に対し、独立性に関する関連する倫理上の義務を遵守している旨を書面で伝え、我々の独立性に影響を与えると合理的に考えられるすべての関係およびその他の事項、ならびに(該当する場合)脅威を排除するために取られた措置または適用された予防手段について伝達する。

我々は、ガバナンス担当者に伝達した事項のうち、当期の財務書類の監査上最も重要であった事項、すなわち監査上の主要な事項を決定する。我々は、法律または規則により当該事項の公表が認められない場合を除き、当該事項を当監査報告書に記載する。

## その他の法律および規制の要件に関する報告

我々は、2020年４月30日に取締役会によって、承認された監査人に任命され、これまでの更新および再任を含む我々の連続する監査契約期間は１年間である。

経営者報告書は、本財務書類と整合しており、適用される法的要件に従い作成されたものである。

我々は、EU規則第537/2014号で言及される禁止対象の非監査業務を提供しておらず、監査を行う上で我々が引き続き本銀行から独立していたことを確認する。

ルクセンブルグ、2021年３月19日

ビーディーオー オーディット、承認された監査法人  
代表者  
〔署名〕  
パトリック・テラッツィ

[次へ](#)

## REPORT OF THE REVISEUR D'ENTREPRISES AGREE

To the Board of Directors,  
Mitsubishi UFJ Investor Services & Banking (Luxembourg) S.A.  
287-289, Route d'Arlon  
L-1150 Luxembourg

Report on the audit of the annual accounts

### Opinion

We have audited the annual accounts of Mitsubishi UFJ Investor Services & Banking (Luxembourg) S.A. (the “Bank”), which comprise the balance sheet as at 31 December 2020, and the profit and loss account for the year then ended, and notes to the annual accounts, including a summary of significant accounting policies.

In our opinion, the accompanying annual accounts give a true and fair view of the financial position of the Bank as at 31 December 2020, and of the results of its operations for the year then ended in accordance with Luxembourg legal and regulatory requirements relating to the preparation and presentation of the annual accounts.

### Basis for Opinion

We conducted our audit in accordance with the EU Regulation N° 537/2014, the Law of 23 July 2016 on the audit profession ( “Law of 23 July 2016 ” ) and with International Standards on Auditing ( “ ISAs ” ) as adopted for Luxembourg by the “ Commission de Surveillance du Secteur Financier ” ( “ CSSF ” ). Our responsibilities under the EU Regulation No 537/2014, the law of 23 July 2016 and ISAs as adopted for Luxembourg by the CSSF are further described in the « Responsibilities of the “ réviseur d'entreprises agréé ” for the audit of the annual accounts » section of our report. We are also independent of the Bank in accordance with the International Code of Ethics for Professional Accountants, including International Independence Standards, issued by the International Ethics Standards Board for Accountants (IESBA Code) as adopted for Luxembourg by the CSSF together with the ethical requirements that are relevant to our audit of the annual accounts, and have fulfilled our other ethical responsibilities under those ethical requirements. We believe that the audit evidence we have obtained is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion.

### Key Audit Matters

Key audit matters are those matters that, in our professional judgment, were of most significance in our audit of the annual accounts of the current period. These matters were addressed in the context of the audit of the annual accounts as a whole, and in forming our opinion thereon, and we do not provide a separate opinion on these matters.

Revenue recognition - Commission receivable	
Why the matter was considered to be one of most significant in the audit	How the matter was addressed in the audit
<p>We refer to Summary of significant accounting policies - Note 2.14 - Revenue Recognition and Note 21 on Commission Receivable of the annual accounts.</p> <p>Commission receivable amounted to USD 145.574.882 as of 31 December 2020.</p> <p>Commission receivable mainly derive from fund administration, fiduciary and global custody operations.</p> <p>The applicable rates per each type of commission depend on the underlying assets under custody and administration, agreements and services provided.</p> <p>The recognition process of commission receivable includes manual intervention and it is considered to be a key audit matter due to the materiality of the related amounts, combined with the volume of transactions that are recorded.</p>	<p>We held interviews with Finance and Billing department and obtained an understanding of the commission receivable recognition process.</p> <p>We reviewed the design and implementation of the internal controls surrounding commission receivable, and tested operating effectiveness of the relevant related controls.</p> <p>We developed expectations for the aggregate amounts per type of commission income and we compared the expectations to the amounts recorded by the Bank.</p> <p>For a sample of the different types of commissions:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• we tested commission receivable by performing independent recalculation of the commissions. This also included the reconciliation of the fee terms to the underlying contracts and the underlying basis to external evidence;</li> <li>• we agreed the receipt of accrued commissions to payments subsequent year end.</li> </ul>

#### Other information

The Board of Directors is responsible for the other information. The other information comprises the information stated in the management report but does not include the annual accounts and our report of the “réviseur d'entreprises agréé” thereon.

Our opinion on the annual accounts does not cover the other information and we do not express any form of assurance conclusion thereon.

In connection with our audit of the annual accounts, our responsibility is to read the other information and, in doing so, consider whether the other information is materially inconsistent with the annual accounts or our knowledge obtained in the audit or otherwise appears to be materially misstated. If, based on the work we have performed, we conclude that there is a material misstatement of this other information, we are required to report this fact. We have nothing to report in this regard.

#### Responsibilities of the Board of Directors for the annual accounts

The Board of Directors is responsible for the preparation and fair presentation of these annual accounts in accordance with Luxembourg legal and regulatory requirements relating to the preparation and presentation of the annual accounts, and for such internal control as the Board of Directors determines is necessary to enable the preparation of annual accounts that are free from material misstatement, whether due to fraud or error.

In preparing the annual accounts, the Board of Directors is responsible for assessing Bank's ability to continue as a going concern, disclosing, as applicable, matters related to going concern and using the going concern basis of accounting unless the Board of Directors either intends to liquidate the Bank or to cease operations, or has no realistic alternative but to do so.

#### Responsibilities of the “réviseur d'entreprises agréé” for the audit of the annual accounts

Our objectives are to obtain reasonable assurance about whether the annual accounts as a whole are free from material misstatement, whether due to fraud or error, and to issue a report of the “réviseur d'entreprises agréé” that includes our opinion. Reasonable assurance is a high level of assurance, but is not a guarantee that an audit conducted in accordance with the EU Regulation N° 537/2014, the Law dated 23 July 2016 and with ISAs as adopted for Luxembourg by the CSSF will always detect a material misstatement when it exists.

Misstatements can arise from fraud or error and are considered material if, individually or in the aggregate, they could reasonably be expected to influence the economic decisions of users taken on the basis of these annual accounts.

As part of an audit in accordance with the EU Regulation N° 537/2014, the Law dated 23 July 2016 and with ISAs as adopted for Luxembourg by the CSSF, we exercise professional judgment and maintain professional skepticism throughout the audit. We also:

- Identify and assess the risks of material misstatement of the annual accounts, whether due to fraud or error, design and perform audit procedures responsive to those risks, and obtain audit evidence that is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion. The risk of not detecting a material misstatement resulting from fraud is higher than for one resulting from error, as fraud may involve collusion, forgery, intentional omissions, misrepresentations, or the override of internal control.
- Obtain an understanding of internal control relevant to the audit in order to design audit procedures that are appropriate in the circumstances, but not for the purpose of expressing an opinion on the effectiveness of the Bank's internal control.
- Evaluate the appropriateness of accounting policies used and the reasonableness of accounting estimates and related disclosures made by the Board of Directors.
- Conclude on the appropriateness of Board of Directors' use of the going concern basis of accounting and, based on the audit evidence obtained, whether a material uncertainty exists related to events or conditions that may cast significant doubt on the Bank's ability to continue as a going concern. If we conclude that a material uncertainty exists, we are required to draw attention in our report of the “réviseur d'entreprises agréé” to the related disclosures in the annual accounts or, if such disclosures are inadequate, to modify our opinion. Our conclusions are based on the audit evidence obtained up to the date of our report of the “réviseur d'entreprises agréé”. However, future events or conditions may cause the Bank to cease to continue as a going concern.
- Evaluate the overall presentation, structure and content of the annual accounts, including the disclosures, and whether the annual accounts represent the underlying transactions and events in a manner that achieves fair presentation.

We communicate with those charged with governance regarding, among other matters, the planned scope and timing of the audit and significant audit findings, including any significant deficiencies in internal control that we identify during our audit.

We also provide those charged with governance with a statement that we have complied with relevant ethical requirements regarding independence, and communicate to them all relationships and other matters that may reasonably be thought to bear on our independence, and where applicable, actions taken to eliminate threats or safeguards applied.

From the matters communicated with those charged with governance, we determine those matters that were of most significance in the audit of the annual accounts of the current period and are therefore the key audit matters. We describe these matters in our audit report unless law or regulation precludes public disclosure about the matter.

## Report on Other Legal and Regulatory Requirements

We have been appointed as réviseur d'entreprises agréé by the Board of Directors on 30 April 2020 and the duration of our uninterrupted engagement, including previous renewals and reappointments, is 1 year.

The management report is consistent with the annual accounts and has been prepared in accordance with applicable legal requirements.

We confirm that the prohibited non-audit services referred to in the EU Regulation N° 537/2014 were not provided and that we remained independent of the Bank in conducting the audit.

Luxembourg, 19 March 2021

BDO Audit  
Cabinet de révision agréé  
represented by

Patrick Terazzi

---

（注）上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は管理会社が別途保管している。